



ISSN 2185-6990

東北大学埋蔵文化財調査室調査報告 7
仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区
第 14 地点
第 1 分冊



仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第 14 地点 (BK14)
北西から仙台市街地を望む

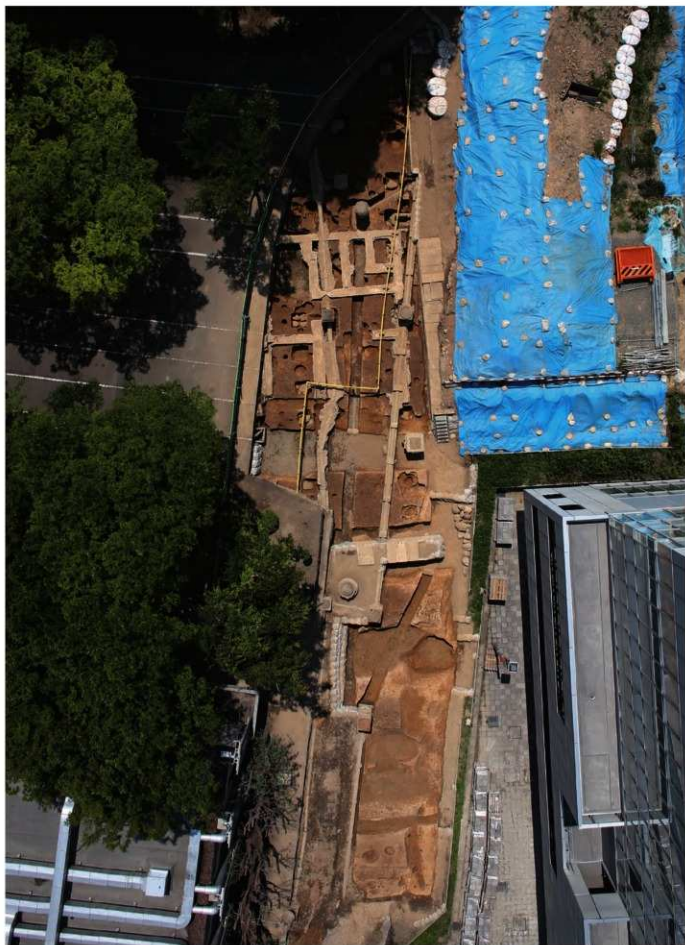
東北大学埋蔵文化財調査室

2019

東北大学埋蔵文化財調査室調査報告 7
仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区
第14地点
第1分冊



1. 1・2区の調査終了状況全景（右が北）



2. 5～7区の調査終了状況全景（右が北）

序

本報告書は、『東北大学埋蔵文化財調査室調査報告』の7冊目として、川内北キャンパスにおける川内駅前広場整備工事に伴い実施した、仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点の調査成果をまとめたものです。

今回報告する仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点の調査は、東日本大震災により調査着手が遅れ、他の調査現場と並行しながら時間をかけて実施したものです。今回の調査では、江戸時代の居住施設である建物跡のほかに、池跡や井戸跡等の生活空間を構成する様々な施設が発見されています。また、人々の生活の痕跡を示す出土遺物も、陶磁器をはじめ、漆器碗や食物残滓等の膨大な資料が発見されました。当時の生活環境を考える上で、貴重なデータが得られたものと思います。ただ、これら成果を一冊の報告書としてまとめるとなると、大部のものとなることが予想されたことから、今年度は遺構の事実記載を中心とした遺構編を刊行することとしました。来年度に、遺物編を刊行する予定です。

調査の実施から報告書の刊行まで、大学内外の関係機関の御協力を得て、滞りなく事業を進めることができました。ここに厚くお礼申し上げますとともに、本書で報告されるデータが各方面で活用されることを望むものです。

東北大学埋蔵文化財調査室

室長 藤澤 敦

例 言

1. 本調査報告は、東北大学構内において、東北大学埋蔵文化財調査室が2011・2012・2014・2015年度に行った仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点の調査成果のうち遺構をまとめたものである。遺物及び考察については、来年度刊行の「調査報告」8にて詳述する予定である。
2. 報告する遺跡と略号、調査期間、調査担当者は以下のとおりである。

遺跡と略号：仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区（BK14）
調査期間：本 体 2011年9月1日～2012年5月31日、2015年3月1日～7月6日
関連区 2015年7月22日～11月13日
調査面積：本体954㎡、関連区18.8㎡
調査担当者：菅野智則、柴田恵子、藤沢 敦（2011年度）、石橋 宏（2015年度）
3. 調査・整理作業は、東北大学埋蔵文化財調査室が行った。
4. 本報告の編集・執筆は、菅野智則・柴田恵子・石橋宏が担当した。執筆分担は下記のとおりである。

第I章 石橋
第II章2（5）以外、第三章、第四章 菅野
第II章2（5） 柴田
5. 英文要旨については、菅野智則・柴田恵子が作成した。
6. 本調査区名の正式な名称は、仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点であるが、本文中では省略して武家屋敷地区第14地点と表記する。
7. これまでに、本調査の概要は「年次報告」2011・2015、「平成27年度宮城県遺跡調査成果発表会」（宮城県考古学会主催、2017年12月12日開催）にて公表してきた。それらの内容より、本報告書の内容が優先する。
8. 発掘調査および整理・本報告書作成にあたっては、以下の方々や関係機関から御指導・御協力を賜った。記して感謝申しあげる（敬称略）。

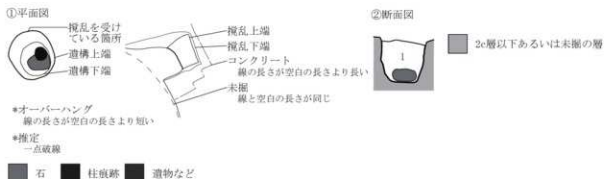
仙台市教育委員会、宮城県教育委員会、東北大学大学院文学研究科考古学研究室、
阿子鳥香・鹿又喜隆（東北大学）、佐藤源之（東北アジア研究センター）、田中則和
9. 出土遺物・調査記録は、東北大学埋蔵文化財調査室で保管・管理している。

凡 例

1. 図1・2の背景の元図は、国土地理院発行の1万分の1地形図〔青葉山〕を使用した。図3-1の空中写真は、太平洋戦争末期米軍撮影偵察写真（米国立公文書館所蔵、国土地理院提供）1945（昭和20）年5月24日撮影のものである。図3のほかの地形図と図4・5の絵図・地形図の出典は、それぞれに示した。また、図7で使用している川内北地区の地形測量図は、仙台市教育委員会作成の「仙台城跡地形図」（縮尺500分の1）を使用している。
2. 挿図・写真等の方位、縮尺等は、それぞれに示した。
3. 引用・参考文献は、巻末にまとめた。また、本文中で当室が刊行した報告書類を引用する際には、下記のように略した。

例 「東北大学理蔵文化財調査年報」 1 … 「年報」 1
「東北大学理蔵文化財調査室年次報告」 2008 … 「年次報告」 2008
「東北大学理蔵文化財調査報告」 1 … 「調査報告」 1

4. 元号と西暦の表記は、通常は「西暦（元号）年」（例えば「2015（平成27）年」）と表記する。ただし、その章で近世・近代が主体となる場合は、「元号（西暦）年」（例えば「天明6（1786）年」）と表記する。
5. 挿図中の表記は、特に指示しないものについては、以下の通りである。これら以外については、それぞれに表記している。



目次

巻頭カラー図版

序

例言

凡例

目次

図目次

表目次

写真図版目次

第Ⅰ章 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区の

立地と歴史…………… 1

1. 仙台城と周辺武家屋敷の立地…………… 1

2. 仙台城と仙台北下の武家屋敷…………… 1

(1) 仙台城の歴史…………… 1

(2) 仙台城周辺の武家屋敷の変遷…………… 5

(3) 調査区と屋敷地との対応…………… 7

3. 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区における

これまでの調査…………… 10

第Ⅱ章 調査の方法と経過…………… 17

1. 調査地点の位置と調査に至る経緯…………… 17

2. 調査の方法と経過…………… 17

(1) 発掘調査の経過…………… 17

(2) 記録方法…………… 20

(3) 遺構の名称について…………… 20

(4) 遺物の取り上げについて…………… 21

(5) 整理作業…………… 21

第Ⅲ章 基本層序と時期区分…………… 33

1. 基本層序…………… 33

2. 遺構の時期比定と段階区分…………… 41

3. 近代以降の様相…………… 42

第Ⅳ章 検出遺構…………… 45

1. 遺構の変遷…………… 45

2. 各時期の遺構…………… 45

(1) I期の遺構…………… 45

(2) I～IIb期の遺構…………… 64

(3) I～III期の遺構…………… 67

(4) IIa期の遺構…………… 73

(5) IIa～IIb期の遺構…………… 79

(6) IIb期の遺構…………… 79

(7) IIb～III期の遺構…………… 87

(8) III期の遺構…………… 87

(9) 時期不明の遺構…………… 98

(10) 関連区の遺構…………… 98

3. 小結…………… 102

引用・参考文献…………… 103

東北大学埋蔵文化財調査室刊行報告書一覧…………… 104

英文要旨…………… 106

写真図版…………… 107

報告書抄録

図目次

図1 仙台城周辺の地形区分図…………… 2

図2 仙台城と二の丸の位置…………… 3

図3 川内地区周辺の地形…………… 6

図4 川内地区周辺の絵図・地図(1)…………… 8

図5 川内地区周辺の絵図・地図(2)…………… 9

図6 武家屋敷地区第14地点周辺の武家屋敷の変遷…………… 12

図7 川内北地区調査地点…………… 18

図8 武家屋敷地区第14地点調査区配置図…………… 19

図9 武家屋敷地区第14地点1～4区の土層断面…………… 34

図10 武家屋敷地区第14地点5・6区の土層断面…………… 35

図11 武家屋敷地区第14地点7区の土層断面…………… 36

図12 武家屋敷地区第14地点関連区…………… 37

図13 武家屋敷地区第14地点関連区の土層断面(1)…………… 38

図14 武家屋敷地区第14地点関連区の土層断面(2)…………… 39

図15 武家屋敷地区第14地点掘削除去状況および層の分布…………… 40

図16 特徴的な土層…………… 41

図17 BG～BI区における遺構の変遷…………… 42

図18 近現代の建物基礎・防空壕…………… 43

図19 武家屋敷地区第14地点で確認した防空壕…………… 44

図20 1～6(西)区I期遺構配置図…………… 46

図21 6(東)・7区I期遺構配置図…………… 47

図22 I期の遺構(1)…………… 48

図23 I期の遺構(2)…………… 49

図24 I期の遺構(3)…………… 50

図25 I期の遺構(4)…………… 51

図26 I期の遺構(5)…………… 52

図27 I期の遺構(6)…………… 53

図28 I期の遺構(7)…………… 55

図29 I期の遺構(8)…………… 56

図30 I期の遺構(9)…………… 57

図31 I期の遺構(10)…………… 58

図32 I期の遺構(11)…………… 60

図33 I期の遺構(12)…………… 61

図34 I期の遺構(13)…………… 62

図35 I期の遺構(14)…………… 63

図36 I～IIb期の遺構(1)…………… 63

図37	I～IIb期の遺構(2)	65	図54	IIb期の遺構(3)	84
図38	I～IIb期の遺構(3)	66	図55	IIb期の遺構(4)	85
図39	I～III期の遺構(1)	68	図56	IIb～III期の遺構	86
図40	I～III期の遺構(2)	69	図57	1～6(西)区III期遺構配置図	88
図41	I～III期の遺構(3)	70	図58	6(東)・7区III期遺構配置図	89
図42	I～III期の遺構(4)	71	図59	III期の遺構(1)	90
図43	I～III期の遺構(5)	72	図60	III期の遺構(2)	91
図44	I～III期の遺構(6)	73	図61	III期の遺構(3)	92
図45	1～6(西)区IIa期遺構配置図	74	図62	III期の遺構(4)	93
図46	6(東)・7区IIa期遺構配置図	75	図63	III期の遺構(5)	94
図47	IIa期の遺構	76	図64	III期の遺構(6)	95
図48	IIa～IIb期の遺構(1)	77	図65	III期の遺構(7)	96
図49	IIa～IIb期の遺構(2)	78	図66	III期の遺構(8)	97
図50	1～6(西)区IIb期遺構配置図	80	図67	1～6(西)区時期不明遺構配置図	99
図51	6(東)・7区IIb期遺構配置図	81	図68	6(東)・7区時期不明遺構配置図	100
図52	IIb期の遺構(1)	82	図69	時期不明の遺構	101
図53	IIb期の遺構(2)	83			

表 目 次

表1	仙台藩の家格	11	表9	遺構属性表(2)	26
表2	武家屋敷地区第14地点関連絵図人名	11	表10	遺構属性表(3)	27
表3	仙台城と仙台城周辺武家屋敷の調査一覧(1)	15	表11	遺構属性表(4)	27
			表12	ビット一覧表(1)	28
表4	仙台城と仙台城周辺武家屋敷の調査一覧(2)	16	表13	ビット一覧表(2)	29
			表14	ビット一覧表(3)	30
表5	遺構名称対照表(1)	22	表15	ビット一覧表(4)	31
表6	遺構名称対照表(2)	23	表16	その他の遺構一覧表	32
表7	遺構名称対照表(3)	24	表17	遺構の時期と数	45
表8	遺構属性表(1)	25			

写 真 図 版 目 次

図版1	1・2区全景(1)	109	図版15	5～7区土層断面(3)	123
図版2	1・2区全景(2)	110	図版16	5～7区土層断面(4)	124
図版3	3区全景	111		・関連調査区全景・土層断面	124
図版4	4区全景	112	図版17	関連調査区全景・土層断面	125
図版5	5・6区全景	113	図版18	1・2区の建物・柱列	126
図版6	6区全景	114	図版19	1～5区の建物・柱列	127
図版7	7区全景(1)	115	図版20	5区の建物・柱列・I期の遺構(1)	128
図版8	7区全景(2)	116	図版21	I期の遺構(2)	129
図版9	5～7区全景	117	図版22	I期の遺構(3)	130
図版10	1～4区土層断面(1)	118	図版23	I期の遺構(4)	131
図版11	1～4区土層断面(2)	119	図版24	I期の遺構(5)	132
図版12	1～4区土層断面(3)	120	図版25	I期の遺構(6)	133
図版13	5～7区土層断面(1)	121	図版26	I期の遺構(7)	134
図版14	5～7区土層断面(2)	122	図版27	I期の遺構(8)	135

図版28	I期の遺構(9)	136	図版77	IIa期の遺構(3)・IIa～IIb期の遺構(1)	185
図版29	I期の遺構(10)	137	図版78	IIa～IIb期の遺構(2)	186
図版30	I期の遺構(11)	138	図版79	IIa～IIb期の遺構(3)・IIb期の遺構(1)	187
図版31	I期の遺構(12)	139	図版80	IIb期の遺構(2)	188
図版32	I期の遺構(13)	140	図版81	IIb期の遺構(3)	189
図版33	I期の遺構(14)	141	図版82	IIb期の遺構(4)	190
図版34	I期の遺構(15)	142	図版83	IIb期の遺構(5)	191
図版35	I期の遺構(16)	143	図版84	IIb期の遺構(6)	192
図版36	I期の遺構(17)	144	図版85	IIb期の遺構(7)	193
図版37	I期の遺構(18)	145	図版86	IIb～III期の遺構(1)	194
図版38	I期の遺構(19)	146	図版87	IIb～III期の遺構(2)	195
図版39	I期の遺構(20)	147	図版88	III期の遺構(1)	196
図版40	I期の遺構(21)	148	図版89	III期の遺構(2)	197
図版41	I期の遺構(22)	149	図版90	III期の遺構(3)	198
図版42	I期の遺構(23)	150	図版91	III期の遺構(4)	199
図版43	I期の遺構(24)	151	図版92	III期の遺構(5)	200
図版44	I～IIa期の遺構(1)	152	図版93	III期の遺構(6)	201
図版45	I～IIa期の遺構(2)	153	図版94	III期の遺構(7)	202
図版46	I～IIa期の遺構(3)・I～IIb期の遺構(1)	154	図版95	III期の遺構(8)	203
図版47	I～IIb期の遺構(2)	155	図版96	III期の遺構(9)	204
図版48	I～IIb期の遺構(3)	156	図版97	III期の遺構(10)	205
図版49	I～IIb期の遺構(4)	157	図版98	III期の遺構(11)	206
図版50	I～IIb期の遺構(5)	158	図版99	III期の遺構(12)	207
図版51	I～IIb期の遺構(6)	159	図版100	III期の遺構(13)	208
図版52	I～IIb期の遺構(7)	160	図版101	III期の遺構(14)	209
図版53	I～IIb期の遺構(8)	161	図版102	III期の遺構(15)	210
図版54	I～IIb期の遺構(9)	162	図版103	III期の遺構(16)	211
図版55	I～IIb期の遺構(10)	163	図版104	III期の遺構(17)	212
図版56	I～IIb期の遺構(11)	164	図版105	III期の遺構(18)	213
図版57	I～IIb期の遺構(12)	165	図版106	III期の遺構(19)	214
図版58	I～IIb期の遺構(13)	166	図版107	III期の遺構(20)	215
図版59	I～IIb期の遺構(14)	167	図版108	III期の遺構(21)・時期不明の遺構(1)	216
図版60	I～III期の遺構(1)	168	図版109	時期不明の遺構(2)	217
図版61	I～III期の遺構(2)	169	図版110	時期不明の遺構(3)	218
図版62	I～III期の遺構(3)	170	図版111	時期不明の遺構(4)	219
図版63	I～III期の遺構(4)	171	図版112	時期不明の遺構(5)	220
図版64	I～III期の遺構(5)	172	図版113	時期不明の遺構(6)	221
図版65	I～III期の遺構(6)	173	図版114	時期不明の遺構(7)	222
図版66	I～III期の遺構(7)	174	図版115	時期不明の遺構(8)	223
図版67	I～III期の遺構(8)	175	図版116	時期不明の遺構(9)	224
図版68	I～III期の遺構(9)	176	図版117	時期不明の遺構(10)	225
図版69	I～III期の遺構(10)	177	図版118	時期不明の遺構(11)	226
図版70	I～III期の遺構(11)	178	図版119	時期不明の遺構(12)	227
図版71	I～III期の遺構(12)	179	図版120	時期不明の遺構(13)	228
図版72	I～III期の遺構(13)	180	図版121	時期不明の遺構(14)	229
図版73	I～III期の遺構(14)	181	図版122	時期不明の遺構(15)	230
図版74	I～III期の遺構(15)	182			
図版75	IIa期の遺構(1)	183			
図版76	IIa期の遺構(2)	184			

第1章 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区の立地と歴史

1. 仙台城と周辺武家屋敷の立地

仙台平野は、宮城県ほぼ中央部に位置し、西は奥羽脊梁山脈とそこから派生する丘陵地帯に接し、東は仙台湾に開いた平野である。狭義では、北は仙台市域北部の丘陵地帯、南は阿武隈川によって区切られる範囲を指す。仙台平野には、奥羽脊梁山脈に源を発した河川が西から東へ流下している。北から七北田川、広瀬川、名取川である。この中の広瀬川は、丘陵地帯を抜けて仙台平野に入ると、青葉山などの丘陵地の北東麓を流下し、やがて名取川に合流し、太平洋にそそいでいる。この広瀬川の兩岸には、河岸段丘が発達している。河岸段丘は、高位から台ノ原段丘・上町段丘・中町段丘・下町段丘と分けられており、河岸段丘の間は段丘崖となっている。

仙台城は、宮城県仙台市青葉区川内および荒巻に所在する。現在の仙台市街地中心部から、広瀬川を西に渡った川内・青葉山地区に位置しており、市街地西部に張り出す青葉山丘陵の東縁辺と、その裾に広がる河岸段丘上に立地している（図1）。広瀬川が青葉山などの丘陵地の北東麓を流下しているため、広瀬川の南西側にあたる川内地区の河岸段丘はさほど広くない。一方、広瀬川の北東側には、広い河岸段丘面が連なっており、その東縁は活断層である長町-利府線によって画され、沖積平野に接している。仙台城下のほとんどの範囲は、この広瀬川北東側の河岸段丘上に位置している。現在の仙台市街地中心部も、この広瀬川の河岸段丘上に立地する。

仙台城の構成は、大きく本丸・二の丸・三の丸（東丸）に分かれる（図2）。本丸は広瀬川と竜の口溪谷に囲まれた標高115~138mの、青葉山の高位段丘面（青葉山Ⅲ面）に立地している（図1）。本丸の北西側に二の丸が、北東側に三の丸が配置されているが、本丸だけは一段高い高位段丘面に位置している。本丸の東側は、60m以上の断崖となっている。現在の広瀬川は、本丸の立地する丘陵からやや離れたところを流れている。しかし江戸時代には、広瀬川は大きく蛇行して、本丸東側の崖下までせまっていた。本丸の南側は、広瀬川の支流である竜の口溪谷の急崖で画されている。本丸は防衛を重視し、このような急峻な地形を利用して造られている。

本丸の北側に広がる川内地区は、広瀬川によって形成された河岸段丘の中の、上町段丘面・中町段丘面・下町段丘面にあたる。二の丸は標高54~71mの上町段丘面に、三の丸は標高40m前後の下町段丘面に立地する。周辺の武家屋敷も、西側の標高の高い部分から広瀬川に向かって順に、上町段丘面・中町段丘面・下町段丘面に立地する。東北大学の川内北地区は、東側の一段低いグラウンド部分が中町段丘面にあたり、それ以外の区域は上町段丘面に相当する。

これらの河岸段丘を開析しつつ、広瀬川の支流が、西から東へ流れている。これらの支流のひとつである千貫沢が、二の丸の北側を流れており、千貫沢をはさんで南側に二の丸地区、北側に二の丸北方武家屋敷地区となる。千貫沢は、標高差の大きい河岸段丘を横切る形で流下していることから、これらの段丘面を深く切り込んでいる。二の丸裏門から北に延びる道路が千貫沢を渡るところに造られた千貫橋付近では、段丘面の標高が57m程度、千貫沢の沢筋の標高は46m程度である。千貫橋付近の段丘面と千貫沢の標高差は11mあまりになり、深く急峻な沢筋となっている。大橋付近を流れる広瀬川の河原の標高は22m程度で、千貫橋付近の段丘面との標高差は、およそ35mとなる。また大手門の北側にも沢筋が残っており、仙台城の造営によって改変されていると思われるが、本来は急峻な沢筋であったと考えられる。

2. 仙台城と仙台城下の武家屋敷

(1) 仙台城の歴史

仙台城は、1600（慶長5）年から、仙台藩初代藩主である伊達政宗によって築城が開始された近世城郭である。その後、幾たびかの改変を受けつつ、幕末まで仙台藩の中核として機能していく。この仙台城は、本丸と二の丸の一部を除き、2003（平成15）年に国史跡に部分指定されている。

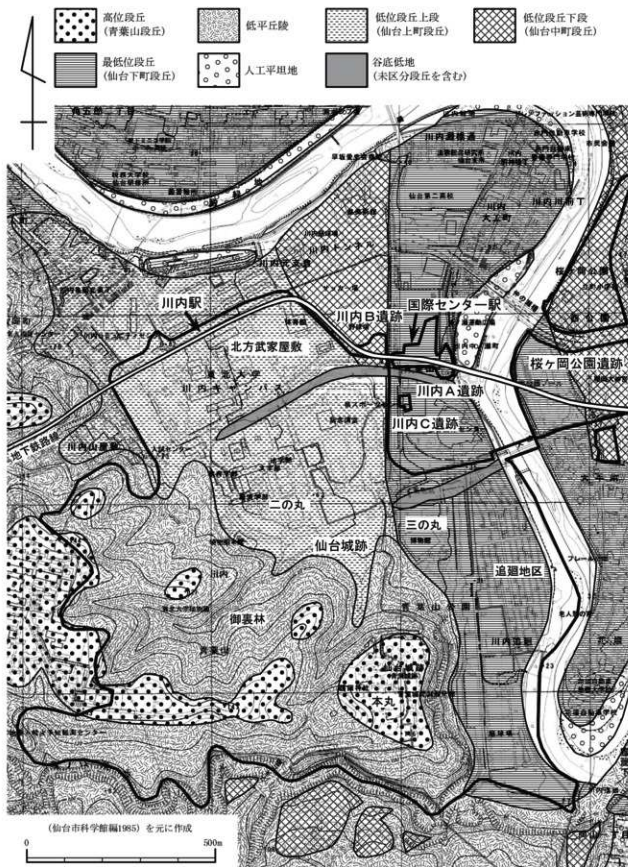


図1 仙台城周辺の地形区分図

Fig.1 Topographical map around Sendai Castle

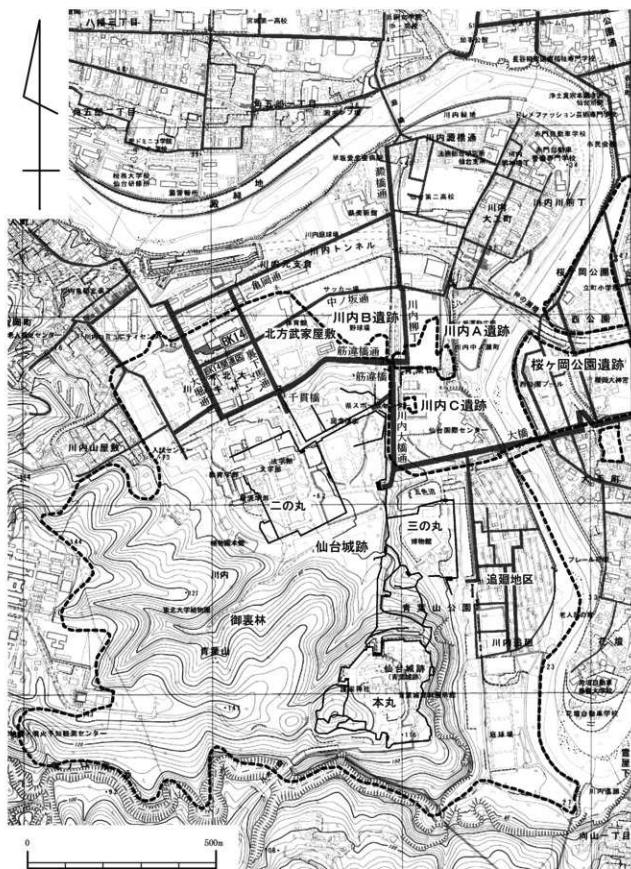


図2 仙台城と二の丸の位置
 Fig. 2 Distribution of Sendai Castle

この伊達政宗による築城以前には、国分氏の千代城が存在したことが知られていたが、その実態は不明なままであった。1998（平成10）年の仙台市教育委員会による本丸石垣修復工事に伴う調査の際に、虎口・壘堀・平場・通路などの遺構が検出され、初めて国分氏の千代城の遺構の一端が明らかとなった（金森・渡部2009）。千代城は、文献記録や発掘調査成果の検討から、築城期は不明であるが、16世紀末の天正（1573-1592）年間頃に廃絶されたと考えられている。

伊達政宗によって造営された仙台城の本丸は、1602（慶長7）年には、土木工事にあたる普請がほぼ完成していたと考えられる。各種の殿舎建築は継続中であつたと思われ、本丸の中心建物となる「大広間」は、1610（慶長15）年に完成したとされる。築城時に、本丸北側には石垣が築かれるが、石垣修復に伴う発掘調査によって、3時期に渡る変遷が明らかとなった。築城期のⅠ期石垣は、1616（元和2）年の地震で大きな被害を受け、Ⅱ期石垣が築かれる。Ⅱ期石垣も、1668（寛文8）年の地震で大きく崩壊し、現存するⅢ期石垣が造られたことが明らかとなっている（金森・渡部2009）。

仙台城が築城された時点で、本丸以外の施設を含めた仙台城の全体像は、必ずしも明らかではない。

後に三の丸（東丸）とされる区域では、仙台市教育委員会による発掘調査によって、政宗時代の茶室や四阿の可能性のある建物跡などが発見されている。池跡も検出されており、庭園が伴うものと推定されている（佐藤ほか1985）。本丸に付随した施設として、整備が進められていたと考えられる。

この段階では、二の丸は造られておらず、後に二の丸が造られる場所には、政宗の四男である伊達宗泰の屋敷があつたとの伝承がある。しかし、この伝承を検証できる資料はない。本丸の築造が進められた慶長（1596-1615）年間には、伊達宗泰は元服前の幼少期であり、この時期に伊達宗泰の屋敷が置かれていたと想定することは難しい。伊達宗泰の屋敷が置かれていたとしても、本丸築城期より遅れる可能性もある。また、他の重臣の屋敷が置かれていた可能性を示す史料もある。文献史料に残されていない、これら以外の屋敷が置かれた可能性も検討していく必要がある。いずれにせよ、二の丸地区第9地点（NM9）などの発掘調査では、江戸時代初頭に遡る遺構が検出されており、本丸築城期から、何らかの施設が置かれていたことは確実である（『年報』8・9）。

1620（元和6）年には、伝伊達宗泰屋敷の北側に、政宗の長女五郎八（いろは）姫の居館である「西屋敷」が造られる。五郎八姫は、伊達政宗の正室愛姫との間に生まれた長女で、1599（慶長4）年に徳川家康の六男忠輝と婚約し、1606（慶長11）年に輿入れする。しかし、1616（元和2）年に忠輝が、大阪夏の陣の際の遅参・怠戦と、家臣による旗本殺害に対する不謝罪を理由に改易され、伊勢国に配流されると、五郎八姫は政宗の江戸屋敷へ帰され、さらに1620（元和6）年には仙台に移ることとなった。この五郎八姫の、仙台における居所として造られたのが「西屋敷」である。1645（正保2）年の『奥州仙台城絵図』（正保絵図）に描かれており、東西102間、南北60間であったことが記されている。東側に門が描かれ、東向きに屋敷であったことが判る。二の丸地区第5地点（NM5）の調査では、西屋敷期の礎石建物跡などが発見されており、その西側に複雑な形態の池が連なる庭園が広がっていたことが判明している（『年報』6・7）。

伊達政宗は、1627（寛永4）年、仙台下の南東側にあたる現在の仙台市若林区古城において、若林城を造営する。「仙台屋敷構」として幕府の許可を得たものであるが、周囲に堀と土塁をめぐらした城郭である。1628（寛永5）年に若林城が完成すると、政宗は国元では若林城を居城とし、仙台城に滞在するのは、儀式など特別な場合に限られるようになる。対照的に、後の二代藩主伊達忠宗は、国元では仙台城に滞在していた。この若林城の建物が、後の二の丸造営の際に、移築されていることが仙台北藩の公式記録である「義山公治家記録」（巻之二、平福1974）に記されている。若林城跡の第5次調査と第8次調査で調査された1号建物跡が、仙台城二の丸を描いた『御二之丸御指図』に見られる「大台所」と一致することなどが明らかとなり、若林城の建物を仙台城二の丸に移築したという文献記録を裏付けることとなった（佐藤ほか2008・2010）。

伊達政宗は1636（寛永13）年に死去し、伊達忠宗が二代藩主となる。忠宗は、1638（寛永15）年に、伝伊達宗

泰の屋敷跡に二の丸を造営する。二の丸が造られると、仙台藩の政治・諸儀式のほとんどは二の丸で行われるようになり、藩主の居所も二の丸へ移る。これ以降、二の丸が仙台城の実質的な中枢となり、この状態は幕末まで維持されていくこととなる。二の丸の造営とはほぼ同じ頃に、三の丸（東丸）には、米蔵が置かれるようになったと考えられる。

1638（寛永15）年に二の丸が造営された時点では、五郎八郎の「西屋敷」が、二の丸の北隣に存続していた。五郎八郎が1661（寛文元）年に死去すると、もとの「西屋敷」は「天麟院様元御屋敷」と呼ばれ、蔵や作業所など、二の丸に附属する実務的な施設が置かれるように変化する。

17世紀末から18世紀初頭の元禄年間には、四代藩主伊達綱村によって、二の丸は大改造が施される。その際、もとの「西屋敷」の敷地は二の丸に取り込まれ、中奥がもとの「西屋敷」の範囲に大きく拡張された。仙台城では、藩主と側室の居住の場を「中奥」と呼んでいた。この改造によって、仙台城は完成した姿を迎えた。二の丸は、1804（文化元）年の火災でほぼ全焼する被害を受けつつも、従来通り再建され、幕末まで仙台城の中枢として維持されていく。

明治維新による新政府の成立と幕藩体制の崩壊により、仙台城も大きく変化する。仙台藩は奥羽越列藩同盟の中心として新政府に対抗するが、相次ぐ軍事的敗北の中で同盟は瓦解する。仙台藩は1868（慶応4・明治元）年9月に新政府に降伏謝罪し、12月には領地・領民をいったん取り上げられた上で、28万石を新たに拝領し存続が許された。1869（明治2）年の版籍奉還により、藩主伊達宗基が仙台藩知藩事となり、二の丸には藩の統治機関たる勤政庁が置かれた。1871（明治4）年の廃藩置県後は、仙台城が明治政府の管轄下に移り、二の丸には東北鎮台（後に仙台鎮台）が置かれる。本丸の建物は、明治の早い時期に取り壊されるが、二の丸の建物は鎮台本営として引き続き利用された。しかし1882（明治15）年の火災で、二の丸建物のほとんどが焼失してしまう。そして1886（明治19）年には仙台鎮台から陸軍第二師団に改称され、1888（明治21）年には正式に師団常備軍制度が施行され、敗戦まで続くこととなる。二の丸跡には師団司令部が置かれ、三の丸跡には陸軍倉庫が置かれていた。本丸跡には、1904（明治37）年に仙台招魂社（後の護国神社）が建てられ、戦没者を祀る場所へと変わる。1905（明治38）年には地形図が作成されている（図3-2）。今回報告する調査区近辺である川内北キャンパスは、「歩兵第二十九連隊営」と記載されており、方形に大規模な建物が建てられていたことがわかる。

1945（昭和20）年7月21日の仙台空襲の際には、仙台城の建物として最後まで残っていた大手門・脇櫓と巽門、師団の建物等消失もする（図3-3）。図3-1に、1945（昭和20）年5月24日に米軍によって撮影された空撮写真を示した。この写真には、師団司令部を始め、第二師団の建物が明瞭に写されている。仙台空襲は、このような情報収集が念入りに行われた後に実施された。第二次大戦敗戦後は、二の丸跡をはじめとする川内地区のかつての軍用地が、米軍の駐屯地であるキャンプ・センダイとなる（図3-4）。そして、1957（昭和32）年に米軍からの返還を受け、二の丸地区のほとんどは東北大学が使用し、一部は仙台市の公園となった（図3-5）。その後、大学による開発が進められているが、現在の道路などの区割りは、米軍期に造成されたものとはほぼ同じである。

（2）仙台城周辺の武家屋敷の変遷

仙台城下は、仙台城の造営と併行して、その建設が進められる。1601（慶長6）年正月11日に、仙台城の普請始めが行われ、同じ日に「御城下地形ノ絵図を以テ諸士等ノ屋敷割御付付ラル。」との記録が残されている（『貞山公治家記録』巻之二十一、平編1973）。この時以降、城下の建設が進められていったものと考えられる。江戸時代の地誌である『仙台萩（阿刀田1930）』には、1602（慶長7）年「二月朔日より五月五日までに、総て侍は不及中、町人等迄、不残玉造郡岩手山の城より御在府を被移、薨をならべ城府繁昌す」と記されている。その戸数などは不明ながら、家臣団や町方をはじめ多数が移住したと見られている。仙台城下の範囲は、その後徐々に拡



1. 川内地区周辺地形空撮 (1945(昭和20)年5月24日撮影)



2. 川内地区周辺地形図①
(1905(明治38)年測量『仙臺南部』)



3. 川内地区周辺地形図②
(1946(昭和21)年修正『仙台西北部』)



4. 川内地区周辺地形図③
(1953(昭和28)年測量『仙台首部』)



5. 川内地区周辺地形図④
(2007(平成19)年修正『青葉山』)

2~5:S=1/25,000

図3 川内地区周辺の地形

Fig.3 Topographical map around Kawauchi campus

大し、それに伴い再配置が行われる場合もあったが、基本的な構成は踏襲される。川内地区は、一部の寺社と職人屋敷を除くと、侍屋敷として使われていた。

仙台北城下の様相を知ることができる基本的な資料は、城下絵図である。これらの城下絵図には、年代が近接するものもあるため、時期による変遷が判るように選択して、川内北地区周辺の部分を示したのが、図4・5である。道路の変化を見るため、明治時代の地図についても、併せて示しておいた。

仙台北城下を描いた城下絵図で最も古い絵図は、1645（正保2）年の『奥州仙台北城絵図』である（図4-1）。これは幕府提出用絵図のため、細かな屋敷割は記されていないが、仙台北城の周辺には「侍屋敷」と記されており、この時点では武家屋敷が広がっていることが判る。これまでの川内北地区での調査でも、各所で江戸時代初頭に遡る遺構や遺物が発見されており、この区域では江戸時代初頭から屋敷地が整備されていったものと考えられる。

この正保絵図以降の藩政用絵図には、屋敷割が記され、人名が書き込まれたものが多くある。川内地区においては、大手門の周囲などに最も上級の家臣の屋敷が置かれ、それ以外の区域にも上級家臣の屋敷が多い。東北大学の川内北地区も、比較的上級の家臣の屋敷が置かれていた。川内地区全体の屋敷の様相については、『調査報告』1において、城下絵図をもとにした検討結果を掲載しているため、詳細はそちらを参照していただきたい。

仙台北城下絵図で、川内地区の道路の位置を見ると、正保絵図（図4-1）以降、1882（明治15）年の地図（図5-13）に至るまで、大きくは変化がないことが判る（『調査報告』1）。

二の丸と北方武家屋敷との境には、千貫沢とそれを広げた堀がある。この千貫沢や堀沿いに「筋違橋通」が東西に走っているが、それより北側には東西方向の道路としては「中ノ坂通」と「亀岡通」の2本がある。ところが現在は、千貫沢沿いの道路の北側には、東西方向の道路は1本だけである。現在のような道路は1893（明治26）年の地図（図5-14）において、初めて見られるようになる。これと同時に、大手門から北側へ延びる道路も変更されている。大手門前から北へ延びる道路は、もともとは、千貫沢を渡る筋違橋の北側で鉤の手状に屈曲していたが、この時にまっすぐ北へ延びる道路へ変わっている。同様に、広瀬川を渡る大橋から大手門へいたる道路も、もとは大手門手前で屈曲していたのが、大橋からまっすぐ延びる形に変わっている。1889（明治22）年の広瀬川の洪水によって木橋であった大橋が流失し、第二師団の要請で鉄橋が架けられることとなり、1892（明治25）年に竣工した際に、大橋から大手門へ至る道路が直線になった。川内北地区の道路がつけ替えられたのが、大橋鉄橋架橋と同時にどうかは確認できていないが、1888（明治21）年の第二師団の設置以降、一連の過程で川内地区の整備が進められていったものと考えて良いであろう。

明治時代の地図も、初期のものは、全てを正確に測量して作成されたものではない。ある程度信頼が置けるものは、1893（明治26）年の地図以降であるが、この段階では川内北地区周辺の道路は、変更された後である。変更以前の道路を正確に測量した地図は、確認できていない。したがって、絵図や明治時代初期の地図をもとに、江戸時代の道路を正確に復元することは難しい。南北方向の道路については、ある程度復元根拠がある。しかし東西方向の道路である「中ノ坂通」と「亀岡通」については、復元根拠を欠いており、正確な位置を復元することは難しい。このような限界を踏まえて、図2では、これまでの調査・検討の成果から、江戸時代の道路の位置を、現在の地図上に推定復元している。

千貫沢の北側を東西に走るのが「筋違橋通」である。その北側を東西に走るのが「中ノ坂通」と「亀岡通」である。二の丸裏門である台所門を出て、千貫沢を渡って北に延びる道路が「裏下馬通」で、それとはほぼ並行して西側にあるのが「大堀通」である。筋違橋から北へ延び「中ノ坂通」に至るのが「川内柳丁」、さらに北へ延び、澁橋へ至るのが「澁橋通」である。

（3）調査区と屋敷地との対応

仙台北藩の家格は、家格の高い順から、一門・一家・準一家・一族・宿老・着座・太刀上・召出・平士・組士・



1. 正保2(1645)年 奥州仙台城絵図



2. 寛文4(1664)年 仙台城下絵図



3. 寛文8・9(1668・69)年 仙台城下絵図



4. 延宝6~8(1678~80)年 仙台城下大絵図



5. 延宝9~天和3(1681~83)年 仙台城下絵図



6. 元禄4・5(1691・92)年 仙台城下五疊卦絵図



7. 享保9(1724)年以降 仙台城下絵図

- 1・2・6 (小林監修1994)
 3・4 (阿刀田1976: 第2版)
 5・7 (吉岡編2005)

図4 川内地区周辺の絵図・地図(1)
 Fig.4 Picture maps around the Kawauchi area(1)



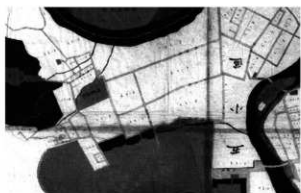
8. 宝暦10~明和3(1760~66)年 仙台城下絵図



9. 天明6~寛政元(1786~89)年 仙台城下絵図



10. 安政3~6(1856~59)年 安政補正改革仙台府絵図



11. 明治8(1875)年 宮城郡仙台町地引図



12. 明治13(1880)年 宮城県仙台区全国



13. 明治15(1882)年 仙台区及近傍村落之図



14. 明治26(1893)年 仙台市測量全国

9・10・14 (小林監修1994)
8・11~13(吉岡編2005)

図5 川内地区周辺の絵図・地図(2)
Fig. 5 Picture maps around the Kawauchi area (2)

卒というように分けられていた(表1)。平土は、仙台藩家臣団の主力を構成した家臣で、多くは大番組に属する大番士であった。平土(大番士)は、登城した際に控える部屋の名前をとって、上位から虎の間番士・中の間番士・次の間番士・広間番士に分けられた。組士と卒が下級藩士となる。なお仙台藩では、生産高や知行高を、一般的な石高ではなく、戦国時代以来の貫高で表示していた。貫高と石高の換算は、寛永検地を経て、1貫(1000文)を10石に換算するように定められた。寛永検地以前の換算については、いくつかの説がある。ただし、ここで検討材料とする屋敷拝領者が記載されている藩政用絵図が、寛文4(1664)年以降のものしか存在せず、全て寛永検地より新しい時期のものとなるので、1貫を10石と換算すれば良いこととなる。

今回報告する武家屋敷地区第14地点(BK14)は、絵図との対応を図ると「中ノ坂通」と「大堀通」の交差点の東側に位置する(図2)。この場所は、「裏下馬通」と「大堀通」に東西を画され、北側は「亀岡通」、南側は「中ノ坂通」に画された方形区画の南西付近にあたる。絵図ではこの方形区画は中央で大きく東西に2分され、さらに2分された区画は南北で2ないし3区画に区分して屋敷地として使用されている(図6)。本調査区は、西半部と東半部の南側の屋敷地に該当すると推測され、さらにその北側の屋敷地もまたいえる可能性がある。

本調査区は、北側を武家屋敷地区第7地点(「年報」19)と高速鉄道地下鉄東西線に伴う仙台市教育委員会の調査区(主簿ほか2011a)に接しており、この方形区画の大部分が該当する。渋谷(2011)の成果を元に、この区画を使用していた人名を城下絵図から拾い出し、これらの家臣の禄高や家格について整理した(図6、表2)。

西半部南側の屋敷地は、寛文4(1664)年の「佐藤三太夫」、寛文8・9(1668・1669)年の「伊藤三太夫」と変遷し、延宝6～天和3(1678～1683)年の絵図では、召出で禄高36貫文の「宮内権六」、元禄4・5(1691・1692)年は虎間藩士で禄高33貫313文の「浜田平十郎」、その後「小嶋藏人」と変遷し、宝暦10～明和3(1760～1766)年と天明6～寛政元(1786～1789)年には虎間藩士で禄高30貫文の「市川三右衛門」「市川三治」の市川姓の一族に利用され、安政3～6(1856～1859)年の「高城兼二郎」となる。

西半部中間の屋敷地は、寛文4(1664)年から天和3(1683)年の絵図には、格式不明ながら禄高48貫612文の「中村伊右衛門」が確認され、宝暦10～明和3(1760～1766)年に虎間藩士で禄高60貫文の矢野善三郎、安政3～6(1856～1859)年に着座で禄高161貫428文の「和田常之丞」など、上級の家臣も利用している。

東半部南側は、当初記載がなく、延宝6～8(1678～1680)年に「明屋敷」、延宝9～天和3(1681～1683)年に「月畔和高」、元禄4・5(1691・1692)年は再び記載がなく、享保9(1724)年以後西側と東側に区画され、西側は特に宝暦10～明和3(1760～1766)年に次間藩士で禄高7貫200文の「志茂伝之助」、安政3～6(1856～1859)年に虎間藩士で禄高300俵の「喜多山大吉」が屋敷地として利用している。東側はさらに南北に細分され、北側は特に宝暦10～明和3(1760～1766)年と天明6～寛政元(1786～1789)年に内科医で禄高35貫文の「松井元亮」の屋敷地として利用される。南側は享保9(1724)年に虎間藩士で禄高30貫文の「高橋文之進」に、天明6～寛政元(1786～1789)年に広間藩士で禄高7貫47文の「藤間仲佐衛門」に屋敷地として利用され、安政3～6(1856～1859)年には南北の区画は統合され、門閥子弟の講学所である「小学校」となる。

このように調査地点がある区画は、17世紀以降30貫文以上の虎間藩士を中心に屋敷地として利用される。18世紀以降は屋敷地が小さく区分され、より家格や俸禄の低い下の家臣も、この場所に屋敷を拝領している。

3. 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区におけるこれまでの調査

仙台城の考古学的調査は、本丸・二の丸・三の丸などの各地区において実施されている(表3・4、報告書等がある場合は表に記載した)。二の丸地区については、東北大学の施設整備事業などに先立ち、東北大学によって調査が実施されてきた。三の丸地区では、仙台市博物館の建て替えに伴い、仙台市教育委員会による調査が実施されている。本丸地区では、石垣修復工事に伴う仙台市教育委員会による調査が、1997(平成9)年から実施され、多大な成果をあげるとともに、史跡指定への直接的な契機となった。2001(平成13)年度からは、文化庁

表1 仙台湾の家格
Tab.1 List of status in Sendai-han

家格	人数	備考
一門	11	角田石川氏・亘理伊達氏・水沢伊達氏・涌谷伊達氏・登米伊達氏・岩谷堂伊達氏・岩出山伊達氏・宮体伊達氏・川崎伊達氏・白西氏・三沢氏
一家	17	鮎貝・秋保・柴田・小柴田・塩森・大森・泉田・村田・黒木・石母田・瀬上・中村・石川・中目・亘理・梁川・片倉
準一家	10	猪苗代・天童・松前・葦名・本宮・高泉・葛西・上遠野・保土原・福原
一族	22	大立目・大町(胆沢郡)・大塚・大内・西大森・小原・西大立目・中島(江刺郡)・宮内・中島(伊具郡)・茂庭・遠藤・佐藤・高木・高平・下郡山・沼辺・大町(宮城郡)・高城・大松沢・石母田・坂
宿老	3	着座のうち一番座の三家(遠藤・但木・後藤)
着座	28	正月等の儀式で登城し着座して藩主に挨拶する家臣
太刀上	10	正月賀礼に太刀を献上し藩主から金を頂戴する家柄
召出一番座	38	正月宴会に召し出される家柄
召出二番座	51	正月宴会に召し出される家柄
平士(1000石以上)	6	
平士(500石以上)	68	
平士(100石以上)	994	
合計	1258	

表2 武家屋敷地区第14地点関連絵図人名
Tab.2 List of names of samurai lived at this location

年代 (西暦)	国	西平部				東平部				
		北		中	南	北		南		
		西側	東側			西側	東側	西側	東側	
寛文4年 (1664年)	図6-1	無		中村伊右衛門 (48貫文612文)	佐藤三太夫	青木掃部 (召出 36貫文)		無		
寛文8・9年 (1668・1669年)	図6-2	無		伊藤三太夫 (3兩2匁4人)		青木掃部 (召出 36貫文)		無		
延宝6~8年 (1678~1680年)	図6-3	白石七十郎 (6兩4人)		中村伊右衛門 (48貫文)	宮内権六 (召出 36貫文)	山崎平太左衛門 (虎開 108貫文)		明屋敷		
延宝9年~天和3年 (1681~1683年)	図6-4	白石七右衛門 (虎開 20貫文)		中村伊右衛門 (48貫文)	宮内権六 (召出 36貫文)	山崎平太左衛門 (虎開 108貫文)		月畔和尚		
元禄4・5年 (1691・1692年)	図6-5	無	渋谷権七郎 (中間 15貫 940文)	木橋修理	浜田平十郎 (虎開 33貫313文)	大河内源大夫 (召出 90貫文)		無		
享保9年以降 (1724年~)	図6-6	渡辺伝五郎		氏家養順	小嶋藏人	黒沢 武之助	大和田 源之助	新田秀哲	高橋丈之進 (虎開 30貫 文)	岡元友閑
宝暦10年~明和3年 (1760~1766年)	図6-7	横沢軍蔵 (虎開 30貫文)		イトウ左太夫	矢野善三郎 (虎開 60貫文)	市川三右衛門 (虎開 30貫文)	堂場南覚	志茂伝之助 (次開 7貫 200文)	小原周伯	松井元亮 (内科医 35貫文)
天明6年~寛政元年 (1786~1789年)	図6-8	相田内記 (着座 161貫428文)		無	市川三治 (虎開 30貫文)	小原勘解由 (一族 50貫文)		芳賀哲人	藤間 仲左衛門 (止開 7貫 47文)	松井元亮 (内科医 35貫文)
安政3~6年 (1856~1859年)	図6-9	相田常之丞 (着座 161貫428文)		無	高城兼二郎	久貴平八郎 (虎開 64貫文)	喜多山大吉 (虎開 300俵)	小学校		

※漢字は原則として常用漢字を用い、変体仮名・合子などは通常の仮名に改めた。



1. 寛文4 (1664)年



2. 寛文8・9 (1668・69)年



3. 延宝6~8 (1678~80)年



4. 延宝9~天和3 (1681~83)年



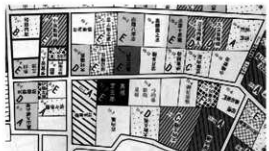
5. 元禄4・5 (1691・92)年



6. 享保9 (1724)年



7. 宝暦10~明和3 (1760~66)年



8. 天明6~寛政元 (1786~89)年



9. 安政3~6 (1856~59)年

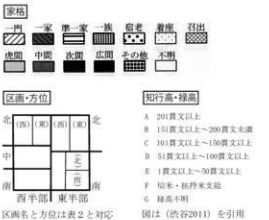


図6 武家屋敷地区第14地点周辺の武家屋敷の変遷
 Fig.6 The change of the samurai residences around BK14

の国庫補助を受けた遺構確認調査が仙台市教育委員会によって開始されている。

1978（昭和53）年度、川内北地区のプール西側の排水管理設工事の際、石組の井戸などが発見された。この時、東北大学の文学部考古学研究室によって緊急の調査が行われたのが、仙台城跡の二の丸北方武家屋敷地区における最初の考古学的調査であった。しかしこの時は、既に掘削が実施された後に、露出した遺構の記録を作成する緊急の調査であったため、ごく部分的な調査にとどまらざるをえなかった。この時には、川内北地区は周知の遺跡の範囲内ではなく、新たに周知の遺跡として登録する措置もとられていない。

東北大学に埋蔵文化財調査委員会が1983（昭和58）年に設置され、構内遺跡の組織的な調査が開始されると、川内北地区についても遺跡が広がっている可能性に配慮し、必要な措置がとられるようになった。すなわち、施設建設が計画されている場所については試掘調査を行うとともに、営繕工事に際しては、立会調査を実施してきた。その結果、いくつかの調査において、江戸時代の遺構面が残存していることが明らかとなってきた。また、1986（昭和61）年度に調査を実施した二の丸地区第8地点（NM8）は、二の丸北側に東西に延びていた堀の、北側の岸の部分の調査であった。二の丸に伴う堀の調査のため、調査地点名称は二の丸地区の名称を採用したが、調査を実施した場所は川内北地区であった。これらの調査は、川内南地区が周知の遺跡である仙台城跡の範囲内に含まれていたことから、周知の遺跡の隣接地という位置づけで、調査を実施していたものである。

これらの調査によって、川内北地区においても、江戸時代の遺構面が良好に残存していることが判明してきた。しかも、二の丸地区の遺構面から、途切れることなく、周辺の遺構面が連続して残っていることも明らかとなってきた。このような成果を受けて、仙台市教育委員会・宮城県教育委員会とも協議した結果、1993（平成5）年度に仙台城跡の範囲を拡大する措置がとられた。川内北地区に江戸時代の遺構面が良好に残存していることと、二の丸のすぐ北側に位置し、二の丸と密接に関連することから、仙台城跡の一部として扱うこととなった。これにより川内北地区のほとんどが、周知の遺跡である仙台城跡の範囲に含まれることとなった。

東北大学埋蔵文化財調査委員会に始まり、東北大学埋蔵文化財調査研究センターを経て、現在の埋蔵文化財調査室に至る、東北大学の構内遺跡調査組織による、施設整備などの工事に伴う二の丸北方武家屋敷地区における調査は、2015（平成27）年度までに第1～16地点の調査が実施されてきた（図7）。この内、1985（昭和60）年度に実施した第2地点（BK2）と第3地点（BK3）の調査は、結果的に立会調査で終了したため、欠番としてある。したがって、14地点で調査が実施されていることとなる。

第1地点（BK1）は、2001（平成13）年度に調査を実施した第7地点と一部重なる区域で、1984（昭和59）年度に実施した試掘調査である。当時、課外活動施設の建設候補地であったため、江戸時代の遺構・遺物の有無を確認する目的で、2×2mの試掘調査区を3ヶ所設けて調査を行っている。その結果、東よりの調査区で、江戸時代の遺構面が残存していることが確認された。試掘調査実施後は、課外活動施設の建設場所が変更されたため、第7地点の調査が行われるまで、それ以上の調査は実施されなかった。

第4地点（BK4）は、1985（昭和60）年度に試掘調査を実施し、1994・95（平成6・7）年度に本調査を行った。試掘調査時には保健管理センターの建設予定地であったが、その後の計画見直しによって課外活動施設がこの地点に建設されることとなり、本調査を実施した。調査面積が1,143㎡となり、二の丸北方武家屋敷地区では、初めての大規模な調査となった。江戸時代の初頭から幕末に至る、多数の遺構が検出された。

第5地点（BK5）は、教養部学生実験施設（当時、現学生実験棟）にエレベーターを設置するのに伴い、1989（平成元）年度に実施した。40㎡という小規模な調査であったが、溝が検出されている。

1996（平成8）年度に実施した第6地点（BK6）は、給水管理設に伴う調査である。調査面積は15㎡と狭いが、比較的多くの遺構が検出されている。

2001（平成13）年度に実施した第7地点（BK7）は、マルチメディア教育研究棟新営に伴う調査である。調査を行った面積が810㎡と、まとまった規模の調査としては、第4地点に続く調査となった。礎石建物・掘立柱

建物・掘立柱列や溝・井戸など、江戸時代の各時期の遺構が検出された。特筆されるものは、大規模なゴミ穴が検出され、様々な種類の遺物が大量に出土したことである。このゴミ穴からは、享保（1716～35）年間の年号が記されたものを含む、多数の荷札木簡が出土している。木簡の記載内容や、捨てられたゴミの内容から、堀をはさんだ二の丸地区のゴミが運び込まれて捨てられたものと考えられる。

第8地点（BK8）は、厚生会館前の上屋取設工事に伴い、2002（平成14）年度に調査を実施した。28.6㎡と小規模な調査であった。溝やピットなどが検出されている。

第9地点（BK9）は、課外活動施設（川内ホール）新営に伴い、2003（平成15）年度に調査を実施した。体育館西側の、グラウンドとの段差に近い区域での調査であった。363.5㎡とやや規模の大きな調査であったが、段丘崖にかかる区域での調査であったため、遺構密度はさほど高くなかった。小規模な石垣や溝、掘立柱列などが発見されている。

第10地点（BK10）は、学生実験棟改修に伴い、2006（平成18）年度に調査を実施した。建物の東側と、中庭の2ヶ所で調査を行った。建物東側の調査区は、第5地点の調査区に隣接し、溝・井戸などが検出されている。中庭の調査区では、道路側溝の可能性のある石垣が発見されている。

第11地点（BK11）と第12地点（BK12）は、仙台市高速鉄道東西線（以下、地下鉄東西線と略する）機能補償に関係する調査である。第11地点は、サブアリーナ棟新営に伴うもので、調査面積は1,401㎡で、大規模な調査となった。掘立柱建物・溝・井戸や大規模に掘り込まれた遺構など、多数の遺構が検出された。第12地点は、屋外給排水管設備の迂回工事に伴うもので、遺構面まで掘削が及ぶ区域のみを調査したため、59.6㎡と小規模な調査であった。

第13地点（BK13）は、厚生会館増築に伴う調査である。2008（平成20）年度に増築建物本体部分（774.8㎡）、翌2009（平成21）年度に付帯工事部分（44.85㎡）の調査を実施した。「筋違橋通」と「裏下馬通」の交差点の北東側に位置し、千貫沢の支流の沢や掘立柱建物・柱列・ピット・溝などが確認された。

第14地点（BK14）は、地下鉄東西線川内駅の駅前整備に伴う調査である。本書で報告する調査である。2011（平成23）年度から調査を開始し、2012（平成24）年も一部を継続して調査を実施したが、次の第15地点の調査を先行して実施することが必要となったため、調査途中で一時中断した。この段階で全体の調査面積954㎡の内、508.5㎡の調査が終了した。2015（平成27）年3月から調査を再開し、残りの調査区（445.5㎡）を調査した。柱列・ピット・溝・井戸・池など多数の遺構が検出されている。特に池跡は、内部を区画する際の盛土上に敷いた葦状の敷物が遺存していた。盛土が崩れないよう工夫したと推定される。

第15地点（BK15）は、課外活動施設新営に伴う調査で、2012（平成24）年度から調査を実施している。震災復旧工事に伴う調査を最優先としながらその合間をぬって2013・14（平成25・26）年度と継続して調査を実施した。1,455㎡と、東北大学が実施した北方武家屋敷地区の調査では、最大規模の調査となっている。北東側の段丘崖下へ流れる沢や、溝、柱列などが検出された。

第16地点（BK16）は学生支援センター新設に伴い、2013（平成25）年度に調査を実施した。その調査面積は1,200㎡となった。調査地点は、千貫橋の北西側に位置し、堀の北岸と石組井戸を検出した。二の丸北側の堀は千貫沢の地形を利用したもので、江戸時代の絵図とも対応する。なお二の丸地区第8地点（NM8）の調査の際に同様に堀の北岸が確認されている。

一方、仙台市教育委員会による調査も、地下鉄東西線建設に伴う調査を中心に、多数実施された。地下鉄東西線関係の本調査に先立ち、2004～2006（平成16～18）年度にかけて試掘調査が行われた。本調査と併行して、2007（平成19）年度にも東北大学のグラウンド部分で試掘調査が行われている。

なお川内北地区の中でもっとも東側のグラウンドについては、それまで実施した立会調査によって、確実に江戸時代に遡る遺構面が残存している場所は確認できていなかった。またこのグラウンド部分は、二の丸地区が

立地する段丘面より、一段低い段丘面であったため（図1）、1993（平成5）年の仙台城跡の範囲拡大にあたって、グラウンドの区域やその周辺域は含まれなかった。

これらの試掘調査は、武家屋敷地区だけではなく、その東側の東北大学のグラウンド部分と仙台商業高等学校グラウンド跡地の区域、広瀬川を渡った対岸の西公園の区域でも、試掘調査が行われている。

これらの試掘調査の結果、仙台商業高等学校グラウンド跡地の一部が川内A遺跡、東北大学グラウンドの一部が川内B遺跡、広瀬川を渡った対岸の西公園部分が桜ヶ岡公園遺跡として、新たに周辺の遺跡として遺跡登録がなされ、記録保存のための調査が行われるようになった。

仙台市教育委員会による地下鉄東西線建設に先立つ調査は、2005（平成17）年度の川内A遺跡から始まり、二の丸北方武家屋敷地区では2006～2009（平成18～21）年度にかけて、川内B遺跡では2008・2009（平成20・21）年度に調査が行われている。桜ヶ岡公園遺跡では、2007・2008（平成19・20）年度に調査が行われている。

これら、地下鉄東西線建設に伴う調査以外にも、仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区では雨水幹線の移設工事、桜ヶ岡公園遺跡では西公園の再整備に伴い、事前調査が行われている。2014（平成26）年度には市の施設建設に伴う試掘調査が川内A遺跡の南側で行われ、新たに川内C遺跡として遺跡登録された。

仙台城三の丸地区の東側の追廻地区は、重臣を含む家臣の屋敷地や、馬場やそれに付随する施設などが置かれていた区域である。この追廻地区は、青葉山公園整備計画の対象区域となっており、公園便施設や庭園などを設置する計画で検討が進められている。公園整備事業の推進にあたって、埋蔵文化財の確認を目的として、2006～2008（平成18～20）年度に、遺構確認調査が実施されている。これらの確認調査を踏まえて、2012（平成24）年度から2013（平成25）年度にかけて追廻公園センター建築計画に伴う調査も行われた。

これらの調査が行われてきた結果、川内地区は、仙台城下の武家屋敷の中では、もっとも広い範囲で考古学的調査が実施されてきた地区となっている。特に、川内北地区の二の丸北方武家屋敷地区は、もっとも高い密度で考古学的調査が実施されている区域となってきたと言える。

表3 仙台城と仙台城周辺武家屋敷の調査一覧（1）

Tab.3 List of excavations of Sendai Castle and Samurai Residences around Sendai Castle (1)

年度	仙台市調査		東北大学構内		仙台市調査（周辺武家屋敷）	
	国庫補助確認調査以外	国庫補助重要遺跡遺構確認調査	二の丸地区	二の丸北方武家屋敷地区	二の丸北方武家屋敷地区	その他の周辺武家屋敷
1974 昭和49			文系厚生施設緊急調査（仙台市教委）			
1978 昭和53				ブール協排水管緊急調査（考古学研究室）		
1982 昭和57			第1地点試掘			
1983 昭和58	三の丸博物館新築（76集）		第1地点〔年報〕1 第2地点〔年報〕1 第3地点〔年報〕1			
1984 昭和59			第4地点（1987年度継続）	第1地点試掘		
1985 昭和60			第5地点試掘 第6地点〔年報〕3	第4地点試掘		
1986 昭和61			第7地点〔年報〕4 第8地点〔年報〕4			
1987 昭和62			第4地点〔年報〕5 第5地点（翌年度継続）			
1988 昭和63			第5地点〔年報〕6			
1989 平成1			第5地点付帯部〔年報〕7 第9地点試掘	第5地点〔年報〕7		
1990 平成2			第9地点〔年報〕8			
1991 平成3			第10地点〔年報〕9			
1992 平成4			第11地点試掘 第12地点試掘 第13地点〔年報〕10			
1993 平成5			第12地点〔年報〕11 第14地点〔年報〕11			
1994 平成6			第15地点〔年報〕12	第4地点（翌年度継続）		
1995 平成7			第11地点〔年報〕13	第4地点〔年報〕13		
1996 平成8	本丸1次石垣修復確認調査		第6地点〔年報〕14			
1997 平成9	本丸1次石垣修復確認調査（翌年度継続）		第16地点〔年報〕15			
1998 平成10	本丸1次石垣修復確認調査（翌年度継続）		第17地点試掘			

*仙台市教育委員会が刊行した報告書は、『仙台市文化財調査報告書』のシリーズ番号で示した。

表4 仙台城と仙台城周辺武家屋敷の調査一覧(2)

Tab.4 List of excavations of Sendai Castle and Samurai Residences around Sendai Castle (2)

年度	仙台市調査			東北大学構内		仙台市調査(周辺武家屋敷)	
	国庫補助確認調査以外	国庫補助重要遺跡遺構確認調査		二の丸地区	二の丸北方武家屋敷地区	二の丸北方武家屋敷地区	その他の周辺武家屋敷
1999	平成11	本丸1次石垣修復確認調査(翌年度継続)					
2000	平成12	本丸1次石垣修復確認調査(翌年度継続)					
2001	平成13	本丸1次石垣修復確認調査(翌年度継続)	第1次大広間1次 第2次清水門 (259集)		第7地点(『年報』19)		
2002	平成14	本丸1次石垣修復確認調査(翌年度継続)	第3次大番土手堀 第4次寝櫓 第5次本丸大広間2次 (264集)		第8地点(『年報』20)		
2003	平成15	本丸1次石垣修復確認調査(275・282・298・349集)	第6次全域分布(271集) 第7次大広間3次 第8次登城路 第9次広瀬川護岸石垣(270集)		第9地点(『年報』21)		
2004	平成16	中門・清水門復旧整備(299集)	第10次大広間4次 第11次広瀬川護岸・沢曲輪地石垣(285集)			東西線試掘(289集)	川内A・桜×岡公園東西線試掘(289集)
2005	平成17	清水門周辺復旧整備(299集) 登城路1次(300集)	第12次大広間5次 第13次三の丸1次 第14次広瀬川護岸・中門石垣(297集)			東西線試掘(302集)	川内A周辺・桜×岡公園東西線試掘(302集) 川内A遺跡東西線(312集) 川内A遺跡東西線(312集)
2006	平成18		第15次大広間6次 第16次三の丸2次 (309集)		第10地点(『年報』24) 第11地点(翌年度継続)	東西線(亀岡トンネル開削部・342集)	川内A周辺・川内B東西線試掘(316集) 追跡遺構確認1次(350集)
2007	平成19		第17次大広間7次 第18次三の丸3次 第19次本丸北西石垣(330集)		第11地点(『調査報告』1) 第12地点(『調査報告』1)	東西線(川内駅部・立坑部・386集)	川内B東西線試掘東西線桜×岡公園(広瀬川高架橋部・公園駅部他・384集・402集) 桜×岡公園2次(西公園内整備・318集) 追跡遺構確認2次(350集)
2008	平成20		第20次大広間8次 第21次造酒屋敷1次 第22次本丸北西石垣(348集)		第13地点(本体部分『調査報告』2)	東西線(扇坂トンネル部・402集)	東西線川内A(広瀬川右岸橋梁部・402集)・川内B(扇坂トンネル部・385集)・桜×岡公園(公園駅部他・384集)・桜×岡公園3次(西公園内整備・335集) 追跡遺構確認3次(350集)
2009	平成21	登城路2次(354集)	第23次造酒屋敷2次 第24次大広間追加 第25次広瀬川護岸石垣(374集)		第13地点(付帯工事『調査報告』2)	東西線(扇坂トンネル・亀岡トンネル開削部・402集) 第2次雨水幹線(356集)	東西線川内A(広瀬川右岸橋梁部・402集) 桜×岡公園(公園駅部他・384集)・桜×岡公園3次(西公園内整備・378集) 桜×岡公園広瀬川高架橋部・402集)
2010	平成22		第26次造酒屋敷3次(395集)			東西線(亀岡トンネル開削部・401集)	東西線川内B(扇坂トンネル部・401集) 追跡遺構確認2次(西公園内整備・378集) 桜×岡公園4次(西公園内整備・378集) 桜×岡公園広瀬川高架橋部・402集)
2011	平成23				第14地点(翌年度継続)		
2012	平成24	大手門北側石垣土堀・中門北側石垣本丸北西石垣(震災復旧)			第14地点(調査途中で中断) 第15地点(翌年度継続)		追跡青葉山公園センター(翌年度継続)
2013	平成25	平成24年度継続(震災復旧・451集)		第18地点(翌年度継続) 第16地点(『調査報告』5)	第15地点(翌年度継続) 第16地点(『調査報告』5)	歩行者通路試掘(扇坂斜面・427集)	追跡青葉山公園センター(翌年度継続) 川内C遺跡第1次(427集)
2014	平成26	本丸北西石垣北側・清水門石垣(震災復旧・451集)		第18地点(『調査報告』6) 第15地点	第18地点(翌年度継続) 第15地点		追跡青葉山公園センター(444集)
2015	平成27				第14地点(『調査報告』7:本報告)		
2016	平成28		第27次造酒屋敷4次(461集)				
2017	平成29		第28次造酒屋敷5次				

*仙台市教育委員会が同行した報告書は、『仙台市文化財調査報告書』のシリーズ番号で示した。

第Ⅱ章 調査の方法と経過

1. 調査地点の位置と調査に至る経緯

本調査は、仙台市高速鉄道（地下鉄）東西線の川内駅の、駅前広場を整備する工事に伴うものである。地下鉄東西線は、川内北キャンパスの北端に沿って路線が計画され、平成27（2015）年度の開業を目指して建設工事が進められた。この地下鉄東西線では、川内駅がマルチメディア総合研究棟の西側に予定されており、東北大学では、この川内駅の出入り口として駅前広場の整備を行うこととなった（図7）。この場所は、マルチメディア総合研究棟の途中に大きな段差があり、東側の低い部分の高さに合わせる形で、研究棟西側と南側の一段高い部分が削平されることとなった。マルチメディア総合研究棟の新営に伴う調査（武家屋敷地区第7地点・BK7）では、段差の低い部分においては江戸時代の遺構面は既に削平されているが、段差の上側では江戸時代の遺構面が保存されていることが明らかとなっている（「調査年報」19）。そのため、工事で削平される高い部分を事前調査の対象とした。

当初は、2011年度の早い時期に調査を開始する予定で準備を進めていた。しかし、東日本大震災による学内施設の被害に関して、施設部をはじめ関係部局が対応に追われていたため、調査の準備が行えない状況が続いていた。緊急の対応が一段落し、準備が整った2011年9月から、ようやく調査を開始することが可能となった。

また、調査予定範囲には、北側の地下鉄東西線の工事区域を横断するための歩行者や自転車用の通路があり、この通路につながる形で各方向へ通路が延びている。これらの通路を確保しながら、発掘調査を実施する必要があった。そのため、調査区を1～7区に分けて（図8）、通路を移設して確保しながら、順次調査を実施することとなった。

2. 調査の方法と経過

（1）発掘調査の経過

2011年9月から開始し、12月末までに1・2区の調査を完了し、3区の調査にとりかかった。厳寒期の1・2月は、図面作成など補足的な調査を行うにとどめ、それ以外の作業は実施していない。2012年3月1日より、3区の本格的な調査を再開した。3区の調査は3月22日で終了し、31日までに隣接する4区の調査に備えて埋め戻した。2011年度には、1～3区の412.4㎡分の調査を終了したこととなる。

2012年5月より、課外活動施設新営に伴う武家屋敷地区第15地点（「年次報告」2015・BK15）の調査を開始することとなったため、第14地点については、4月に4区の調査を実施し、それ以降は調査を中断することとなった。4区は3区の東側に隣接する区域で、斜面部分を含む96.1㎡である。3区を埋め戻して通路を移設した後に重機で掘削し、直ちに精査を行った。精査は4月末で終了し、5月に一部の図面作成など残っていた作業を行った後、埋め戻しと通路の復旧作業などを行った。これらの作業が終了した5月末をもって、第14地点の調査は一旦中断することとなった。1～4区の合計調査終了面積は508.5㎡となった。

2015年3月から残りの5～7区を同時に調査することとした。調査した合計面積は445.5㎡である。3月初めの重機掘削の際に、7区南側と東側に関して大規模な攪乱が認められたことから、その部分については調査しないこととした。3月中には攪乱掘り上げ等を行い、4月から精査を行った。当初は、西側を主体的に精査していたが、東側で池跡と考えられる大規模な遺構が確認できたことから、調査期間の見直しをつけるために、東側の精査に移った。攪乱により確認できた断面から池状遺構の埋土には有機物が多数認められることから、池状遺構埋土に関しては水洗浄による遺物の回収を目指した。5月には池状遺構を含め7区と6区東側については精査が完了した。残り5区と6区西側については、6月中に精査を行った。6月後半に擁壁建築のための掘削箇所が当初の計画から外れていることが判明し、新たな拡張区の調査を6月26日から7月6日までに終了させた。こま

2018年度までの発掘調査地点

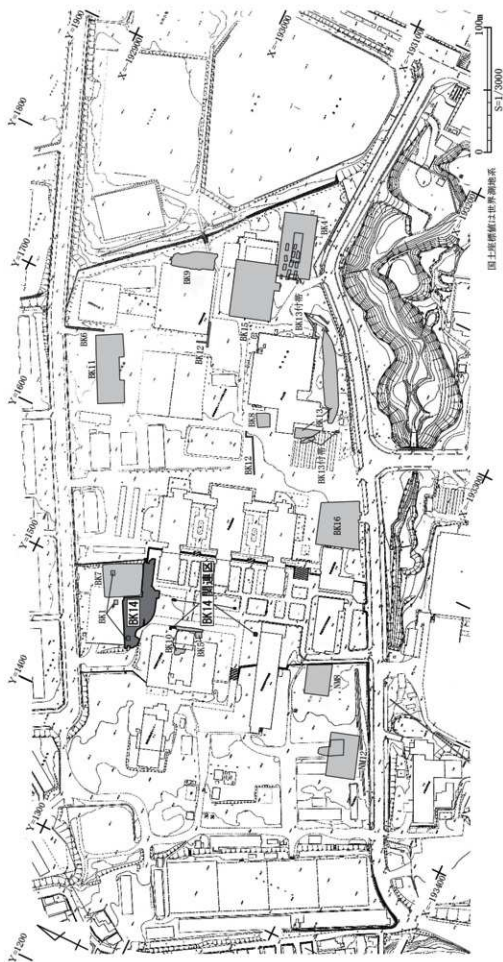


図7 川内北地区調査地点
Fig.7 Location of excavations at Kawachi-kita campus (NM i.e. Secondary Citadel)

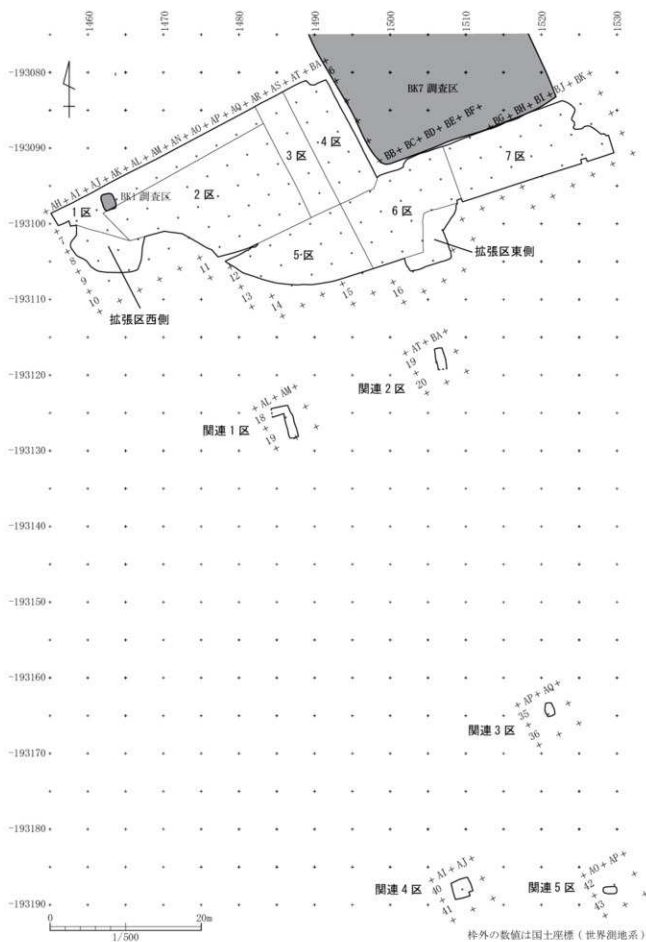


図8 武家屋敷地区第14地点調査区配置図
Fig.8 Location of excavations at BK14

での調査面積は、954㎡となった。

また、周辺の環境整備に伴う工事〔年次報告〕2015：2015-14〕については、2015年7月22日から11月13日にかけて断続的に立会調査を実施した。その掘削地点の大部分は、近代以降の盛土の範囲内に取まっていたが、部分的に遺構埋土と考えられる土層も確認した。面積が狭いため遺構の形状や正確な時期等は判断できなかったが、記録を作成した（関連1～5区）。特に、川内北合同研究棟北東側に位置する電気ハンドホール部1箇所（関連4区）では、時期不明の遺構1基が確認できたことから、9月16・17日に精査を実施した。これら関連区の精査部の面積は、18.8㎡である。この関連区の調査をもって、本工事に伴う全ての調査を終了した。

（2）記録方法

本調査では、当室で学内に設置していた下記測量基準点（日本測地系）を使用して測量をした。平面直角座標系は、X系である。なお、国土地理院から提供されている「H23年東北地方太平洋沖地震に伴う標高補正」、「H26、28年標高改定（ジオイド・モデル改定に伴う補正）」を用いて変換した値も示した。

NO.15A	日本測地系	X=-193,115.345	Y=1,436.681	Z=64.682
	世界測地系	X=-192,806.6138	Y=1,136.8011	Z=64.682
	補正值	X=-192,807.4775	Y=1,139.9160	Z=64.389
NO.16A	日本測地系	X=-193,060.413	Y=1,576.506	Z=57.666
	世界測地系	X=-192,751.6826	Y=1,276.6225	Z=57.666
	補正值	X=-192,752.5485	Y=1,279.7421	Z=57.372

また、調査にあたっては、第7地点調査区（BK7）のグリッド配置を延長する形で調査グリッドを設定した（図8）。このグリッドは、北で28°18'18"西偏している。第7地点調査区のグリッドは東西方向が西からA～Jと命名されていたが、本調査時には、それぞれ頭にBを付け加え、BA～BJ区とした。そして、本調査区は、基準点No.15Aの東側のグリッドからAA区とし、精査範囲をAH～AT区とし、BA区に接続した。

また、2011年度調査では全て手作業で各種図面を作成していたが、2015年度調査では株式会社CUBIC製遺構実測支援システム「遺構くん」を導入し、土層断面図作成、簡略的な平面図作成に利用した。2011年11月9日、12月7日、2015年6月24日には、国際文化財株式会社へ委託して、空中写真測量と空撮写真による写真測量を行った。

記録写真は、35mmフィルムによるカラーリバーサルとモノクロを基本として使用し、デジタル写真も同じカットで撮影した。空中写真撮影では、6×6のカラーリバーサルとモノクロ写真を撮影し、デジタル写真も同じカットで撮影している。

（3）遺構の名称について

近世遺跡の調査においては、多種多様な遺構が検出される。その際、井戸のように遺構の詳細い機能まで判明する場合もある一方で、そのほとんどは形状のみしか判明しない遺構もある。さらに、今回の調査地点では擾乱が著しく、全体の形状さえも不明な遺構が多数存在した。そのため、調査現場では井戸以外には、主に形状と規模から「遺構」、「溝」、「ピット」という名称を使用し、調査を進めた。また、礎石と考えられる石に関しては、「石」と名称を付けたが、一例のみであった。そのほかの遺構には、「枕」があった。

「遺構」は、比較的大きい掘り方を有するもので、その形状は様々である。従来「土坑」としてきた遺構も、この「遺構」の範疇に含めた。柱穴と想定できるような土坑を「ピット」と呼称した。今回の調査では、当初は「遺構」として調査を進めたが、柱痕跡が明瞭に認められ、その後の整理段階で建物の柱を構成する場合もあった。このような場合は、整理の段階で「ピット」に命名し直している。また、逆の場合もあった。

この「ピット」については、建物や柱列を構成することが調査時に判明している場合でも、ピット番号として各区で通し番号を現地付けた。川内地区での調査の場合、遺構が複雑に重なり合うと、現場での検討では、組み合う全ての柱穴を確認できない場合が多い。調査後の図面整理の過程で、建物跡や柱列を確認している場合が多数を占める。現地で組み合うことが判明したものについて柱番号を付すと、その後同じ建物跡などを構成することが判明したピットの番号と、柱番号が前後する場合が生じる。整理後に柱番号を付け直すなど、現地での呼称との間で混乱をきたしかねない。そのため、現地で付ける遺構名称は、ピット番号に統一し、建物跡や柱列を構成するピットについては、図面整理後に柱番号を新たに付けた。また、これまでの報告では、建物・柱列などを構成しないピットに関しては、一覧表での提示や全体図での図示のみであったが、本報告ではそれらのピットに関しては参考として写真図版にて提示した。

今回、調査現場や整理作業において使用した遺構名称は、表5～7に示した通りである。遺物注記等の作業は、「現場名称」で行っており、その後の整理作業の段階には「整理名称」を使用し、本報告にあたり「確定名称」へと変更した。これらの遺構の属性等は表8～16にまとめた。

(4) 遺物の取り上げについて

当調査室の調査では、江戸時代に遡る可能性がある遺物については、全て採集することを基本方針としている。また、瓦については、一定の基準を設けて現地で選別を行った。瓦は、江戸時代のものと、明治以降のものを識別することが、破片の場合ほとんど不可能なものも多い。そこで、1層・攪乱出土の瓦については、長さや幅の判明するもの、軒瓦、刻印や線刻のあるもの、その他特殊なものについては採集するという基準を設けている。刻印や線刻の有無などについては、土壌が付着したままでは判別が難しいので、現地で土壌をおおよそ落とした上で、上記の基準に当てはまる資料のみを収集している。

(5) 整理作業

当調査室での整理作業と報告書刊行については、経費は全学的基盤経費として、毎年度はは一定した額が措置されている。調査の事業量は年度により多寡があるため、大きな滞りをきたすことなく調査報告書を作成できるよう、各年度に実施する整理作業を平均化して計画的に実施することとしている。そのため、特定の年度だけ報告書の本数が増大し、印刷費が大きくなることは、他の事業費を圧迫することとなり難しい。そこで、武家屋敷地区第14地点に関する報告は、2分冊に分け、第1分冊を遺構の事実記載を中心とした遺構編とし2018年度に刊行することとした。2019年度には、第2分冊遺物・考察編として刊行する予定である。

武家屋敷地区第14地点の出土遺物は、整理作業前の段階で79箱であった。整理作業は、当室の発掘調査全てが終了した2015年度から5ヶ年の整理作業期間を設定し、実施している。2015年度は遺物の洗浄・注記作業、2016・2017年度は種類ごとの分類・接合・集計・抽出作業を行った。2018年度以降は、遺構編作成のため基礎作業のほか、各遺物の実測図作成とデジタルトレース作業・観察表作成・写真撮影などを行っている。

木製品・漆塗製品については、調査の一時中断期間に状態悪化が懸念されることから、調査前半期間に出土したものは、調査終了を待たずに2012年度に洗浄・分類・集計・抽出・観察表作成作業を行った。その上で、すべての漆塗製品と抽出木製品は水漬で冷蔵庫保管し、抽出しない木製品は保存処理作業を進めている。また、その他の金属製品等の保存処理が必要な遺物についても、当調査室にて保存処理作業を実施している。

遺構の検討段階で、遺構名・層名が変更になった遺物は、対照表を作成して調査時名称と報告名称を照会できるようにしているが、遺物に書かれた注記は調査時の名称とした。

これらの遺物の整理作業の経過・内容等の詳細については、次年度刊行の「調査報告」8にて報告したい。

表5 遺構名称対照表(1)

Tab.5 List of the features name which are collated (1)

現場名称	整理名称	確定名称	段階	現場名称	整理名称	確定名称	段階
なし	銅圓ビット番号	1号建物	I	60号遺構	60号遺構	60号遺構	Ⅲ
なし	銅圓ビット番号	2号建物	I-Ⅲ	61号遺構	61号遺構	61号遺構	I
なし	銅圓ビット番号	3号建物	I	62号遺構	62号遺構	62号遺構	Ⅲ
なし	銅圓ビット番号	4号建物	I	63号遺構	63号遺構	63号遺構	Ⅲ
なし	銅圓ビット番号	5号建物	I-Ⅲ	64号遺構	64号遺構	64号遺構	I
なし	銅圓ビット番号	6号建物	Ⅲ	1号溝	1号溝	1号溝	I
なし	銅圓ビット番号	7号建物	I-Ⅲ	2号溝	2号溝	2号溝	Ⅲ
なし	銅圓ビット番号	1号柱列	Ⅱb	3号溝	3号溝	3号溝	I
なし	銅圓ビット番号	2号柱列	Ⅱb	4号溝	4号溝	4号溝	Ⅲ
なし	銅圓ビット番号	3号柱列	不明	5号溝	5号溝	5号溝	Ⅱa
なし	銅圓ビット番号	4号柱列	I-Ⅲ	6号溝	6号溝	6号溝	Ⅲ
なし	銅圓ビット番号	5号柱列	I	7号溝	7号溝	7号溝	I-IIb
なし	銅圓ビット番号	6号柱列	I	8号溝	71号遺構に変更	71号遺構	Ⅲ
なし	銅圓ビット番号	7号柱列	I-Ⅲ	9号溝	欠番	-	-
なし	銅圓ビット番号	8号柱列	I	10号溝	70号遺構に変更	70号遺構	Ⅲ
なし	銅圓ビット番号	9号柱列	I	1号井戸	1号井戸	1号井戸	I-Ⅲ
なし	銅圓ビット番号	10号柱列	I	2号井戸	2号井戸	2号井戸	Ⅱa-IIb
1号遺構	6号井戸に変更	6号井戸	Ⅱa-IIb(埋没)	3号井戸	欠番	-	-
2号遺構	2号遺構	2号遺構	Ⅲ	4号井戸	4号井戸	4号井戸	Ⅲ(埋没)
3号遺構	ビット2881に変更	3号建物柱15	Ⅲ	5号井戸	5号井戸	5号井戸	I
4号遺構	4号遺構	4号遺構	Ⅱb	1号土上遺構	75号遺構に変更	75号遺構	I-Ⅲ
5号遺構	5号遺構	5号遺構	Ⅱb-Ⅲ	集石遺構	72号遺構に変更	72号遺構	I-IIb
6号遺構	6号遺構	6号遺構	I	ビット1	ビット1	3号建物柱17	I
7号遺構	7号遺構	7号遺構	I-Ⅲ	ビット2	ビット2	6号柱列柱3	I
8号遺構	5号遺構に統合	-	-	ビット3	ビット3	7号柱列柱1	I-Ⅲ
9号遺構	9号遺構	9号遺構	Ⅱa-IIb	ビット4	ビット6に統合	-	-
10号遺構	10号遺構	10号遺構	I	ビット5	ビット5	4号建物柱5	I
11号遺構	欠番	-	-	ビット6	ビット6	3号建物柱11	I
12号遺構	12号遺構	12号遺構	I	ビット7	ビット7	ビット7	不明
13号遺構	13号遺構	13号遺構	Ⅱb	ビット8	ビット8	3号建物柱1	I
14号遺構	14号遺構	14号遺構	Ⅲ	ビット9	ビット9	3号建物柱2	I
15号遺構	15号遺構	15号遺構	I-IIb	ビット10	ビット10	ビット10	不明
16号遺構	16号遺構	16号遺構	I-IIb	ビット11	ビット11	ビット11	不明
17号遺構	17号遺構	1号池状遺構	Ⅱb	ビット12	ビット12	ビット12	不明
18号遺構	18号遺構	18号遺構	Ⅱa	ビット13	ビット13	ビット13	I-Ⅲ
19号遺構	19号遺構	2号池状遺構	I	ビット14	ビット14	ビット14	不明
20号遺構	20号遺構	20号遺構	Ⅲ	ビット15	ビット15	ビット15	I-IIa
21号遺構	21号遺構	21号遺構	Ⅲ	ビット16	ビット16	3号建物柱16	I
22号遺構	22号遺構	3号池状遺構	Ⅱa	ビット17	ビット17	ビット17	I-Ⅲ
23号遺構	23号遺構	23号遺構	Ⅲ	ビット18	ビット18	2号建物柱5	I-Ⅲ
24号遺構	24号遺構	4号池状遺構	I	ビット19	ビット19	ビット19	不明
25号遺構	25号遺構	25号遺構	Ⅲ	ビット20	ビット20	3号建物柱14	I
26号遺構	26号遺構	26号遺構	I-IIb	ビット21	ビット21	ビット21	不明
27号遺構	ビット2891に変更	5号建物柱1	I-Ⅲ	ビット22	ビット22	2号建物柱4	I-Ⅲ
28号遺構	28号遺構	28号遺構	I-Ⅲ	ビット23	ビット23	2号建物柱3	I-Ⅲ
29号遺構	欠番	-	-	ビット24	ビット24	7号建物柱4	I-Ⅲ
30号遺構	30号遺構	30号遺構	Ⅲ	ビット25	ビット25	ビット25	Ⅲ
31号遺構	31号遺構	31号遺構	-	ビット26	ビット26	7号建物柱3	I-Ⅲ
32号遺構	30号遺構に統合	-	-	ビット27	ビット27	6号柱列柱1	I
33号遺構	ビット2871に変更	ビット287	Ⅲ	ビット28	ビット28	ビット28	不明
34号遺構	34号遺構	34号遺構	Ⅲ	ビット29	ビット29	ビット29	不明
35号遺構	35号遺構	35号遺構	I-IIb	ビット30	ビット30	4号柱列柱6	I-Ⅲ
36号遺構	ビット2911に変更	ビット291	Ⅲ	ビット31	ビット31	4号柱列柱4	I-Ⅲ
37号遺構	37号遺構	37号遺構	I	ビット32	ビット32	6号柱列柱2	I
38号遺構	ビット2941に変更	ビット294	I-IIa	ビット33	ビット33	4号柱列柱5	I-Ⅲ
39号遺構	39号遺構	39号遺構	I	ビット34	ビット34	ビット34	不明
40号遺構	40号遺構	40号遺構	I	ビット35	ビット35	ビット35	不明
41号遺構	41号遺構	41号遺構	Ⅲ	ビット36	ビット36	ビット36	I-Ⅲ
42号遺構	42号遺構	42号遺構	I	ビット37	ビット37	7号建物柱2	I-Ⅲ
43号遺構	ビット2161に統合	-	-	ビット38	ビット38	ビット38	I-IIb
44号遺構	44号遺構	44号遺構	Ⅲ	ビット39	ビット39	ビット39	不明
45号遺構	ビット2901に変更	6号建物柱5	Ⅲ	ビット40	ビット40	ビット40	I-IIb
46号遺構	46号遺構	46号遺構	I-IIb	ビット41	ビット41	ビット41	不明
47号遺構	47号遺構	47号遺構	I-IIb	ビット42	ビット42	7号建物柱5	I-Ⅲ
48号遺構	48号遺構	48号遺構	Ⅲ	ビット43	ビット43	2号建物柱2	I-Ⅲ
49号遺構	6号溝に統合	-	-	ビット44	ビット44	4号柱列柱3	I-Ⅲ
50号遺構	50号遺構	50号遺構	Ⅱb-Ⅲ	ビット45	ビット45	ビット45	不明
51号遺構	51号遺構	51号遺構	Ⅲ	ビット46	ビット46	7号建物柱1	I-Ⅲ
52号遺構	ビット2931に変更	8号柱列柱1	I	ビット47	ビット47	4号柱列柱2	I-Ⅲ
53号遺構	ビット2921に変更	ビット292	Ⅲ	ビット48	ビット48	4号柱列柱1	I-Ⅲ
54号遺構	ビット2921に統合	-	-	ビット49	ビット49	ビット49	Ⅱb-Ⅲ
55号遺構	55号遺構	55号遺構	不明	ビット50	ビット50	4号建物柱1	I-Ⅲ
56号遺構	56号遺構	56号遺構	不明	ビット51	ビット51	4号建物柱6	I
57号遺構	57号遺構	57号遺構	I	ビット52	ビット52	ビット52	不明
58号遺構	58号遺構	58号遺構	I-IIb	ビット53	ビット53	1号建物柱2	I
59号遺構	59号遺構	59号遺構	I-IIb	ビット54	ビット54	ビット54	不明

表6 遺構名称対照表(2)

Tab.6 List of the features name which are collated (2)

現場名称	整理名称	確定名称	段階	現場名称	整理名称	確定名称	段階
ビツ55	ビツ55	4号建物柱3	I	ビツ131	ビツ131	6号建物柱1	Ⅱ
ビツ56	ビツ56	1号建物柱1	I	ビツ132	ビツ132	6号建物柱6	Ⅱ
ビツ57	ビツ57	不明	不明	ビツ133	ビツ133	5号建物柱3	I-Ⅱ
ビツ58	ビツ58	ビツ58	不明	ビツ134	ビツ134	ビツ134	I-Ⅱ
ビツ59	ビツ59	2号建物柱1	I-Ⅱ	ビツ135	ビツ135	ビツ135	不明
ビツ60	ビツ60	4号建物柱4	I	ビツ136	ビツ136	ビツ136	Ⅱ
ビツ61	ビツ61	4号建物柱2	I	ビツ137	ビツ137	6号建物柱2	Ⅱ
ビツ62	ビツ62	ビツ62	I-Ⅱ	ビツ138	ビツ138	ビツ138	Ⅱ
ビツ63	3号遺構に統合	-	-	ビツ139	ビツ139	ビツ139	不明
ビツ64	ビツ64	ビツ64	I	ビツ140	ビツ140	5号建物柱2	I-Ⅱ
ビツ65	ビツ65	ビツ65	不明	ビツ141	ビツ141	ビツ141	不明
ビツ66	ビツ66	ビツ66	不明	ビツ142	ビツ142	ビツ142	I-Ⅱ
ビツ67	ビツ67	ビツ67	不明	ビツ143	ビツ143	ビツ143	I-Ⅱ b
ビツ68	ビツ68	ビツ68	不明	ビツ144	ビツ144	ビツ144	I-Ⅱ
ビツ69	ビツ69	ビツ69	不明	ビツ145	ビツ145	ビツ145	I-Ⅱ
ビツ70	ビツ70	ビツ70	I	ビツ146	ビツ146	ビツ146	I-Ⅱ
ビツ71	ビツ71	3号建物柱12	I	ビツ147	ビツ147	ビツ147	不明
ビツ72	ビツ72	ビツ72	不明	ビツ148	ビツ148	ビツ148	不明
ビツ73	ビツ73	3号建物柱13	I	ビツ149	ビツ149	1号柱列柱2	Ⅱ b
ビツ74	ビツ74	ビツ74	I	ビツ150	ビツ150	1号柱列柱1	Ⅱ b
ビツ75	ビツ75	3号建物柱3	I	ビツ151	ビツ151	ビツ151	Ⅱ b
ビツ76	ビツ76	3号建物柱6	I	ビツ152	ビツ152	ビツ152	Ⅱ b
ビツ77	ビツ77	ビツ77	I-Ⅱ a	ビツ153	ビツ153	1号柱列柱5	Ⅱ b
ビツ78	ビツ78	3号建物柱4	I	ビツ154	ビツ154	1号柱列柱4	Ⅱ b
ビツ79	ビツ79	ビツ79	I-Ⅱ	ビツ155	ビツ155	1号柱列柱3	Ⅱ b
ビツ80	ビツ80	3号建物柱5	I	ビツ156	ビツ156	ビツ156	Ⅱ b
ビツ81	ビツ81	ビツ81	I-Ⅱ	ビツ157	ビツ157	2号柱列柱2	Ⅱ b
ビツ82	ビツ82	ビツ82	不明	ビツ158	ビツ158	2号柱列柱1	Ⅱ b
ビツ83	ビツ83	ビツ83	I-Ⅱ	ビツ159	ビツ159	ビツ159	Ⅱ b
ビツ84	ビツ84	ビツ84	I	ビツ160	ビツ160	ビツ160	Ⅱ b
ビツ85	ビツ85	ビツ85	I-Ⅱ	ビツ161	ビツ161	ビツ161	Ⅱ b
ビツ86	65号遺構に変更	65号遺構	Ⅱ b-Ⅱ	ビツ162	ビツ162	ビツ162	I-Ⅱ a
ビツ87	66号遺構に変更	66号遺構	Ⅱ	ビツ163	ビツ163	10号柱列柱2	I
ビツ88	ビツ88	ビツ88	I-Ⅱ	ビツ164	ビツ164	ビツ164	I-Ⅱ
ビツ89	ビツ89	7号柱列柱2	I-Ⅱ	ビツ165	ビツ165	ビツ165	I-Ⅱ a
ビツ90	ビツ90	ビツ90	I-Ⅱ	ビツ166	ビツ166	ビツ166	I-Ⅱ a
ビツ91	73号遺構に変更	73号遺構	不明	ビツ167	ビツ167	ビツ167	不明
ビツ92	ビツ92	ビツ92	I	ビツ168	ビツ168	ビツ168	不明
ビツ93	ビツ93	ビツ93	不明	ビツ169	ビツ2201に統合	-	不明
ビツ94	ビツ94	ビツ94	不明	ビツ170	ビツ170	ビツ170	I-Ⅱ
ビツ95	ビツ95	ビツ95	I-Ⅱ	ビツ171	ビツ171	ビツ171	Ⅱ
ビツ96	ビツ96	7号柱列柱3	I-Ⅱ	ビツ172	欠番	-	-
ビツ97	ビツ97	ビツ97	不明	ビツ173	ビツ173	ビツ173	Ⅱ
ビツ98	ビツ98	ビツ98	不明	ビツ174	ビツ174	ビツ174	Ⅱ
ビツ99	ビツ99	3号建物柱10	I	ビツ175	ビツ175	ビツ175	Ⅱ
ビツ100	ビツ100	ビツ100	I-Ⅱ	ビツ176	欠番	-	-
ビツ101	ビツ101	3号建物柱9	I	ビツ177	ビツ177	ビツ177	Ⅱ
ビツ102	ビツ102	ビツ102	I	ビツ178	ビツ178	ビツ178	Ⅱ
ビツ103	67号遺構に変更	67号遺構	不明	ビツ179	ビツ179	ビツ179	I-Ⅱ
ビツ104	ビツ104	ビツ104	I-Ⅱ	ビツ180	ビツ180	ビツ180	I-Ⅱ b
ビツ105	ビツ105	3号建物柱8	I	ビツ181	ビツ181	ビツ181	I-Ⅱ b
ビツ106	ビツ106	3号建物柱7	I	ビツ182	ビツ182	10号柱列柱1	I
ビツ107	ビツ107	ビツ107	I	ビツ183	ビツ183	ビツ183	Ⅱ
ビツ108	ビツ108	ビツ108	不明	ビツ184	ビツ184	ビツ184	I-Ⅱ
ビツ109	ビツ109	ビツ109	不明	ビツ185	ビツ185	ビツ185	I-Ⅱ b
ビツ110	ビツ110	ビツ110	不明	ビツ186	ビツ186	ビツ186	Ⅱ
ビツ111	68号遺構に変更	68号遺構	I-Ⅱ b	ビツ187	ビツ187	ビツ187	不明
ビツ112	ビツ112	ビツ112	不明	ビツ188	ビツ188	ビツ188	I-Ⅱ a
ビツ113	ビツ113	ビツ113	Ⅱ b-Ⅱ	ビツ189	ビツ189	ビツ189	I-Ⅱ b
ビツ114	69号遺構に変更	69号遺構	Ⅱ a-Ⅱ b	ビツ190	ビツ190	ビツ190	I-Ⅱ
ビツ115	欠番	-	-	ビツ191	ビツ191	ビツ191	I-Ⅱ b
ビツ116	ビツ116	ビツ116	I-Ⅱ b	ビツ192	ビツ192	ビツ192	Ⅱ
ビツ117	ビツ117	9号柱列柱2	Ⅱ	ビツ193	ビツ193	ビツ193	Ⅱ
ビツ118	ビツ118	9号柱列柱3	Ⅱ	ビツ194	ビツ194	5号柱列柱1	I
ビツ119	ビツ119	ビツ119	不明	ビツ195	ビツ195	ビツ195	I-Ⅱ b
ビツ120	ビツ120	5号柱列柱3	I	ビツ196	杭43に変更	杭43	I-Ⅱ b
ビツ121	ビツ121	5号柱列柱2	I	ビツ197	ビツ197	ビツ197	Ⅱ
ビツ122	ビツ122	ビツ122	不明	ビツ198	ビツ198	ビツ198	Ⅱ
ビツ123	ビツ123	ビツ123	Ⅱ	ビツ199	ビツ199	ビツ199	Ⅱ
ビツ124	ビツ124	ビツ124	不明	ビツ200	ビツ200	ビツ200	I
ビツ125	ビツ125	ビツ125	I-Ⅱ	ビツ201	ビツ201	ビツ201	I-Ⅱ b
ビツ126	ビツ126	ビツ126	I-Ⅱ	ビツ202	ビツ202	ビツ202	I-Ⅱ b
ビツ127	ビツ127	ビツ127	不明	ビツ203	ビツ203	ビツ203	I-Ⅱ
ビツ128	ビツ128	ビツ128	I-Ⅱ	ビツ204	ビツ204	ビツ204	I-Ⅱ b
ビツ129	ビツ129	ビツ129	Ⅱ	ビツ205	ビツ205	ビツ205	I
ビツ130	ビツ130	ビツ130	I-Ⅱ	ビツ206	ビツ206	ビツ206	不明

表7 造構名称対照表(3)

Tab.7 List of the features name which are collated (3)

現場名称	整理名称	確定名称	段階	現場名称	整理名称	確定名称	段階
ビット207	欠番	-	-	ビット283	ビット283	ビット283	I-IIb
ビット208	ビット208	1号建物柱4	I	ビット284	ビット284	ビット284	I
ビット209	ビット209	ビット209	不明	ビット285	ビット285	ビット285	I-IIb
ビット210	ビット210	1号建物柱3	I	ビット286	60号道橋に統合	-	-
ビット211	ビット211	ビット211	不明	石1	石	-	不明
ビット212	欠番	-	-	石2	欠番	-	-
ビット213	ビット213	ビット213	I	杭1	杭1	杭1	不明
ビット214	ビット214	ビット214	Ⅲ	杭2	杭2	杭2	不明
ビット215	ビット215	ビット215	I-IIb	杭3	杭3	杭3	不明
ビット216	ビット216	8号柱列柱2	I	杭4	杭4	杭4	不明
ビット217	ビット217	ビット217	I	杭5	杭5	杭5	不明
ビット218	ビット218	ビット218	I-IIb	杭6	杭6	杭6	不明
ビット219	ビット219	ビット219	Ⅲ	杭7	杭7	杭7	不明
ビット220	ビット220	6号建物柱7	Ⅲ	杭8	杭8	杭8	不明
ビット221	ビット221	ビット221	Ⅲ	杭9	杭9	杭9	不明
ビット222	ビット222	ビット222	Ⅲ	杭10	杭10	杭10	不明
ビット223	ビット223	ビット223	Ⅱb-Ⅲ	杭11	杭11	杭11	I-Ⅲ
ビット224	ビット224	ビット224	I-Ⅲ	杭12	杭12	杭12	不明
ビット225	ビット225	ビット225	I-IIb	杭13	杭13	杭13	不明
ビット226	ビット226	ビット226	Ⅱa-IIb	杭14	杭14	杭14	I-IIb
ビット227	ビット227	ビット227	I-IIb	杭15	欠番	-	-
ビット228	ビット228	6号建物柱4	Ⅲ	杭16	杭16	杭16	不明
ビット229	ビット229	6号建物柱3	Ⅲ	杭17	杭17	杭17	不明
ビット230	ビット230	ビット230	Ⅲ	杭18	杭18	杭18	Ⅱa-Ⅲ
ビット231	ビット231	6号建物柱8	Ⅲ	杭19	杭19	杭19	Ⅱa-Ⅲ
ビット232	欠番	-	-	杭20	杭20	杭20	Ⅱa-Ⅲ
ビット233	ビット233	ビット233	Ⅲ	杭21	杭21	杭21	I-IIb
ビット234	杭33に変更	杭33	Ⅲ	杭22	欠番	-	-
ビット235	ビット235	9号柱列柱1	Ⅲ	杭23	杭23	杭23	Ⅲ
ビット236	ビット236	ビット236	I	杭24	欠番	-	-
ビット237	ビット237	ビット237	I-IIb	杭25	杭25	杭25	Ⅲ
ビット238	ビット238	ビット238	I-Ⅲ	杭26	杭26	杭26	I
ビット239	ビット239	ビット239	I	杭27	杭27	杭27	I
ビット240	ビット240	ビット240	I-IIb	杭28	杭28	杭28	I
ビット241	ビット241	3号柱列柱2	不明	杭29	杭29	杭29	I
ビット242	ビット242	3号柱列柱1	不明	杭30	杭30	杭30	I-IIb
ビット243	ビット243	3号柱列柱3	不明	杭31	杭31	杭31	I-IIb
ビット244	ビット244	ビット244	I-Ⅲ	杭32	杭32	杭32	I-IIb
ビット245	ビット245	ビット245	I	杭34	杭34	杭34	不明
ビット246	ビット246	ビット246	Ⅲ	杭35	杭35	杭35	不明
ビット247	ビット261に統合	-	-	杭36	杭36	杭36	I-IIb
ビット248	ビット248	ビット248	I	杭37	杭37	杭37	Ⅲ
ビット249	欠番	-	-	杭38	杭38	杭38	Ⅲ
ビット250	ビット250	ビット250	I	杭39	杭39	杭39	Ⅲ
ビット251	ビット251	ビット251	I-IIb	杭40	杭40	杭40	I-IIb
ビット252	ビット167に統合	-	-	杭41	杭41	杭41	I-IIb
ビット253	ビット253	ビット253	不明	杭42	杭42	杭42	I-IIb
ビット254	ビット254	ビット254	I-IIb	杭44	杭44	杭44	不明
ビット255	欠番	-	-	杭45	杭45	杭45	不明
ビット256	ビット256	ビット256	I-IIb	杭46	杭46	杭46	不明
ビット257	ビット257	ビット257	I-IIb	杭47	杭47	杭47	不明
ビット258	ビット258	ビット258	I-IIb	杭48	杭48	杭48	不明
ビット259	ビット259	ビット259	Ⅲ	杭49	杭49	杭49	不明
ビット260	ビット260	ビット260	I-IIb	杭50	杭50	杭50	不明
ビット261	ビット261	ビット261	Ⅲ	杭51	杭51	杭51	不明
ビット262	ビット262	ビット262	不明	杭52	杭52	杭52	不明
ビット263	ビット263	ビット263	Ⅲ	杭53	杭53	杭53	I
ビット264	杭57に変更	杭57	I	杭54	杭54	杭54	不明
ビット265	ビット265	ビット265	I-IIb	杭55	欠番	-	-
ビット266	ビット266	ビット266	I	杭56	杭56	杭56	Ⅲ
ビット267	74号道橋に変更	74号道橋	I-IIb	-	-	杭58	Ⅲ以降
ビット268	ビット268	8号柱列柱3	I	汚水1区道橋	関連1区道橋	関連1区道橋	不明
ビット269	ビット269	ビット269	Ⅲ	外灯3区溝	関連2区溝	関連2区溝	不明
ビット270	ビット270	ビット270	Ⅲ	ハンドホール道橋	関連4区道橋	関連4区道橋	I
ビット271	ビット271	ビット271	Ⅲ	外灯1区道橋	関連5区道橋	関連5区道橋	不明
ビット272	ビット272	ビット272	Ⅲ				
ビット273	25号道橋に統合	-	-				
ビット274	ビット274	ビット274	I-IIb				
ビット275	ビット275	ビット275	I-IIb				
ビット276	ビット276	ビット276	I-IIb				
ビット277	ビット277	ビット277	I-IIb				
ビット278	ビット292に統合	-	-				
ビット279	ビット279	ビット279	I-IIb				
ビット280	ビット280	ビット280	Ⅲ				
ビット281	ビット281	ビット281	I-IIb				
ビット282	ビット282	ビット282	I-IIb				

表8 遺構属性表(1)
Tab.8 Attributes of remains (1)

名称	区名	確認面	形状	規模			時期	段階	重複する遺構の新古	
				面積(m ²)	長軸(m)	短軸(m)			古い	新しい
1号池状遺構	BD-12・13、 BE-11～13、 BF-12・13	2b層	不整形	18.34	6.4	5.2	18世紀中葉	Ⅱb	ビット188、40号遺構	18号遺構、杭18・19
2号池状遺構	BG・ BF-12・13	2b層	方形	17.62	4.7	3.8	17世紀	I	40号遺構	1号柱列柱1・2、 ビット151、18号遺 構、杭26
3号池状遺構	BD・ BF-12・13	17号遺構 底面	楕円形	9.9	3.6	3.2	17世紀末葉～ 18世紀前半	Ⅱa	ビット164	ビット294
4号池状遺構	BD・ BE-12・13	17号遺構 底面	長方形	6.94	3.7	3.4	17世紀	I		ビット164・294
2号遺構	AP・AQ-9	2c層	円形	1.44	径1.4		19世紀前葉～ 中葉	Ⅲ	ビット13・62	
4号遺構	AR-7	3a層	円形	0.71	径1.2		18世紀末葉～ 19世紀初頭	Ⅱb		
5号遺構	AR・AS-9	2a層	円形	5.86	径3.1		19世紀～近代	Ⅱb-Ⅲ	3号建物柱4、7号 柱列柱2、ビット 83・85・88、9号遺 構	
6号遺構	AQ・ AR-8	2a層	不明	0.38	1.3	0.3	17世紀初頭以前	I		6号柱列柱2
7号遺構	AI・ AJ-7・8	4層	不整形	7.32	4.3	3.6	近世	I-Ⅲ		
9号遺構	AR-8・9	3a層	不整形楕円 形	1.41	1.6	1.1	18世紀	Ⅱa-Ⅱb	10号遺構	5号遺構
10号遺構	AR・ AS-8・9	75号遺構 底面	不明	0.56	1.5	0.4	17世紀	I	ビット92	9・75号遺構
12号遺構	AT-8	2b層	不明	0.75	1.6	1.0	17世紀後葉?	I		13号遺構
13号遺構	AT・ BA-8	2b層	長方形	0.72	1.5	0.6	18世紀後半	Ⅱb	ビット116、12・68 号遺構	ビット113
14号遺構	AS・AT-8	4層	長方形?	1.51	2.2	1.1	19世紀中葉～ 後葉	Ⅲ		
15号遺構	AS・AT-7	2b層	長方形	0.66	1.2	1.0	17世紀後葉～ 18世紀	I-Ⅱb	5号井戸	
16号遺構	AQ・ AR-13・14	2b層	円形	6.5	径4.3		18世紀後葉以前 (未掘)	I-Ⅱb	ビット254・256・ 267、46・47・58号 遺構、7号溝	9号柱列柱1・柱2
18号遺構	BF-12	2b層	不明	0.87	1.4	0.8	18世紀前葉～ 中葉	Ⅱa	17・19号遺構	杭20
20号遺構	BH・BI-13	2a-2層	楕円形	1.04	1.4	1.0	近代	Ⅲ	21号遺構、5号溝	
21号遺構	BI・BI-13	2a-2層	楕円形	0.58	1.1	0.6	19世紀前葉～ 中葉	Ⅲ	3号溝	20号遺構
23号遺構	BA・BB-13	2a-2層	方形?	0.63	1.0	0.8	19世紀前葉以後	Ⅲ	10号柱列柱1、35号 遺構	
25号遺構	BB-13・14	2a-2層	不明	0.41	0.8	0.6	19世紀前葉?	Ⅲ	ビット200	
26号遺構	BA・ BB-13・14	4号溝底面	不明	0.89	1.1	0.8	17世紀末葉～ 18世紀	I-Ⅱb	10号柱列柱2、杭 30・31	4号溝
28号遺構	AO-12	2b層	楕円形	0.57	0.9	0.7	近世	I-Ⅲ	ビット184	
30号遺構	AS・ AT-14	2a-2層	長方形	1.12	1.3	0.9	19世紀前葉	Ⅲ	ビット179・183・ 192・268、44号遺構	ビット291
31号遺構	AS-12・13	2a-2層	楕円形	1.16	1.6	0.8	19世紀前葉～ 中葉	Ⅲ	6号建物柱3・8、 ビット236・239、51 号遺構、杭36	
34号遺構	AR・AS-14	2a-2層	長方形?	0.34	0.8	0.8	19世紀前葉以後	Ⅲ		
35号遺構	BB-13	2b層	楕円形	0.4	0.9	0.6	18世紀後半以前	I-Ⅱb		23号遺構・4号溝
37号遺構	BB-13	2b層	楕円形	0.14	0.6	0.4	17世紀	I		4号溝
39号遺構	BB-12	2b層	楕円形	0.89	1.4	0.7	17世紀以前	I		4号溝
40号遺構	BE・ BF-12・13	2b層	長方形	5.37	2.9	2.0	16世紀末葉	I		17・19号遺構
41号遺構	AT-14	2a-2層	楕円形	0.1	0.5	0.2	19世紀前葉以後	Ⅲ	ビット291	
42号遺構	AT-12	2b層	楕円形	0.88	1.4	0.7	17世紀初頭	I	ビット250	6号建物柱5、ビッ ト173・195・239
44号遺構	AS-14	2a-2層	長方形?	0.21	0.9	0.8	19世紀前葉	Ⅲ		ビット192・291、30 号遺構、杭23・25
46号遺構	AR-14	2b層	不明	0.13	0.7	0.4	18世紀後葉以前	I-Ⅱb	ビット254、59号遺構	16号遺構
47号遺構	AR-14	2b層	楕円形	0.15	0.6	0.3	18世紀後葉以前	I-Ⅱb	ビット256・257、58 号遺構	16号遺構
48号遺構	AS-12	2b層	不整形	0.42	1.0	0.5	19世紀中葉	Ⅲ	ビット238	
50号遺構	AS-13	2a-2層	不明	0.38	1.0	0.4	19世紀	Ⅱb-Ⅲ		
51号遺構	AS-12・13	2a-2層	楕円形?	0.25	1.0	0.8	19世紀前葉～ 中葉	Ⅲ	8号柱列柱1、ビッ ト236	6号建物柱8、ビッ ト287、31号遺構
55号遺構	BA-14	4層	不明	0.1	0.5	0.3	不明	不明		
56号遺構	BA-13	4層	不明	0.13	0.6	0.5	不明	不明		

*「形状」と「規模」は残存部位から判断・計画した

表9 遺構属性表(2)
Tab.9 Attributes of remains (2)

名称	区名	確認面	形状	規模			時期	段階	重複する遺構の新古	
				面積(m ²)	長軸(m)	短軸(m)			古い	新しい
57号遺構	AS・AT-12・13	2層	不整形	0.64	1.5	0.6	17世紀初頭	I		6号建物柱5、6号溝
58号遺構	AR-14	2層	不明	0.15	0.5	0.3	18世紀後葉以前	I-II b		ビット219、16・47号遺構
59号遺構	AR・AS-14	2層	円形?	0.23	0.6	0.6	18世紀後葉以前	I-II b	ビット256・257	46号遺構
60号遺構	BA・BB-14・15	2a-2層	楕円形	0.13	1.0	0.2	19世紀前葉以後	III	70号遺構	
61号遺構	AP・AQ-14	2層	長方形	0.28	1.0	0.6	17世紀前葉以前	I		ビット217・258
62号遺構	BB-14・15	2a-2層	楕円形	0.5	1.1	0.5	19世紀前葉以後			
63号遺構	BB-15	2a-2層	円形?	0.81	1.3	0.9	19世紀前葉	III	ビット284、64号遺構	
64号遺構	BB-15・16	2層	不明	0.79	1.3	1.0	17世紀後半	I	ビット284	63号遺構
65号遺構	AR・AS-6・7	3a層	方形	1.19	1.2	1.0	18世紀末葉～19世紀中葉	II b-III	ビット90	
66号遺構	AS-6・7	3a層	長方形	2.05	2.1	1.7	19世紀前葉～中葉	III		
67号遺構	AT-9	2層	不整形	0.19	0.6	0.5	不明	不明	杭13	杭12
68号遺構	AT-8・9	2層	円形?	0.7	1.0	0.8	18世紀後半以前	I-II b		13号遺構、杭11
69号遺構	BA-8・9	2層	円形?	0.39	0.8	0.6	18世紀	II a-II b		
70号遺構	BB-14	2a-2層	長方形	0.15	0.6	0.5	19世紀前葉以後	III	ビット261	60号遺構
71号遺構	AS-14	2a-2層	楕円形	0.23	0.7	0.5	19世紀前葉以後	III	ビット218	ビット177
72号遺構	BC-12	2層	楕円形	0.08	0.5	0.2	19世紀初頭以前	I-II b		
73号遺構	AR・AS-6	3a層	長方形?	0.49	1.5	0.4	不明	不明		
74号遺構	AQ・AR-13	2層	不明	0.18	0.6	0.5	18世紀後葉以前	I-II b		16号遺構
75号遺構	AS-8・9	2層	長方形	0.32	0.9	0.4	17世紀以後	I-III	ビット92、10号遺構	
四連1区遺構	AL・AM-18・19	4層相当	不明	2.09	-	-	不明	不明		
四連2区遺構	AT・AU-19・20	2a層	不明	0.59	-	-	18世紀後葉～19世紀前葉	III		
四連4区遺構	AI・AJ-40・41	4層相当	不明	1.71	-	-	17世紀前半	I		
四連5区遺構	AO-42・43	不明	不明	0.46	-	-	不明	不明		
1号井戸	AQ・AR-9	2a層	円形	3.33	径2.0		17世紀初頭～19世紀中葉	I-III	6号柱列柱3	
2号井戸	AQ・AR-6・7	3a層	円形	4.32	径2.4		18世紀	II a-II b	ビット40	
4号井戸	AT-10・11	2層	円形	5.48	径2.9		19世紀前葉に埋没	III(埋没)		
5号井戸	AT-6・7	2層	楕円形	5.5	3.0	2.5	17世紀初頭～後葉	I		15号遺構
6号井戸	AK・AL-7	4層	円形	3.94	径2.4		18世紀に埋没	II a-II b(埋没)		

※「形状」と「規模」は残存部位から推察・計測した

表10 遺構属性表 (3)
Tab.10 Attributes of remains (3)

名称	区名	確認面	規模			軸角度	時期	段階	重複する遺構の新古	
			面積(m ²)	最大長(m)	最大幅(m)				古い	新しい
1号溝 (南北) (東西)	AN・ AO-9・10	3a層	2.64	0.90	1.32	24.4	17世紀前葉～ 木葉以前	I	ビット64	4号建物柱2・3
				2.40	0.75					
2号溝	AM～ AP-11	3a層	3.78	8.28	0.78	116.4	近代		ビット25	
3号溝	BH-12・13	2b層	4.70	4.62	1.32	27.6	17世紀中葉～ 後葉	I	杭27・28・29	1号柱列柱3、ビット156、21号遺構
4号溝	BB-12～14	2a-2層	1.96	5.34	0.66	25.9	19世紀前葉	III	8号柱列柱1、ビット185・189・191・202・259・260、26・35・37・39号遺構、杭32	
5号溝	BI-13・14	2b層	3.87	3.24	1.86	22.6	18世紀中葉	IIa	ビット162・165・166	1号柱列柱5、2号柱列柱1・2、ビット152・159・160・161・170、20号遺構
6号溝	AT-12～14	2a-2層	0.95	2.94	0.66	27.5	19世紀前葉～ 中葉	III	6号建物柱5、ビット173・195・204、57号遺構、杭40・43	ビット171
7号溝	AR-12～14	2b層	1.18	5.67	0.54	26.2	17世紀前葉～ 18世紀後葉	I-IIb	ビット205・258	5号建物柱2・3、ビット128・130・143・203、16号遺構

※「規模」は残存部位から計測した

※「軸角度」は、南北方向の西側への傾きで示した。従来の表記だとN-角度-Wとなる。

表11 遺構属性表 (4)
Tab.11 Attributes of remains (4)

名称	区名	確認面	時期	段階	軸角度	間数 (南北×東西)	間尺	重複する遺構の新古	
								古い	新しい
1号建物	AN-10、 AO-10～13	3a層	17世紀初頭	I	26.9	3×1	6尺5寸	ビット213	
2号建物	AO-8・9、 AP-8～10	3a層	17世紀以後	I-III	26.6	2×1.5	6尺3寸		ビット17
3号建物	AP-9～11、 AQ-9・11、 AR～AT-9 ～10	2a層	17世紀前葉～ 末葉	I	27.5	2×6	6尺3寸	4号建物柱5、ビット74・84・107	ビット70・79・100・104、5号遺構
4号建物	AN～AP-10	3a層	17世紀前葉～ 末葉	I	28.2	1×5	6尺3寸	1号溝	3号建物柱11
5号建物	AP-12、AQ- 12・13	2b層	17世紀前葉以 後	I-III	23.9	1×1	6尺3寸	ビット143、7号溝	ビット128
6号建物	AR～ AT-12・13	2a-2層	19世紀前葉～ 中葉	III	24.6	0.5×3	6尺3寸	8号柱列柱1、ビット197・230、42・51・57号遺構	ビット136・138・214、31号遺構、6号溝
7号建物	AO～ AQ-7・8	3a層	17世紀～ 18世紀以後	I-III	27.7	2×3	6尺	ビット38	ビット36
1号柱列	BG～BI-13	2b層	18世紀後半～ 19世紀初頭	IIb	116.4 (26.4)	4	4尺	19号遺構、3・5号溝	
2号柱列	BI-13	2b層	18世紀後半～ 19世紀初頭	IIb	27.6	1	4尺	ビット161、5号溝	ビット152・160
3号柱列	BA-12・13	4層	不明	不明	16.5	2	4尺		
4号柱列	AN～AP-6	3a層	近世	I-III	115.9 (25.9)	6	4尺		
5号柱列	AP-12～14	2b層	17世紀	I	24.8	2	3尺		
6号柱列	AQ-7～9	2a層	17世紀初頭	I	26.2	2	6尺5寸	6号遺構	1号井戸
7号柱列	AQ～AS-9	2b層	19世紀～ 近代以前	I-III	110.9 (20.9)	4	7尺		5号遺構
8号柱列	AS-12～14、 AT-14	2b層	16世紀末葉～ 17世紀初頭	I	29.6	3	3尺		6号建物柱8、ビット183・291、30・51号遺構
9号柱列	AP～AR-14	2b層	19世紀前葉～ 後葉(近代)	III	116.7 (26.7)	3	6尺	ビット244・258、16号遺構	ビット123
10号柱列	BB-13・14	2b層	17世紀後半	I	24.6	1	6尺		23・26号遺構、4号溝

※「軸角度」は、南北方向の西側への傾きで示した。従来の表記だとN-角度-Wとなる。

※東西に伸びる柱列に関しては、それに直行する南北軸を想定し、その角度も提示した。その際の表記は、「南北軸角度(東西軸角度)」と表記する。

表12 ビット一覧表(1)
Tab.12 Pit list (1)

名称	区名	確認面	時期	段階	重複する遺構の新古	
					古い	新しい
3号建物柱17	AQ-11	2b層	17世紀前葉～未葉	I		
6号柱列柱3	AQ-9	2a層	17世紀初頭	I		1号舟戸
7号柱列柱1	AQ-9	2c層	19世紀～近代以前	I-III		
4号建物柱5	AP-10	2c層	17世紀前葉～未葉	I		3号建物柱11
3号建物柱11	AP-10	2c層	17世紀前葉～未葉	I	4号建物柱5	
ビット7	AQ-10	2b層	不明	不明		
3号建物柱1	AP-9	2c層	17世紀前葉～未葉	I		
3号建物柱2	AQ-9	2c層	17世紀前葉～未葉	I		
ビット10	AK-8	4層	不明	不明		
ビット11	AP-11	3a層	不明	不明		
ビット12	AQ-10	2b層	不明	不明		
ビット13	AP-9	3a層	19世紀前葉～中葉以前	I-III		2号遺構
ビット14	AQ-10	2b層	不明	不明		
ビット15	AQ-10	2b層	17世紀末葉～18世紀初頭	I-IIa		
3号建物柱16	AQ-11	2b層	17世紀前葉～未葉	I		
ビット17	AP-10	2c層	17世紀以後	I-III	2号建物柱5	
2号建物柱5	AP-10	2c層	17世紀以後	I-III		ビット17
ビット19	AQ-10	2b層	不明	不明		
3号建物柱14	AP-11	3a層	17世紀前葉～未葉	I		
ビット21	AR-10	2b層	不明	不明		
2号建物柱4	AP-9	2c層	17世紀以後	I-III		
2号建物柱3	AO-9	2c層	17世紀以後	I-III		
7号建物柱4	AQ-7・8	3a層	17世紀～18世紀以後	I-III		
ビット25	AP-11	3a層	近代	III		2号溝
7号建物柱3	AQ-7	3a層	17世紀～18世紀以後	I-III		
6号柱列柱1	AQ-7・8	3a層	17世紀初頭	I		
ビット28	AO-6	3a層	不明	不明		
ビット29	AQ-8	3a層	不明	不明		
4号柱列柱6	AP-6	3a層	近世	I-III		
4号柱列柱4	AP-6	3a層	近世	I-III		
6号柱列柱2	AQ-8	3a層	17世紀初頭	I	6号遺構	
4号柱列柱5	AP-6	3a層	近世	I-III		
ビット34	AR-11	2b層	不明	不明		
ビット35	AQ-11	2b層	不明	不明		
ビット36	AO・AP-7	3a層	17世紀～18世紀以後	I-III	7号建物柱2	
7号建物柱2	AO・AP-7	3a層	17世紀～18世紀以後	I-III	ビット38	ビット36
ビット38	AO-7	3a層	17世紀～18世紀	I-IIb		7号建物柱2
ビット39	AP・AQ-6	3a層	不明	不明		
ビット40	AQ-6	3a層	18世紀以前	I-IIb		2号舟戸
ビット41	AP-6	3a層	不明	不明		
7号建物柱5	AP-8	3a層	17世紀～18世紀以後	I-III		
2号建物柱2	AP-8・9	3a層	17世紀以後	I-III		
4号柱列柱3	AO-6	3a層	近世	I-III		
ビット45	AO-7	3a層	不明	不明		
7号建物柱1	AO-7	3a層	17世紀～18世紀以後	I-III		
4号柱列柱2	AN-6	3b層	近世	I-III		
4号柱列柱1	AN-6	3a層	近世	I-III		
ビット49	AN-8	3b層	18世紀後葉～19世紀	IIIb-III		
4号建物柱1	AM-10	3b層	17世紀前葉～未葉	I		
4号建物柱6	AN-10	3b層	17世紀前葉～未葉	I		
ビット52	AL-6・7	4層	不明	不明		
1号建物柱2	AO-10・11	3a層	17世紀初頭	I		
ビット54	AO-10	3a層	不明	不明		
4号建物柱3	AO-10	3a層	17世紀前葉～未葉	I	1号溝	
1号建物柱1	AN-10	3a層	17世紀初頭	I		
ビット57	AJ-8	4層	不明	不明		
ビット58	AO-11	3b層	不明	不明		
2号建物柱1	AO-8・9	3a層	17世紀以後	I-III		
4号建物柱4	AN-10	3a層	17世紀前葉～未葉	I		
4号建物柱2	AN-10	3a層	17世紀前葉～未葉	I	1号溝	
ビット62	AP・AQ-9	2層	19世紀前葉～中葉以前	I-III		2号遺構
ビット64	AN-9	1号溝底面	17世紀前葉～未葉以前	I		1号溝
ビット65	AS-10	2a層	不明	不明		
ビット66	AR-10	2a層	不明	不明	ビット67	
ビット67	AR-10	2a層	不明	不明		ビット66
ビット68	AR-11	2a層	不明	不明		
ビット69	AR-10	2a層	不明	不明		
ビット70	AR-10	2a層	17世紀前葉～未葉	I	3号建物柱12	
3号建物柱12	AR-10	2a層	17世紀前葉～未葉	I		ビット70

表13 ビット一覧表(2)

Tab.13 Pit list (2)

名称	区名	確認面	時期	段階	重複する遺構の新旧	
					古い	新しい
ビット72	AS-10	2a層	不明	不明		
3号建物柱13	AR・AS-10	2a層	17世紀前葉～未葉	I	ビット74	
ビット74	AR-10	2a層	17世紀以前	I		3号建物柱13
3号建物柱3	AR-9	2a層	17世紀前葉～未葉	I		
3号建物柱6	AS-9・10	2a層	17世紀前葉～未葉	I	ビット84	
ビット77	AS-9	2a層	17世紀前葉～18世紀前葉	I-IIa		
3号建物柱4	AR-9	2a層	17世紀前葉～未葉	I		5号遺構
ビット79	AR-9	2a層	17世紀前葉～未葉以後	I-III	ビット80	
3号建物柱5	AR・AS-9	2a層	17世紀前葉～未葉	I		ビット79
ビット81	AS-9	2a層	近世	I-III		
ビット82	AS-9	2a層	不明	不明		
ビット83	AS-9	2a層	19世紀～近代以前	I-III	7号柱列柱3	5号遺構
ビット84	AS-10	2a層	17世紀以前	I		3号建物柱6
ビット85	AR-9	2a層	19世紀～近代以前	I-III		5号遺構
ビット88	AR-9	5号遺構底面	19世紀～近代以前	I-III		5号遺構
7号柱列柱2	AR-9	3a層	19世紀～近代以前	I-III		5号遺構
ビット90	AR・AS-7	3a層	18世紀末葉～19世紀中葉以前	I-III		65号遺構
ビット92	AS-8・9	2b層	17世紀以前	I		10・75号遺構
ビット93	AS-7	3a層	不明	不明		
ビット94	AS-7	地山	不明	不明		
ビット95	AS-9	5号遺構底面	19世紀～近代以前	I-III		ビット83
7号柱列柱3	AS-9	2b層	19世紀～近代以前	I-III		
ビット97	AT-6	2b層	不明	不明		
ビット98	AS-10	2b層	不明	不明		
3号建物柱10	AT-10	2b層	17世紀前葉～未葉	I		
ビット100	AT-10	2b層	17世紀前葉～未葉以後	I-III	3号建物柱8	
3号建物柱9	AS・AT-10	2b層	17世紀前葉～未葉	I		
ビット102	AS-9・10	2b層	17世紀	I		
ビット104	AT-9	2b層	17世紀前葉～未葉以後	I-III	3号建物柱7・8	
3号建物柱8	AT-9・10	2b層	17世紀前葉～未葉	I		ビット100・104
3号建物柱7	AS・AT-9・10	2b層	17世紀前葉～未葉	I	ビット107	ビット104
ビット107	AS-9・10	2b層	17世紀前葉～未葉以前	I		3号建物柱7
ビット108	AS-8・9	2b層	不明	不明		
ビット109	AS-9	2b層	不明	不明		
ビット110	AS-9	2b層	不明	不明		
ビット112	AT・BA-9	4層	不明	不明		
ビット113	BA-8	13号遺構埋土	18世紀後半以後	IIb-III	13号遺構	
ビット116	AT-8	13号遺構底面	18世紀後半以前	I-IIb		13号遺構
9号柱列柱2	AR-14	16号遺構埋土	19世紀前葉～後葉(近代)	III	16号遺構	
9号柱列柱3	AR-14	16号遺構埋土	19世紀前葉～後葉(近代)	III	16号遺構	
ビット119	AQ-14	2b層	不明	不明	ビット258	
5号柱列柱3	AP-14	2b層	17世紀	I		
5号柱列柱2	AP-13	2b層	17世紀	I		
ビット122	AS-13	2b層	不明	不明		
ビット123	AQ-14	2b層	19世紀前葉～後葉(近代)	III	9号柱列柱1、ビット244・258、61号遺構	ビット217
ビット124	AP-14	2b層	不明	不明		
ビット125	AR-13	2b層	近世	I-III		
ビット126	AS-13	2b層	近世	I-III		
ビット127	AS-13	2b層	不明	不明		
ビット128	AQ-13	2b層	17世紀前葉～18世紀以後	I-III	5号建物柱3、7号溝	
ビット129	AS-14	2a・2層	19世紀前葉以後	III	ビット186	ビット178
ビット130	AQ-13	2b層	17世紀前葉～18世紀後葉以後	I-III	7号溝	
6号建物柱1	AR-12	3a層	19世紀前葉～中葉	III		
6号建物柱6	AR-13	3a層	19世紀前葉～中葉	III		
5号建物柱3	AQ-13	2b層	17世紀前葉以後	I-III	ビット143、7号溝	ビット128
ビット134	AR-12	2b層	近世	I-III		
ビット135	AQ・AR-12	2b層	不明	不明		
ビット136	AR-12・13	2b層	19世紀前葉～中葉	III	6号建物柱2	
6号建物柱2	AR-12	2b層	19世紀前葉～中葉	III		ビット136・138
ビット138	AR・AS-12	2b層	19世紀前葉～中葉以後	III	6号建物柱2	
ビット139	AS-12・13	2b層	不明	不明		
5号建物柱2	AQ-12	2b層	17世紀前葉以後	I-III	7号溝	
ビット141	AT-12	3a層	不明	不明		
ビット142	AT-12	3a層	近世	I-III	ビット145	
ビット143	AP・AQ-13	2b層	17世紀前葉～18世紀	I-IIb	7号溝	5号建物柱3
ビット144	AQ-12	2b層	近世	I-III	ビット190	
ビット145	AS・AT-12	2b層	近世	I-III	ビット146	ビット142
ビット146	AS・AT-12	2b層	近世	I-III		ビット145
ビット147	AR-12	2b層	不明	不明		

表14 ビット一覧表(3)
Tab.14 Pit list (3)

名称	区名	確認面	時期	段階	重複する遺構の古古	
					古い	新しい
ビット148	BD-12・13	2b層	不明	不明		
1号柱列柱2	BG-13	19号遺構埋土	18世紀後半～19世紀初頭	Ⅱb	19号遺構	
1号柱列柱1	BI-13	19号遺構埋土	18世紀後半～19世紀初頭	Ⅱb	19号遺構	
ビット151	BG-13	19号遺構埋土	18世紀後半～19世紀初頭	Ⅱb	19号遺構	
ビット152	BI-13	2a-2層	19世紀前葉	Ⅲ	2号柱列柱2、ビット159・161・162・165、5号溝	
1号柱列柱5	BI-13	5号溝埋土	18世紀後半～19世紀初頭	Ⅱb	5号溝	
1号柱列柱4	BI・BI-13	2b層	18世紀後半～19世紀初頭	Ⅱb		
1号柱列柱3	BI-13	3号溝埋土	18世紀後半～19世紀初頭	Ⅱb	3号溝	
ビット156	BI-13	3号溝埋土	19世紀初頭	Ⅱb	3号溝	
2号柱列柱2	BI-13	2b層	18世紀後半～19世紀初頭	Ⅱb	5号溝	ビット152・160
2号柱列柱1	BI-13	2b層	18世紀後半～19世紀初頭	Ⅱb	ビット161、5号溝	
ビット159	BI-13	2b層	18世紀後半～19世紀初頭	Ⅱb	2号柱列柱2、ビット160・162、5号溝	ビット152
ビット160	BI-13	2b層	18世紀後半～19世紀初頭	Ⅱb	5号溝、ビット157	ビット159
ビット161	BI-13	2b層	18世紀後半～19世紀初頭	Ⅱb	5号溝	2号柱列柱1、ビット152
ビット162	BI-13	2b層	17世紀～18世紀前葉	I-Ⅱa	ビット166	2号柱列柱2、ビット152・159、5号溝
10号柱列柱2	BB-13・14	26号遺構埋土	17世紀後半	I		26号遺構
ビット164	BE-12	22号遺構底面	17世紀～18世紀前半	I-Ⅱa	24号遺構	22号遺構
ビット165	BI-13	5号溝底面	17世紀～18世紀前葉	I-Ⅱa		ビット152、5号溝
ビット166	BI-13・14	5号溝底面	17世紀～18世紀前葉	I-Ⅱa		ビット162、5号溝
ビット167	AP-13	2b層	不明	不明	ビット168	
ビット168	AP-13	2b層	不明	不明		ビット167
ビット170	BI-13	5号溝底面	17世紀～18世紀前葉	I-Ⅱa		5号溝
ビット171	AT-13	6号溝埋土	19世紀前葉～中葉以後	Ⅲ	6号溝	
ビット173	AT-12	42号遺構埋土	19世紀前葉～中葉	Ⅲ	ビット250、42号遺構	6号溝
ビット174	AT-14	2a-2層	19世紀前葉以後	Ⅲ	ビット291	
ビット175	AT-14	2a-2層	19世紀前葉以後	Ⅲ	ビット291	
ビット177	AS-14	2a-2層	19世紀前葉以後	Ⅲ	ビット178、71号遺構	
ビット178	AS-14	ビット177底面	19世紀前葉以後	Ⅲ	ビット129・186	ビット177
ビット179	AS-14	30号遺構底面	19世紀前葉以前	I-Ⅲ		30号遺構
ビット180	BB-12	2b層	19世紀初頭以前	I-Ⅱb	ビット215	
ビット181	BB-12	2b層	19世紀初頭以前	I-Ⅱb		
10号柱列柱1	BB-13	2b層	17世紀後半	I		23号遺構、4号溝
ビット183	AS-14	2a-2層	19世紀前葉	Ⅲ	ビット268	30号遺構
ビット184	AO-12	2b層	近世	I-Ⅲ		28号遺構
ビット185	BB-12	4号溝底面	19世紀初頭以前	I-Ⅱb		4号溝
ビット186	AS-14	2a-2層	19世紀前葉以後	Ⅲ		ビット129・178
ビット187	BB-12	3a層	不明	不明		
ビット188	BD-12・13	17号遺構底面	17世紀末葉～18世紀中葉	I-Ⅱa	ビット294	17号遺構
ビット189	BB-12	2b層	19世紀初頭以前	I-Ⅱb		4号溝
ビット190	AP・AQ-12	2b層	近世	I-Ⅲ		ビット144
ビット191	BB-13・14	4号溝底面	19世紀初頭以前	I-Ⅱb		4号溝
ビット192	AT-14	2a-2層	19世紀前葉	Ⅲ	44号遺構	30号遺構
ビット193	AS-14	2a-2層	19世紀前葉以後	Ⅲ		
5号柱列柱1	AP-12	2b層	17世紀	I		
ビット195	AT-12	42号遺構埋土	17世紀初頭～19世紀初頭	I-Ⅱb	ビット250、42号遺構	6号溝
ビット197	AT-13	2a-2層	19世紀前葉～中葉	Ⅲ		6号建物柱5
ビット198	AS-14	2a-2層	19世紀前葉以後	Ⅲ		
ビット199	AS-14	2a-2層	19世紀前葉以後	Ⅲ		
ビット200	BB-13・14	2b層	17世紀	I		25号遺構
ビット201	BB-13	2b層	19世紀初頭以前	I-Ⅱb		
ビット202	BB-13・14	4号溝底面	17世紀後半～18世紀以前	I-Ⅱb		ビット260、4号溝、杭21
ビット203	AQ-14	7号溝埋土	19世紀前葉～18世紀末葉以後	I-Ⅲ	7号溝	
ビット204	AT-13	6号溝底面	19世紀初頭以前	I-Ⅱb		6号溝
ビット205	AQ-13・14	2b層	17世紀前葉	I	ビット217	7号溝
ビット206	AR-12	2b層	不明	不明		
1号建物柱4	AO-12・13	3a層	17世紀初頭	I	ビット213	
ビット209	AS-12	2b層	不明	不明		
1号建物柱3	AO-12	3a層	17世紀初頭	I		
ビット211	AS-12	2b層	不明	不明		
ビット213	AO-12・13	3a層	17世紀初頭	I		1号建物柱4
ビット214	AS-13	2a-2層	19世紀前葉～中葉以後	Ⅲ	6号建物柱7	
ビット215	BB-12	2b層	19世紀初頭以前	I-Ⅱb		ビット180
8号柱列柱2	AS-14	2b層	16世紀末葉～17世紀初頭	I	ビット291	ビット291
ビット217	AP・AQ-13・14	2b層	17世紀前葉以前	I	ビット123、61号遺構	ビット205
ビット218	AS-14	2b層	19世紀初頭以前	I-Ⅱb		71号遺構

表15 ビット一覧表(4)

Tab.15 Pit list (4)

名称	区名	確認面	時期	段階	重複する遺構の新古	
					古い	新しい
6号建物柱7	AS-13	2a-2層	19世紀前葉～中葉	Ⅲ	ビット200	ビット214
ビット221	AT-13	2a-2層	19世紀前葉以後	Ⅲ		
ビット222	AS・AT-13	2a-2層	19世紀前葉以後	Ⅲ		
ビット223	BA-14	2b層	19世紀初頭以後	Ⅱb-Ⅲ		
ビット224	AT・BA-14	2b層	17世紀後半～18世紀後半以後	I-Ⅲ	ビット240	
ビット225	AT・BA-14	2b層	17世紀～18世紀	I-Ⅱb		
ビット226	AT・BA-15	2b層	18世紀～19世紀初頭	Ⅱa-Ⅱb		
ビット227	AT-14	2b層	19世紀初頭以前	I-Ⅱb		
6号建物柱4	AS・AT-12・13	2a-2層	19世紀前葉～中葉	Ⅲ		
6号建物柱3	AS-12	31号遺構底面	19世紀前葉～中葉	Ⅲ		31号遺構
ビット230	AS-13	2a-2層	19世紀前葉～中葉	Ⅲ	6号建物柱7	ビット233
6号建物柱8	AS-13	51号遺構底面	19世紀前葉～中葉	Ⅲ	8号柱列柱1、51号遺構	31号遺構
ビット233	AS-12・13	2a-2層	19世紀前葉～中葉以後	Ⅲ	ビット230	
9号柱列柱1	AP・AQ-14	2b層	19世紀前葉～後葉(近代)	Ⅲ	ビット244・258	ビット123
ビット236	AS-12・13	51号遺構底部	16世紀末葉～17世紀初頭	I		8号柱列柱1、51号遺構
ビット237	AT-14	2b層	19世紀初頭以前	I-Ⅱb		
ビット238	AS-12	2b層	19世紀中葉以前	I-Ⅲ		48号遺構
ビット239	AS・AT-12	2b層	17世紀初頭	I	ビット248・250、42・57号遺構	31号遺構
ビット240	AT-14	2b層	17世紀後半～18世紀後半	I-Ⅱb		ビット224
3号柱列柱2	BA-12	4層	不明	不明		
3号柱列柱1	BA-12	4層	不明	不明		
3号柱列柱3	BA-13	4層	不明	不明		
ビット244	AP・AQ-14	2b層	17世紀前葉～19世紀後葉	I-Ⅲ	ビット258	9号柱列柱1、ビット123
ビット245	AT-14・15	2b層	17世紀前葉	I		
ビット246	AT-12	2a-2層	19世紀前葉以後	Ⅲ		
ビット248	AS-12	ビット239底面	17世紀初頭以前	I		ビット239
ビット250	AT-12	42号遺構底面	17世紀初頭	I		ビット173・195・239、42号遺構、杭40・43
ビット251	BA・BB-13	2b層	19世紀初頭以前	I-Ⅱb		
ビット253	AP-12	2b層	不明	不明		
ビット254	AR-14	46号遺構底面	18世紀後葉以前	I-Ⅱb		16・46号遺構
ビット256	AR-14	2b層	18世紀後葉以前	I-Ⅱb		16・47・59号遺構
ビット257	AR-14	2b層	18世紀後葉以前	I-Ⅱb		47・59号遺構
ビット258	AP・AQ-14	61号遺構埋土	17世紀前葉～18世紀後葉以前	I-Ⅱb	61号遺構	9号柱列柱1、ビット119・123・244、7号溝
ビット259	BB-13	2a-2層	19世紀前葉	Ⅲ		4号溝
ビット260	BB-13・14	2b層	17世紀後半～18世紀	I-Ⅱb	ビット202・265	4号溝
ビット261	BB-14	2a-2層	19世紀前葉以後	Ⅲ	ビット292、70号遺構	
ビット262	AN-12	3a層	不明	不明		
ビット263	BB-14	2a-2層	19世紀前葉以後	Ⅲ		
ビット265	BB-13	2b層	17世紀後半～18世紀以前	I-Ⅱb		ビット260
ビット266	AQ-12	2b層	17世紀前半	I		
8号柱列柱3	AS・AT-14	2b層	16世紀末葉～17世紀初頭	I		ビット183、30号遺構
ビット269	BB-15	2a-2層	19世紀前葉以後	Ⅲ		
ビット270	BB-15	2a-2層	19世紀前葉以後	Ⅲ	ビット271・280・281	
ビット271	BB-15	2a-2層	19世紀前葉以後	Ⅲ	ビット279・281	ビット270
ビット272	BB-15	2a-2層	19世紀前葉以後	Ⅲ		
ビット274	BB-14	2b層	19世紀初頭以前	I-Ⅱb		
ビット275	BB-14	2b層	19世紀初頭以前	I-Ⅱb		
ビット276	BB-14	2b層	19世紀初頭以前	I-Ⅱb		
ビット277	BB-14	2b層	19世紀初頭以前	I-Ⅱb	ビット292	
ビット279	BB-15	2b層	17世紀後葉～18世紀後葉	I-Ⅱb		ビット271
ビット280	BB-15	2a-2層	19世紀前葉	Ⅲ		ビット270
ビット281	BB-15	2b層	19世紀初頭以前	I-Ⅱb		ビット270・271
ビット282	BB-14	2b層	19世紀初頭以前	I-Ⅱb		
ビット283	BB-14	2b層	19世紀初頭以前	I-Ⅱb		
ビット284	BB-15	2b層	17世紀後半以前	I		63・64号遺構
ビット285	BB-14	2b層	19世紀初頭以前	I-Ⅱb		
ビット287	AS・AT-13	2a-2層	19世紀前葉～中葉以後	Ⅲ	51号遺構	
3号建物柱15	AQ-11	2b層	17世紀前葉～末葉	I		
5号建物柱1	AP-12	2b層	17世紀前葉以降	I-Ⅲ		
6号建物柱5	AT-12・13	42号遺構埋土	19世紀前葉～中葉	Ⅲ	ビット197、42-57号遺構	6号溝
ビット291	AS・AT-14	2a-2層	19世紀前葉以後	Ⅲ	30・43・44号遺構	ビット174・175、41号遺構
ビット292	BB-14	2a-2層	19世紀前葉以後	Ⅲ	ビット277、70号遺構	ビット261
8号柱列柱1	AS-12・13	51号遺構底面	16世紀末葉～17世紀初頭	I	ビット236	6号建物柱8、51号遺構
ビット294	BD-12	ビット188底面	17世紀末葉～18世紀中葉	I-Ⅱa	22・24号遺構	ビット188

表16 その他の遺構一覧表
Tab.16 Other remains list

名称	区名	確認面	時期	段階	重複する遺構の新古	
					古い	新しい
石	AS-9	2b層	不明	不明		
杭1	AT-10	2b層	不明	不明		
杭2	AT-9	2b層	不明	不明	67号遺構	
杭3	AT-9	2b層	不明	不明		
杭4	AT-9	2b層	不明	不明		
杭5	AS-9	2b層	不明	不明		
杭6	AS-9	2b層	不明	不明		
杭7	AS-9	2b層	不明	不明		
杭8	AS-9	2b層	不明	不明		
杭9	AS-9	2b層	不明	不明		
杭10	AS-9	2b層	不明	不明		
杭11	AT-9	2b層	近世	I-III	68号遺構	
杭12	BA-9	2b層	不明	不明		
杭13	AT-9	67号遺構底面	不明	不明		67号遺構
杭14	AT-8	13号遺構底面	18世紀後半以前	I-II b		13号遺構
杭16	BE-13	不明	不明	不明		
杭17	AR-12	3a層	不明	不明		
杭18	BE-13	17号遺構埋土	18世紀中葉以後	IIa-III	17号遺構	
杭19	BE-12	17号遺構埋土	18世紀中葉以後	IIa-III	17号遺構	
杭20	BF-12	18号遺構埋土	18世紀前葉～中葉以後	IIa-III	18号遺構	
杭21	BB-13	4号溝底面	19世紀初頭以前	I-II b	ビット202	
杭23	AT-14	44号遺構埋土	19世紀前葉以後	III	44号遺構	
杭25	AT-14	44号遺構埋土	19世紀前葉以後	III	44号遺構	
杭26	BF-13	19号遺構底面	17世紀以前	I	19号遺構	
杭27	BH-13	3号溝底面	17世紀中葉～後葉以前	I		3号溝
杭28	BH-13	3号溝底面	17世紀中葉～後葉以前	I		3号溝
杭29	BH-13	3号溝底面	17世紀中葉～後葉以前	I		3号溝
杭30	BA-13	26号遺構底面	17世紀末葉～18世紀以前	I-II b		26号遺構
杭31	BB-13	26号遺構底面	17世紀末葉～18世紀以前	I-II b		26号遺構
杭32	BB-13	4号溝底面	19世紀初頭以前	I-II b		4号溝
杭34	AS-13	2b層	不明	不明		
杭35	AS-13	2b層	不明	不明		
杭36	AS-12	31号遺構底面	19世紀初頭以前	I-II b		31号遺構
杭37	BB-13	2a-2層	19世紀前葉以後	III		
杭38	AT-13	2a-2層	19世紀前葉以後	III		
杭39	AT-13	2a-2層	19世紀前葉以後	III		
杭40	AT-12	42号遺構埋土	19世紀初頭以前	I-II b	ビット250	6号溝
杭41	BB-13	2b層	19世紀初頭以前	I-II b		
杭42	BB-13	4号溝底部	19世紀初頭以前	I-II b		
杭44	AO-13	2b層	不明	不明		
杭45	AO-13	2b層	不明	不明		
杭46	AP-13	2b層	不明	不明		
杭47	AP-13	2b層	不明	不明		
杭48	AP-13	2b層	不明	不明		
杭49	AP-12	2b層	不明	不明		
杭50	AP-12	2b層	不明	不明		
杭51	AP-12	2b層	不明	不明		
杭52	AN-12	3a層	不明	不明		
杭53	BB-13	2b層	17世紀以前	I	杭57	
杭54	AQ-12	2b層	不明	不明		
杭56	BB-15	2a-2層	19世紀前葉以後	III		
杭57	BB-13	2b層	17世紀	I		杭53
杭58	AT-13	6号溝埋土	19世紀前葉～中葉以降	III以降	6号溝	

第三章 基本層序と時期区分

1. 基本層序 (図9～16)

調査区の基本層序は、南西側に隣接する武家屋敷地区第7地点と、おおむね共通する。

1層：陸軍第二師団期以降、現在に至る時期の整地層・表土層である。掘削は重機で行っている。

2層：基本的にはやや明るい褐色を基調とするシルト質土で、本調査区における主要な遺構検出面である。調査時には、その特徴から2a層～2d層に細分したが、検討の結果、2a層は2b層、2c・2d層は3a層の変色したものと捉えることができた。これらの土壌は全体的に明るく、地点によっては灰色を呈する。これは、土壌の溶脱作用によるものと推定される。この溶脱作用の強弱によって、色が大きく変わり、別の層と認識したものと考える。

- ・2a層 2b層より明度がかなり明るく、AQ～AS-9・10区のみ認められた。当初は、その色調から2b層より上位にある独立する土層と考えたが、その土質が、ほぼ2b層と同様であることから、2b層が部分的に変色したものと捉えた。
- ・2a-2層 2b層の上位にあり、2a層とも土質がかなり異なることから、2a-2層として区分した。その土質は、炭化物や小石が多く混ざる土層である。地点によってその混在の様相が異なる。今回の遺構検出面のひとつである。
- ・2b層 灰黄褐色のシルト質土であり、夾雑物が非常に少ない均質な土質である。今回の主要な遺構検出面である。面的に広がっていたようであるが、削平を受けている部分もある。
- ・2b-2層 2b層の下位にあるが、土質は2b層と類似し、3a層とは全く異なる。2b層より、やや夾雑物が多い。BH・BI-13区近辺に部分的に残存していた。
- ・2c・d層 3a層に層の特徴が類似するが、部分的に灰褐色等を呈していたため、当初2層に含めた。しかし、調査の経過により、3a層が変色したものと捉えられることが判明した。

3層：3a層と3b層に細分した。基本的に茶褐色を呈し、黄色のバミスを多く含み、非常に硬い。3b層は、粘土で構成される4層への漸移層として捉えた。遺物・遺構は確認できなかった。今回は、確認のため部分的に3a層を掘り下げたが、それ以外では3a層上面で調査を終了した。

4層：粘土層であり、地山層として捉えた。これより下位は、粘土と砂の互層によるもので、水性堆積層と考えられる。

調査区西端では、1層直下から3a層あるいは地山層が確認され、2層は削平され存在していなかった。遺構も深く掘り込まれた遺構のみが検出されたにとどまる。この地点では、近代以降に削平がなされ、3a層～4層上面で様々な活動がなされた痕跡が認められた。

図16-①では、4層上面から建物基礎を設置あるいは撤去した際に、4層の土壌が圧縮されて動いている状況を示している。動いている土壌の土質自体は4層そのものであるが、コンクリートが4層に押し込まれることにより、その周辺の土壌が歪む。平面で検出する際には、土質自体は変わりがないため、判断が難しい。

図16-②は、AN-10区で確認した3a層の一部である。通常の3a層は茶褐色であるが、この地点の3a層は脱色され、やや明るく灰色に近い色となっている。そして、それが斑状となり、その間隙に3b～4層で見られる黄褐色の粘土層が認められる。調査時当初は、何らかの遺構の埋土か、基本層とは別の層と想定していた。しかし、この地点の周囲が攪乱を受けていることから、断面でも確認したところ、遺構埋土等とは異なる基本土層であることが判明した。原因は不明であるが、この土層は、3a層が後の何らかの影響により変化したものと捉えた。

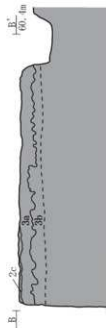
これらの事例では、近世の遺構は直接関係していなかったが、川内キャンパスでは近代以降の第二師団や米軍の造成により、近世の遺構が後に様々な影響を受けることに注意したい。

また、中央部から西部にかけては、2層が堆積し、遺構等も多く確認することができた。その中でも、最も残

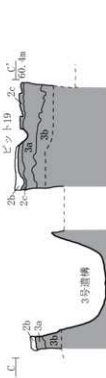
①AQ-6~8区南北土層断面図



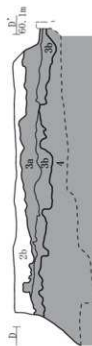
②AQ-8・9区南北土層断面図



③AQ-10・11区南北土層断面図



④AS・AT-10区東西土層断面図



⑤AP~AR-10区東西土層断面図



⑥AN~AP-10区東西土層断面図

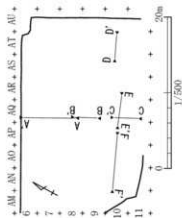
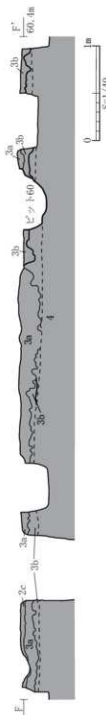


図9 武家屋敷地区第14地点1~4区の土層断面
Fig. 9 Cross section of area 1~4 at BK14

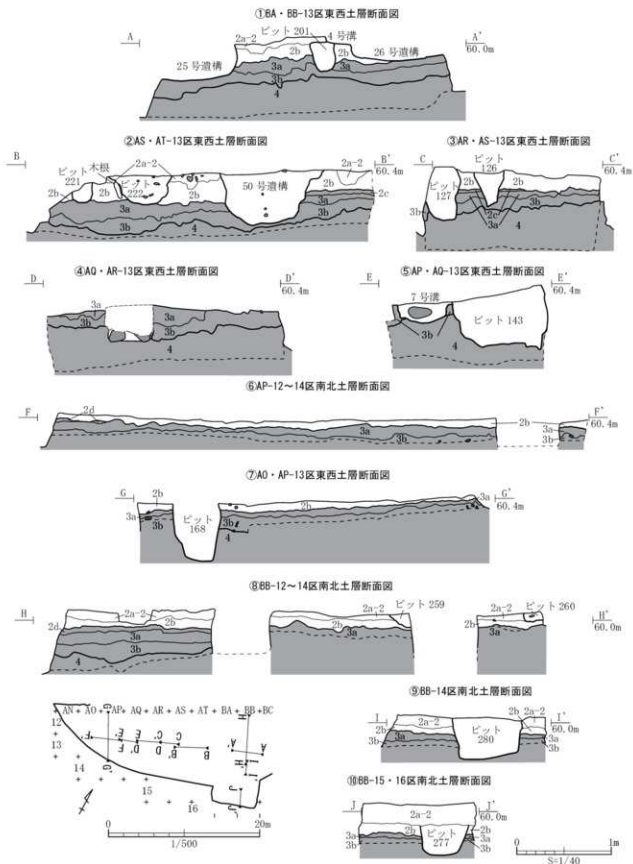
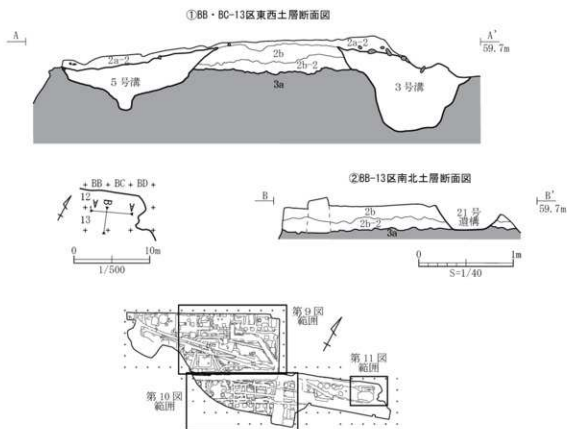


図10 武家屋敷地区第14地点5・6区の土層断面

Fig.10 Cross section of area 5.6 at BK14



基本層

1層

現代の盛土や擾乱土など

2a層

5Y3/2オリーブ黒色 粘土質シルト 粘性中・しまり強 径3-5mm程度の炭化物を 僅かに含む 白色土粒を多く含む 黄色土粒を僅かに含む

2a-2層

10YR3/2黒褐色 シルト 粘性中・しまり中 径0.5-2cmの炭化物を多く含む 明黄褐色粘土ブロックを含む 白色土粒、黄色土粒、径1-2cmの礫を含む

2b層

10YR3/1黒褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 鉄分を多く斑に含む

2b-2層

7.5Y3/3暗褐色 粘土質シルト 粘性中・しまりやや強 褐色土を僅かに含む 白色土粒、黄色土粒、鉄分を僅かに含む

2c層

10YR3/2黒褐色 シルト 粘性弱・しまり中 白色土粒をやや多く含む 径0.5-1cm程度の黄褐色のバミスをやや多く含む 鉄分を含む

2d層

10YR2/3黒褐色 シルト 粘性弱・しまり強 黄色バミスを少量含む

3a層

10YR3/2黒褐色 粘土質シルト 粘性やや強・しまり強 径0.2-1cm程度の白色、黄色のバミスを多く含む マンガンを含む 鉄分を多く含む

3b層

10YR4/3にぶい黄褐色 粘土 粘性強・しまり強 径2-5mm程度の白色、黄色のバミスを僅かに含む 鉄分を僅かに含む マンガンを含む

4層

10YR5/4にぶい黄褐色 粘土 粘性強・しまり強 鉄分、マンガンを含む 径2-5mm程度の白色、黄色のバミスを僅かに含む

図11 武家屋敷地区第14地点7区の土層断面

Fig.11 Cross section of area 7 at BK14

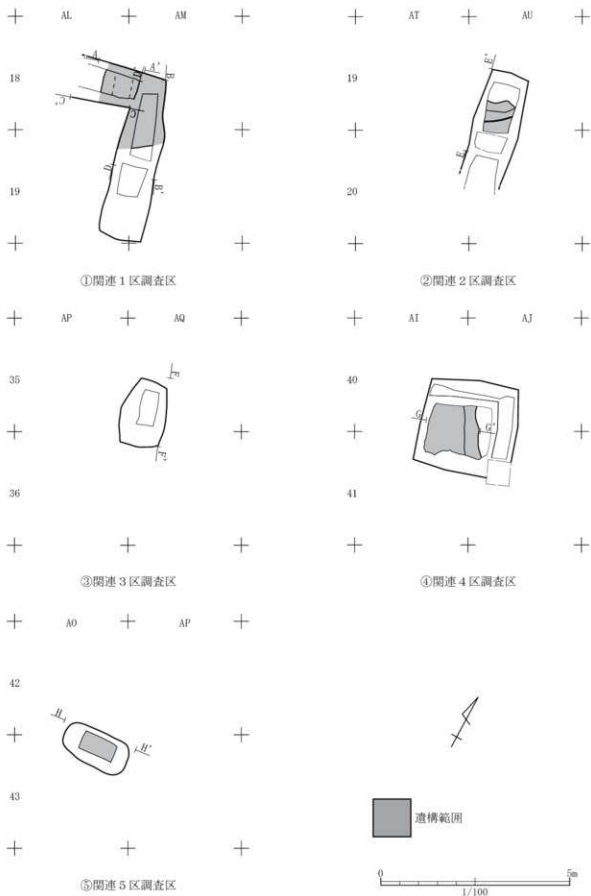


图12 武家屋敷地区第14地点関連区
Fig.12 Excavations related area at BK14

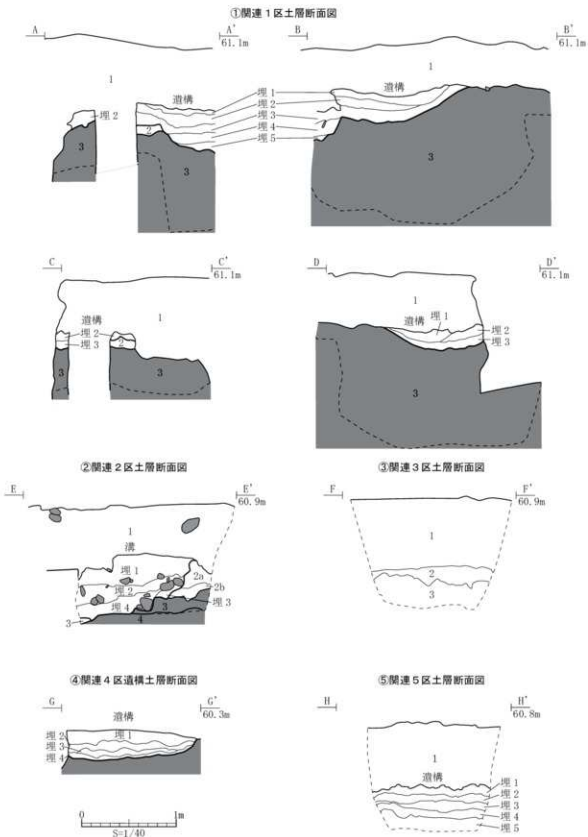


図13 武家屋敷地区第14地点関連区の土層断面(1)
Fig.13 Cross section of related area at BK14 (1)

関連 1 区

基本層

- 1層 現代の盛土等
- 2層 10YR4/2灰黄褐色 粘土 粘性強・しまり強 径0.5-1cm程度の黄色バミスをやや多く含む 本調査区3a層に対応
- 3層 10YR6/3にぶい黄褐色 粘土 粘性中・しまり強 地山土 黄褐色砂をラミナ状に含む 地山層

造構

- 埋土 1層 10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性弱・しまり強 斑状に黒色粘土層を少し含む 白色・黄色土粒を僅かに含む 径3-5mm程度の3層由来の炭化物を少量含む
- 埋土 2層 10YR2/1黒色 砂質シルト 粘性弱・しまり強 炭化物、黄色粘土が斑状に多く混じる 炭化物は材の形状を成しているものが多い
- 埋土 3層 10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性弱・しまり強 径0.5-2cmほどの円礫が少量混じる 白色土粒を少量含む
- 埋土 4層 10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性中・しまり強 径1-3cm程度の円礫を少量含む バミス粒を少量含む
- 埋土 5層 10YR5/2灰黄褐色 粘土 粘性強・しまり強 基本層3層に灰褐色粘土が混じった土質

関連 2 区

基本層

- 1層 現代の盛土等
- 2a層 10YR4/6褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり強 径1-3mmの炭化物を少量含む 径1-2cmの礫を少量含む 本調査区2a-2層に対応
- 2b層 10YR3/2暗褐色 粘土 粘性強・しまり強 下部には径3-5mm程度のバミスを少量含む 径2mm程度の炭化物を少量含む 本調査区2b層に対応
- 3層 10YR5/6黄褐色 粘土 粘性強・しまり強 白色粒を含む マンガン粒を少量含む 本調査区3b層に対応
- 4層 10YR5/4にぶい黄褐色 粘土 粘性強・しまり強 白色・橙色の粒を含む マンガン粒を多く含む 地山層

溝

- 埋土 1層 10YR3/2黒褐色 砂質シルト 粘性強・しまり強 径1-3mm程度の炭化物と白色粒を少量含む 下部はやや茶色味が強くなり径3-10cmの円礫を含む
- 埋土 2層 10YR3/4暗褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり中 褐色砂をまばらに含む 径3-10cmの円礫をやや多く含む
- 埋土 3層 10YR4/6褐色 粘土 粘性強・しまり強 径1-3mmの炭化物を少量含む 白色粒を少量含む 基本層2a層に類似し、その崩落土層と考えられる
- 埋土 4層 10YR4/2灰黄褐色 粘土 粘性強・しまり弱 10YR5/6黄褐色 砂 粘性弱・しまり弱 粘土と砂の互層となる溝床面上は粘土層 砂の部分には径1-15cm程度の円礫を多く含む

関連 3 区

- 1層 現代の盛土等
- 2層 7.5Y3/1オリーブ黒色 砂質シルト 粘性弱・しまり強 白色土粒を多く含む 径2-5cmの礫、木質、鉄分を多く含む
- 3層 2.5Y4/4オリーブ褐色 砂 粘性なし・しまりなし 極めて含質・2・3層は造構の埋土か

関連 4 区

造構

- 埋土 1層 5Y3/1オリーブ黒色 砂質シルト 粘性弱・しまり中 白色土粒を多く含む 黄色土粒、径2-3mmの炭化物、オリーブ灰色土小ブロック、黒褐色土小ブロックを僅かに含む 明治期の層か
- 埋土 2層 7.5Y3/2オリーブ黒色 シルト 粘性弱・しまり中 白色土粒を多く含む 黄色土粒を僅かに含む
- 埋土 3層 10YR4/6褐色 砂 粘性なし・しまり極めて弱 径2-3cmの風化した礫、にぶい黄褐色粘土小ブロックを含む
- 埋土 4層 5Y2/1黒色 粘土 粘性強・しまり中 白色土粒を僅かに含む 砂を僅かにラミナ状に含む
- 埋土 5層 10YR4/3にぶい黄褐色 粘土 粘性強・しまり強 白色土粒を多く含む 鉄分を多く含む 上部は一部グライ化

関連 5 区

基本層

- 1層 現代の盛土等

造構

- 埋土 1層 10YR5/1褐灰色 シルト 粘性弱・しまり弱 径1-2cm程度の礫を中量、径2-3cmの黄白色粘土ブロックを中量、白色粒子を多量に含む マンガンを全体的に含む 瓦などの遺物を含む
- 埋土 2層 10YR5/1褐灰色 粘土質シルト 粘性強・しまりやや強 2-5cm程度の黄白色粘土ブロックを多量に含む 径1cm程度の白色粘土ブロックを少量含む 全体的にマンガンを含む
- 埋土 3層 10YR4/1褐灰色 粘土質シルト 粘性強・しまり強 5mm程度の白色粘土粒を少量含む 全体的にマンガンを含む
- 埋土 4層 5YR5/6明赤褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強 地山の崩落土にマンガンが付着した層
- 埋土 5層 10YR6/4にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強 一部砂質の部分あり 黒色の粒子を少量含む

図14 武家屋敷地区第14地点関連区の土層断面(2)
Fig.14 Cross section of related area at BK14 (2)

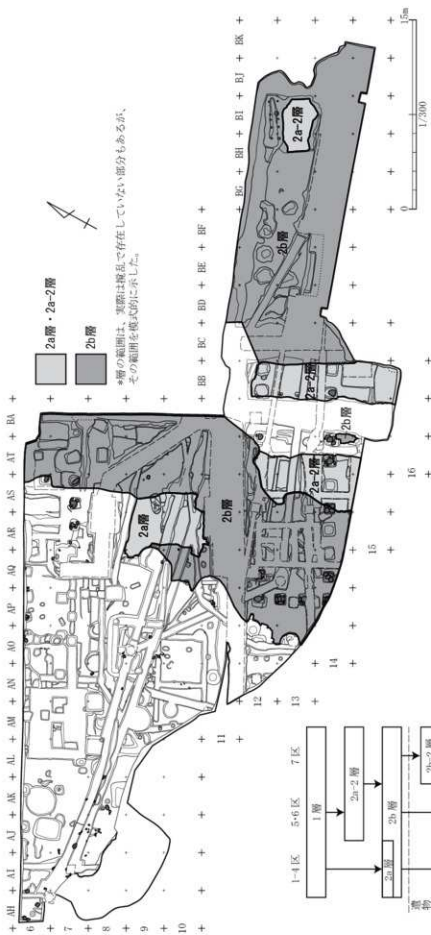


図15 武家屋敷地区第14地点擾乱除去状況および階の分布
 Fig.15 The map of the removed disturbance layer and the distribution of the other layer at BK14



①2区北壁の土層断面：矢印は、土壌の移動方向を示す



②AN-10区の3a層の表面検出状況

図16 特徴的な土層

Fig.16 Characteristic soil layer

りが良い地点では、2a-2層と2b層の堆積が認められる。

2. 遺構の時期比定と段階区分 (図17)

今回の調査では、攪乱が著しく、上層が削平されたため3a～4層上面で検出した遺構も多く、遺物が出土しない場合は、細かな時期を比定することは難しい。一方で、2a-2層・2b層が遺存していた地区では、遺構の層序関係を把握することができる。

本調査区で時期区分の基準となるのが、BH・BI-13区の状態である。この区は遺存状態が良く、2a-2層と2b層が残り、それぞれの層の上面で検出した遺構がある。さらに2b層検出の遺構には、重複関係が認められた。これらの重複・層序関係と、出土遺物から、下記のような段階を設定した。最古段階のⅠ期と最新段階のⅢ期に扶まれるⅡ期は、重複関係からⅡa・Ⅱb期に細分した。

Ⅰ期 (図17-①)：遺構検出面2b層、3号溝が確認され、5号溝より下のピット群が含まれる可能性がある。

Ⅱa期 (図17-②)：遺構検出面2b層、5号溝が確認された。

Ⅱb期 (図17-③)：遺構検出面2b層、3・5号溝より新しい柱列1・2等のピット群が確認できる。

Ⅲ期 (図17-④)：遺構検出面2a-2層。20・21号遺構が確認された。

I～IIb期は、2b層を検出面とするもので、重複関係から段階の設定をした。Ⅰ期の遺構では、3号溝の埋土3層から17世紀中葉～後葉の磁器が出土している。Ⅱa期の遺構では、5号溝から18世紀の遺物が出土している。Ⅱb期の遺構では、1号・2号柱列の柱埋土から18世紀後半の遺物が多く見つかった。Ⅲ期の遺構では、21号遺構から19世紀前葉～中葉の遺物が確認されている。これらの遺物出土状況や、今回の調査における他の遺構からの出土遺物から、それぞれの時期を主体とする下記の様に比定した。

Ⅰ期：16世紀末葉を含む17世紀。

Ⅱa期：18世紀初頭～中葉。

Ⅱb期：18世紀後葉～19世紀初頭。

Ⅲ期：19世紀前葉～後葉。一部近代を含んでいる。

基本的に、遺物による時期比定は、埋土最下層の遺物を重視して判断した。ただし、他の遺構あるいは近現代の攪乱により、埋土に新しい時期の遺物が混入している場合もある。このような場合は、遺物の出土層位、遺構の写真・断面図等を参照しながら、遺構の時期を比定していった。また、井戸に関しては、安全上の理由から底面まで掘りきっていない。そのため、井戸の時期比定は重複関係等のほか、掘り方からの出土遺物を重視して時期を判断した。井戸内部埋土からしか遺物が出土していない場合は、井戸としての機能が終了した埋没時の年代を示すものと判断した。

本調査区の層位・時期を武家屋敷地区第7地点（BK7）と比較すると、Ⅱ期が前・後半の時期（Ⅱa・Ⅱb期）に細分されることとなる。同様に、隣接地である仙台市教育委員会が2007年度に調査した地点（主演ほか2011b）における時期区分と比較すると、おおむね対応するようである。これらの点の詳細を含め、周辺の調査区の遺構との関係等については、来年度刊行の『調査報告』8にて考察したい。

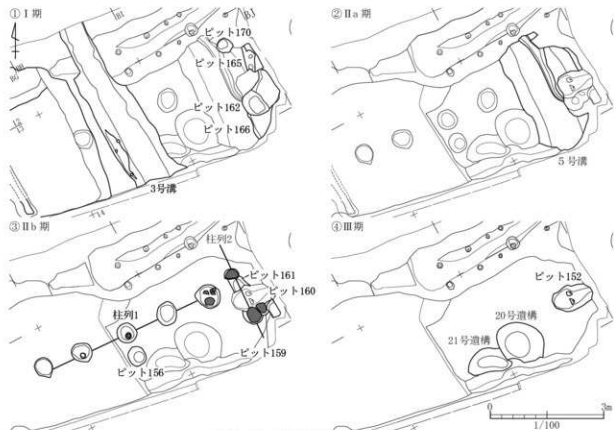


図17 B6～B1区における遺構の変遷
Fig.17 The change of features at area from B6 to B1

3. 近代以降の様相（図18・19）

本報告では、Ⅲ期として19世紀前葉～後葉以降の時期を設定しているが、明らかな明治時代以降の遺構も認められる。第Ⅰ章で述べているように、本調査地点は近代に陸軍第二師団が入り、第二次大戦後に米軍が進駐した場所となる。図18には、調査時に確認できた第二師団期、米軍期の建物痕跡等について表示した。

建物1は、コンクリートの布基礎を有する。その構造や重複関係からすると米軍期の建物と考えられる。建物4・5は1間が3mとなる。その方形の掘込みには、長軸方向を上下とした川原石を隙間なく詰め込み、その隙間には山砂を充填する。そして、中央に巨大な礎石を据える。残存している場所では、中央の礎石は2段以上重ねられていたようである。建物4・5は、これまでの調査事例からしても、第二師団期の建物と考えて間違いない。建物2・3は1間が3mとなり、方形のコンクリート基礎を有する。図16-①で提示した基礎も、この建物3の基礎である。同様の建物基礎は、武家屋敷地区第16地点（『調査報告』5）における第二師団期（Ⅲb期）の大規模な建物の基礎にもみられた。このようなことから、建物2・3も第二師団期の建物跡と考えられる。

また、防空壕が2基確認できた（図19）。防空壕1は、「己」状に細い通路が走る。途中にやや広い空間があったようであるが、現代の料によって壊されている。防空壕2は、防空壕の待避所本体と推定される。

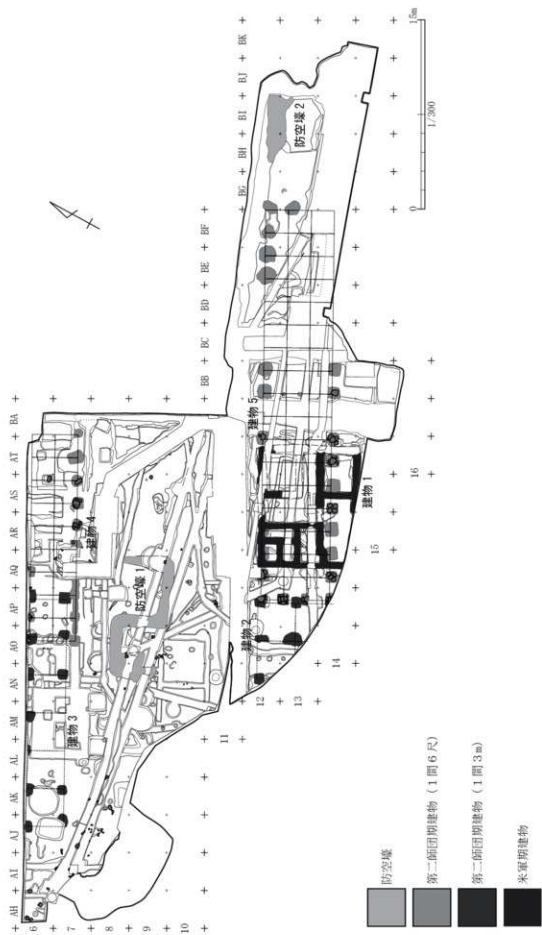


圖18 近現代の建物基礎・防空壕
 Fig.18 Building foundations and air-raid shelter of the modern era

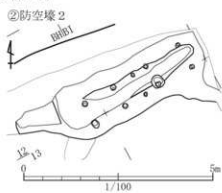
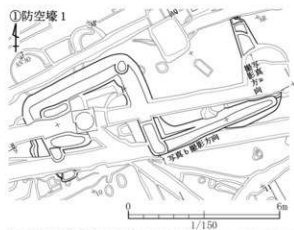


図19 武家屋敷地区第14地点で確認した防空壕

Fig.19 The Bombproof shelter at BK14

第Ⅳ章 検出遺構

1. 遺構の変遷

本調査で確認された遺構は、総数332基である(表17)。そのうち時期を限定的に決めることができたのは、Ⅰ期47基、Ⅱa期3基、Ⅱb期10基、Ⅲ期71基の合計131基(39.5%)である。Ⅱa・Ⅱb期(18世紀初頭～19世紀初頭)の遺構が特に少ないことが、本調査区の特徴となる。その他の遺構の時期は、複数の時期にまたがるものである。それらの遺構は、実際に複数の時期に渡って機能していた可能性もあるが、その理由は、堆積層の削平により検出層位が

3・4層となってしまうている、あるいは出土遺物がないことにより、遺構の重複関係のみにより時期を判断したため、時期が限定できないことによるものである。

遺構数では、ピットが遺構全体の半数以上(187基)を占める。これに含まれていない建物7棟、柱列10条を構成するピットは、それぞれ48、33基であったため、ピット総数は268基となる。建物・柱列として組めたピットの割合は30.2%となる。本調査区より西側に約150m離れた武家式地区第11地点調査区(『調査報告』1: BK11)では、全ピット769基のうち347基(45.1%)を建物・柱列として組むことができた。この割合と比べると本調査区での割合は低い。その理由としては、今回の調査区では、武家屋敷地区第11地点調査区と比べ、近現代の攪乱が数多くかつ細かく入っていることから、連続にピットを組むことができなかったことによるものと考えられる。今回、全体図・写真図版に提示したが、組むことができなかったピット187基の中には、礎板石や柱痕跡を有するものも多数ある。そのピットのあり方からすると、今回復元はできなかったが、より多くの建物・柱列が存在していたものと推定される。

また、建物等を構成すると考えられる礎石として、1基(図版122-8)のみ確認したが、他に組む礎石は確認できなかった。その他に特徴的な遺構としては、4基の池状遺構がある。これらの池状遺構は、調査区東半部に位置し、Ⅰ～Ⅱb期に存在している特徴的な遺構である。この池状遺構の一部は、武家屋敷地区第7地点(BK7)調査区内にも伸びている。

2. 各時期の遺構

(1) Ⅰ期の遺構(図20・21)

【1号建物】(図22) AN-10、AO-10～13区に位置する3×1間(南北方向×東西方向で表記する。以下同様)の建物である。その1間の寸法は、6尺5寸である。この寸法からⅠ期(17世紀初頭)に比定した(『調査報告』1)。その南北の軸角度は、26.9度西偏する(註)。調査区西端の方に位置し、西あるいは南側に伸びる可能性はある。確認できた柱穴のうち2基には礎板石を有する。その柱穴の規模はいずれも小さい。遺物は出土していない。

表17 遺構の時期と数
Tab.17 Phase and the number of features

	建物	柱列	池状遺構	遺構	溝	井戸	ピット	杭	石	総計	
時期	Ⅰ	3	4	2	11	2	1	18	6	47	
	Ⅰ-Ⅱa						9			9	
	Ⅰ-Ⅱb				11	1	35	10		57	
	Ⅰ-Ⅲ	3	2		3		1	29	1	39	
	Ⅱa			1	1	1				3	
	Ⅱa-Ⅱb				2		1(1)	1		5	
	Ⅱa-Ⅲ							3		3	
	Ⅱb		2	1	2			5		10	
	Ⅱb-Ⅲ				3			3		6	
	Ⅲ	1	1		20	4	(1)	37	7	71	
	不明		1		4			50	26	1	82
	総計	7	10	4	57	8	5	187	53	1	332

〔ピット〕には、建物・柱列を構成するピットは含まない。
〔井戸〕の()は、埋没した時期を示す。

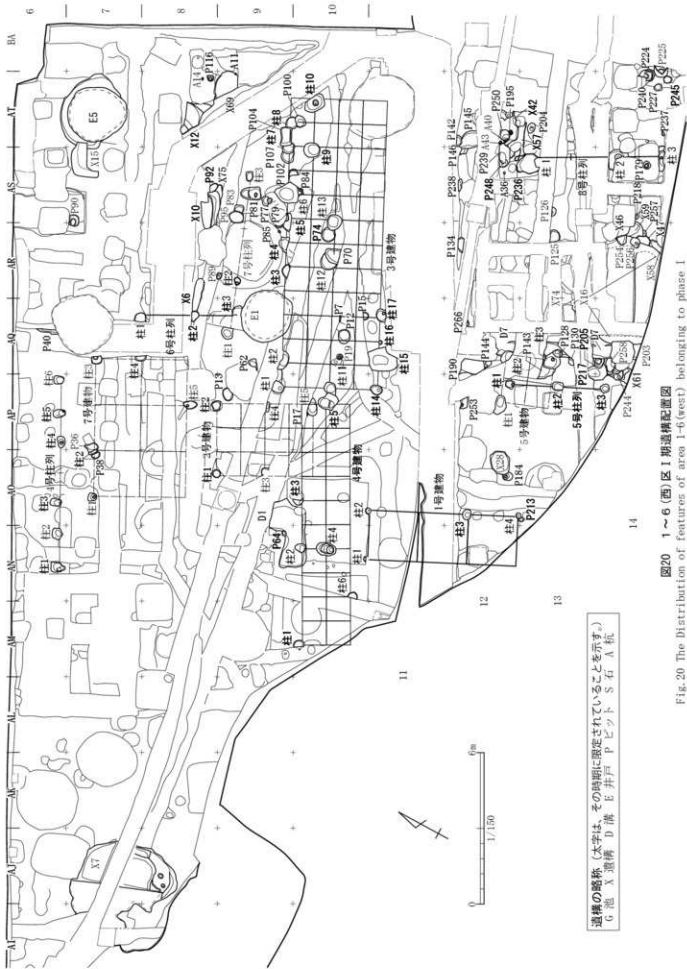
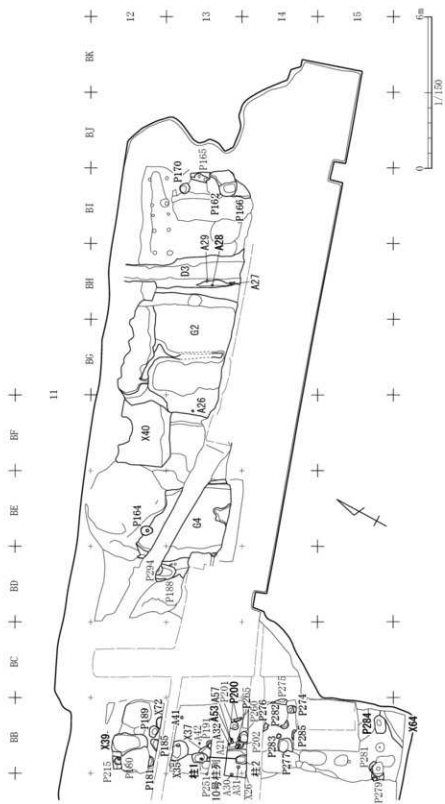


図20 1～6(西)区I期遺構配置図
 Fig. 20 The Distribution of features of area 1-6(west) belonging to phase I

遺構の略称 (大字は、その時期に限定されていることを示す)
 〇 池 A 遺構 D 溝 E 井戸 P ピット S 石 A 坑



遺構の略称（本字は、その時期に掘進されていることを示す）
 G 池 X 通溝 D 溝 E 井戸 P ビット S 石 A 杭

図21 6(東)・7区I期遺構配置図
 Fig.21 The Distribution of features of area 6(west)・7 belonging to phase I

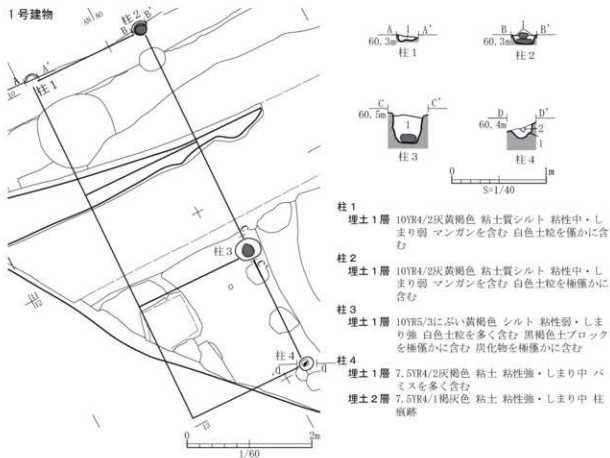


図22 1期の遺構 (1)

Fig. 22 Features belonging to phase I (1)

【3号建物】(図23~25) AP-9~11, AQ-9~11, AR~AT-9・10区に位置する2×6間の建物であり、今回確認できた建物の中では最も規模が大きい。1間の寸法は、6尺3寸である。軸角度は、27.5度西偏する。2号建物の東側に位置する。柱穴にはおおむね柱痕跡が残る。礎板石については東半部の柱穴6基から確認されている。柱15等のように、礎板石はないが柱痕跡が明瞭に残るものもある。柱6の埋土の中位から下部にかけて、礫や材等が廃棄されたような状況で確認されている(図23)。その上部には柱痕跡が認められている。その関係性は不明であるが、柱の入れ替え等を行ったことも想定できる。また、この柱6埋土中より17世紀と考えられる陶器が出土していることから、1期(17世紀前葉~末葉)に比定した。

【4号建物】(図26) AN~AP-10区に位置する1×5間の建物である。1間の寸法は6尺3寸である。軸角度は、28.2度西偏する。その東側において2号建物と重複し、1号・3号建物とは近接する。柱4・5で認められるように抜取り痕も認められる。組めた柱穴が少なく、その様相は判然としない。遺物も出土していないが、3号建物を構成する柱穴との重複関係から、1期(17世紀前葉~末葉)とした。

【5号柱列】(図27) AP-12~14区に位置する。柱穴3基のみの柱列である。1間の寸法は3尺で、軸角度は24.8度西偏する。柱痕跡や礎板石も認められる。他の建物や柱列よりこの軸角度が小さい。柱1の埋土から17世紀の陶器が出土していることから、1期(17世紀)とした。

【6号柱列】(図27) AQ-7~9区に位置する。これも柱穴3基のみの柱列である。1間の寸法は6尺5寸であり、軸角度は26.2度西偏する。その特徴は1号建物と類似しており、実際は建物を構成していた可能性もある。全て

3号建物

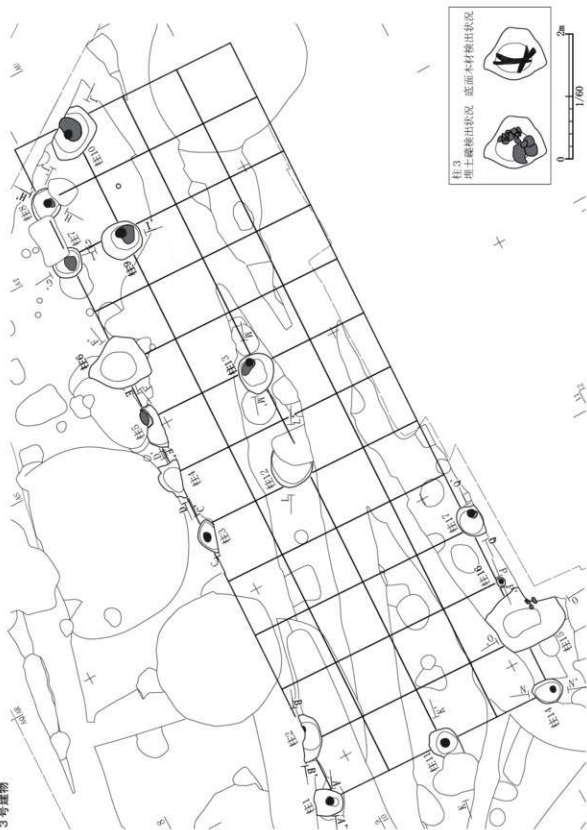
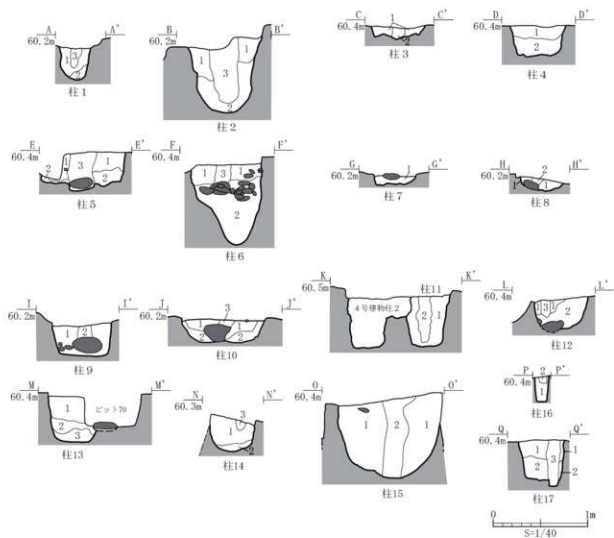


図23 1期の遺構 (2)

Fig. 23 Features belonging to phase I (2)



柱 1

- 埋土 1層 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 暗褐色土・黄褐色粘土ブロックを斑に含む 白色・黄色土粒、鉄分を含む
 埋土 2層 10YR4/6 褐色 シルト 粘性弱・しまり弱 黄色・白色土粒、鉄分を含む
 埋土 3層 10YR4/2 灰黄褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 黄褐色土小ブロック、白色・黄色土粒を僅かに含む 鉄分を含む 柱痕跡

柱 2

- 埋土 1層 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 黒褐色土ブロックを全体に含む 下部で明黄褐色土ブロックを僅かに含む 白色・黄色土粒を含む
 埋土 2層 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 黒褐色・黄褐色土ブロックを斑に含む 白色・黄色土粒を含む
 埋土 3層 10YR5/4 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり弱 明黄褐色・褐灰色土を斑に含む 柱痕跡

柱 3

- 埋土 1層 H10YR2/3 黒褐色 赤色土粒と炭化物を僅かに含む 褐色の土を多く含む
 埋土 2層 H10YR2/1 黒 炭化物・鉄分を少量含む 柱痕跡

柱 4

- 埋土 1層 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 白色土粒、鉄分を含む 黄色土粒、明黄褐色・黒褐色土小ブロックを僅かに含む
 埋土 2層 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 鉄分をやや多く含む 白色・黄色土粒、マンガン、黄褐色粘土ブロックを含む

柱 5

- 埋土 1層 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 粘性弱・しまり強 白色・黄色土粒、鉄分、暗褐色土をブロック状に含む 径1-2mmの炭化物を僅かに含む
 埋土 2層 10YR3/3 暗褐色 粘土 粘性強・しまり強 白色・黄色土粒、鉄分を含む 黒褐色土をブロック状に僅かに含む
 埋土 3層 2.5Y4/2 暗灰黄 シルト 粘性中・しまり強 上部に黒褐色粘土を層状に含む 径3-5mmの炭化物を含む 白色・黄色土粒、鉄分、黄褐色土小ブロックを含む 柱痕跡

図24 I期の遺構(3)

Fig.24 Features belonging to phase I(3)

柱 6

- 埋土 1層** 2.5Y4/2 暗灰黄 粘土質シルト 粘性中・しまり中 褐色粘土ブロックを含む 白色・黄色土粒、鉄分を含む
埋土 2層 10YR4/2 灰黄褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 白色・黄色土粒、鉄分を含む
埋土 3層 2.5Y4/2 暗灰黄 粘土質シルト 粘性強・しまり強 黄褐色・黒褐色粘土ブロック、白色・黄色土粒を含む 径1-2mmの炭化物を僅かに含む 柱痕跡

柱 7

- 埋土 1層** 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 粘性中・しまり中 明黄褐色粘土小ブロック、白色・黄色土粒、鉄分を含む 径1-2mmの炭化物を極僅かに含む

柱 8

- 埋土 1層** 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性中・しまり中 明黄褐色粘土小ブロック、白色・黄色土粒、径0.5-1 cm程度の炭化物を僅かに含む 鉄分をやや多く含む
埋土 2層 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性中・しまり中 白色・黄色土粒、径2mm程度の炭化物を極僅かに含む 鉄分を僅かに含む 柱痕跡

柱 9

- 埋土 1層** 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 粘性中・しまり中 鉄分、黄褐色粘土ブロック、径5mm程度の炭化物を含む 白色土粒をやや多く含む 黄色土粒、握り拳大の礫を僅かに含む
埋土 2層 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性中・しまり中 黄褐色粘土小ブロック、白色・黄色土粒を含む 径5mm程度の炭化物を僅かに含む 柱痕跡

柱 10

- 埋土 1層** 10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 黄褐色粘土小ブロック、白色土粒を多く含む 鉄分、黄色土粒を含む 径3-5mm程度の炭化物を僅かに含む
埋土 2層 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性中・しまり中 白色・黄色土粒を僅かに含む 鉄分を含む 黄褐色粘土ブロック、径3-5mm程度の炭化物を極僅かに含む

柱 11

- 埋土 1層** 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 黒褐色粘土小ブロック、黄色土粒、鉄分を僅かに含む 白色土粒を多く含む
埋土 2層 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土 粘性やや強・しまり弱 白色・黄色土粒を含む

柱 12

- 埋土 1層** 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 白色・黄色土粒、鉄分を含む 径2-5mmの炭化物、灰白色土小ブロックを僅かに含む
埋土 2層 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 にぶい黄褐色粘土ブロックを多く含む 白色・黄色土粒を含む
埋土 3層 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性中・しまり中 黒褐色土ブロック、白色・黄色土粒、鉄分、マンガンを含む

柱 13

- 埋土 1層** 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性中・しまり中 黒褐色土ブロック、鉄分、白色・黄色土粒を含む
埋土 2層 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 径0.5-2 cmの炭化物を僅かに含む 白色・黄色土粒、鉄分を含む 径2-3 cm程度の礫を極僅かに含む
埋土 3層 10YR4/4 褐色 シルト 粘性弱・しまり中 黒褐色粘土小ブロックを僅かに含む 白色・黄色土粒を含む 柱痕跡

柱 14

- 埋土 1層** 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土 粘性中・しまり中 黒褐色・黄褐色粘土ブロックを底に含む 白色・黄色土粒、鉄分を含む
埋土 2層 10YR4/6 粘土質シルト 粘性中・しまり弱 黒褐色・黄褐色粘土小ブロック、黄色土粒を僅かに含む
埋土 3層 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土 粘性中・しまり中 黒褐色粘土ブロックを含む 白色土粒、黄色土粒を僅かに含む 柱痕跡

柱 15

- 埋土 1層** 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 黄褐色・にぶい黄褐色粘土ブロックを底に含む 黄色・白色土粒を全体に僅かに含む 鉄分をやや多く含む
埋土 2層 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土 粘性中・しまり弱 径0.5-2 cm程度の炭化物、鉄分を含む 明黄褐色粘土ブロック、白色土粒を僅かに含む

柱 16

- 埋土 1層** 10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性弱・しまり中 白色・黄色土粒、鉄分を含む 径1 cm程度の礫を極僅かに含む
埋土 2層 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 白色・黄色土粒を極僅かに含む 褐色粘土小ブロックを僅かに含む 柱痕跡

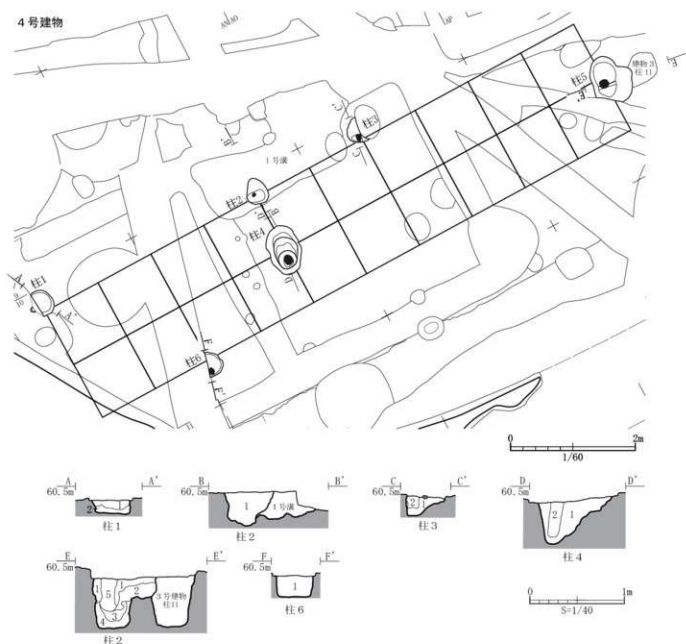
柱 17

- 埋土 1層** 10YR4/2 灰黄褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 径0.5-1 cm程度の炭化物、白色・黄色土粒を含む 鉄分を多く含む 黒褐色土小ブロックを全体に底に含む
埋土 2層 10YR3/1 黒褐色 粘土 粘性強・しまり中 径1 cm程度の炭化物、黄褐色土小ブロックを僅かに含む 灰黄褐色粘土小ブロックを全体に底に含む 鉄分をやや含む
埋土 3層 2.5Y3/2 黒褐色 粘土 粘性強・しまり弱 白色土粒を含む 径2-3mm程度の炭化物を極僅かに含む 柱痕跡

図25 I期の遺構(4)

Fig.25 Features belonging to phase I(4)

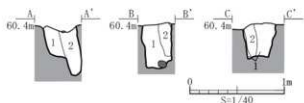
4号建物



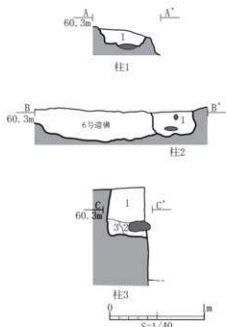
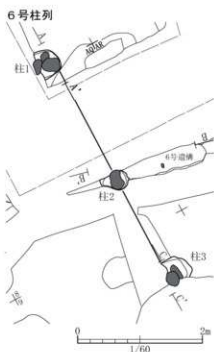
- 柱 1**
 埋土 1層 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 径1cm程の炭化物を極僅かに含む 黄橙土粘土小ブロックを僅かに含む
 埋土 2層 10YR4/6 褐色 粘土 粘性強・しまり強 細かい黄橙土小ブロックを僅かに含む
- 柱 2**
 埋土 1層 10YR4/3 におい黄褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 径3-5mm程度の炭化物をやや多く含む 黄褐色土ブロックを全体に底に含む
- 柱 3**
 埋土 1層 10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強 白色・黄色土粒、径1-2mmの炭化物を含む 浅黄褐色粘土小ブロックを僅かに含む
 埋土 2層 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性弱・しまり中 白色土粒、マンガンを含む 赤色土粒を極僅かに含む 柱痕跡
- 柱 4**
 埋土 1層 10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 黄褐色粘土ブロックを全体にまだらに含む 径2-3mmの炭化物を僅かに含む
 埋土 2層 10YR4/4 褐色 シルト 粘性中・しまり弱 明黄褐色粘土ブロック・白色土粒を含む
- 柱 5**
 埋土 1層 10YR4/3 におい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 黒褐色粘土小ブロック・黄色土粒、鉄分を僅かに含む 白色土粒を多く含む
 埋土 2層 10YR4/3 におい黄褐色 粘土 粘性やや強・しまり弱 白色・黄色土粒を含む 柱痕跡
- 柱 6**
 埋土 1層 10YR4/1 褐灰色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 明黄褐色粘土小ブロックを全体に底に含む 炭化物、暗褐色土ブロックを含む

図26 I期の遺構(5)

Fig. 26 Features belonging to phase 1(5)



- 柱 1**
- 埋土 1層** 10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり強 明黄褐色粘土ブロックを斑状に含む 鉄分、白色・黄色土粒を多く含む
- 埋土 2層** 10YR4/4褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 明黄褐色粘土小ブロックを斑状に多く含む 径1-3mmの炭化物、白色土粒を僅かに含む 柱痕跡
- 柱 2**
- 埋土 1層** 10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり強 にぶい黄褐色暗褐色土ブロックを斑状に含む 白色土粒、マンガン、鉄分を多く含む
- 埋土 2層** 10YR4/2灰黄褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり強 明黄褐色土小ブロック、径5mmの炭化物を含む 柱痕跡
- 柱 3**
- 埋土 1層** 10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり強 鉄分、マンガンを多く含む 白色土粒、パミスを含む 明黄褐色土小ブロックを僅かに含む
- 埋土 2層** 10YR3/2黒褐色 シルト 粘性弱・しまり強 明黄褐色土ブロックを斑状に含む 白色土粒を含む 径5mm程度の炭化物を僅かに含む マンガンを多く含む 柱痕跡



- 柱 1**
- 埋土 1層** 10YR3/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 にぶい黄褐色粘土ブロックをまだらに多く含む 鉄分、白色・黄色土粒を含む マンガンを極僅かに含む
- 柱 2**
- 埋土 1層** 10YR3/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 明黄褐色粘土小ブロックを全体にまだらに含む 径2-3mmの炭化物を僅かに含む 鉄分を全体に含む 白色土粒をやや多く含む
- 柱 3**
- 埋土 1層** 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 粘性弱・しまり中 径2-3mm程度の炭化物を含む 白色土粒をやや多く含む 黄色土粒、にぶい黄色の粘土ブロックを僅かに含む
- 埋土 2層** 2.5Y3/1 黒褐色 粘土質シルト 粘性やや強・しまり中 黄色土粒・鉄分を含む 白色土粒をやや多く含む
- 埋土 3層** 2.5Y4/3 オリーブ褐色 粘土 粘性強・しまり強 黒褐色土をブロック状に含む 黄色土粒を含む 白色土粒・炭化物を極僅かに含む

図27 I期の遺構(6)

Fig. 27 Features belonging to phase I (6)

の柱穴に礎板石を有する。遺物は出土していないが、1号建物との類似性を踏まえてI期（17世紀初頭）とした。

【8号柱列】（図28） AS-12～14、AT-14区に位置する。確認できた柱穴は3基である。1間の寸法は3尺である。軸角度は29.6度西偏する。検出面は基本層2b層で、上に基本層2a-2層が被る。当初、それぞれの柱穴を遺構として認識していたほど、通常のピットに比べて大きい。柱1では柱痕跡が認められた。柱2では、柱痕跡などは認められなかったが、底面から一段凹んだ場所に柱痕跡等を確認することができた。柱3でも床面にて凹みが認められた。また、柱2の埋土からは、16世紀末葉～17世紀初頭の陶磁器が確認されている。このようなことからI期（16世紀末葉～17世紀初頭）とした。

【10号柱列】（図28） BB-13・14区に位置する。柱穴2基のみで組んだ。これらの軸線上には、類似する形状のピットも存在するが、組み合わせない。1間の寸法は6尺で、軸角度は24.6度である。5号柱列の軸角度と近似する。柱痕跡も明瞭に残る。礎板石はない。埋土からは、17世紀後半の陶器が出土しているため、I期（17世紀後半）とした。

【2号池状遺構】（図29・30） BG・BH-12・13区に位置する大型の池状遺構である。この遺構は3箇所に区切られる。それぞれ北部、西部、東部と呼称する。底面が一番高いのは東部で、次に西部、最後に北部となる。この北部と西部の間には、狭い排水部が作られている。また、西部と東部の間には区切るような高まりがあり、その上部に盛土によって土手を形成していた。この土手は、東部と西部を区切る土手としては高さが低いことから、遺存していた土手の上部に更に盛土がなされ、東部と西部を区切る機能があったことが推測される。

この土手の上面にて、筵状の敷物（筵状敷物^{ていじょう}と呼称）が被せられていた状況を検出した（図版30-5）。おそらく、この筵状敷物は土手を整形するための土留の意図があったものと推察される。似たような状況は、東京都汐留遺跡の事例にも見受けられる（土留め堤状遺構：小林ほか2000）。調査の際には、この土手の部分をウレタンで固め、土ごと切り取り、調査室に持ち帰ってから精査と保存処理を施している。また、この筵状敷物より上部は、通常の埋土であったことから、その上部に存在したと考えられる盛土部分はすでに崩れていたものと推測できる。

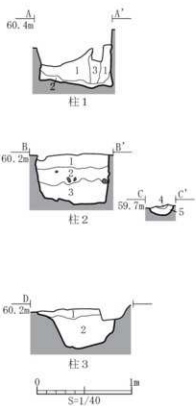
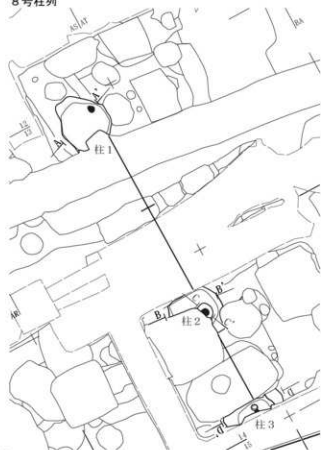
西部と東部を繋ぐ排水部は、攪乱で破壊されており明瞭ではないが、土手が確認できない南端部近辺と考えられる。このような状況からすると、東部から西部へ、そして北部へと水が流れるような構造となっていたものと推察される。

埋土は大きく5枚に分かれるが、その主体は粘土層である。2・3層からは多くの有機質遺物が出土している。2層は有機物も多量に混ざるが、砂もラミナ状に多く混ざる。3・4層は黒色を呈する緻密な粘土層であり、ラミナ状に入る砂層は極少数認められるが、非常に薄い。このような状況からすると、3・4層が堆積する頃には、静かに泥が堆積するような水が停滞していた様相、つまり実際に庭園における池のような景観が想定できる。そして、その後に、砂などが混じるような水の流れが生じていたことが想定できる。なお、5層は地山粘土を含む層であることから、この池が機能し始めた頃の埋土であろう。

最下層の埋土5層から、17世紀の磁器が出土していることから、I期（17世紀）には機能していたと考えられる。埋土からは、多くの有機質遺物や自然遺物が確認されている。調査の際には、1層以外の埋土を水洗し微細な遺物も回収している。先述の筵状敷物の検出状況を含めた遺物内容については、来年度刊行する「調査報告」8で詳述したい。

【4号池状遺構】（図30・31） BD・BE-12・13区に位置する大型の池状の遺構である。2号池状遺構とは異なり、その内部を区切るような施設はない。また、その壁高は高く、西側の壁面下部が削られている。埋土下層から17世紀代の陶器が出土し、明らかな18世紀代の遺物は含まれないことからI期に比定した。南側に位置するIIa期の3号池状遺構と接続し、IIb期の17号遺構に覆われる。3号池状遺構と接続することから、IIa期の段階まで機能していたものと考えられる。その意味では、当遺構の帰属時期は正確にはI～IIa期ではあるが、出土遺物

8号柱列



柱1

- 埋土1層 10VR4/2灰黄色 砂質シルト 粘性弱・しまり強 黄色粘土ブロックを斑状に少し含む 径1cmの円礫を含む
- 埋土2層 10VR5/6黄褐色 粘土 粘性強・しまり弱 灰色粘土を斑状に少量含む
- 埋土3層 10VR3/2黒褐色 粘土 粘性強・しまり弱 褐色シルト土を上部に斑状に含む 柱痕跡

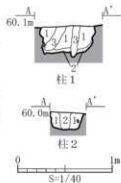
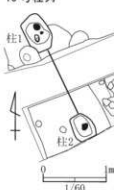
柱2

- 埋土1層 10VR7/2にぶい黄褐色 シルト 粘性なし・しまり強 全体的にマンガンを含む 径2-3mmの白色粘土粒を少量含む 黄色粘土粒を少量含む 径5-10mmの炭化物を中量含む
- 埋土2層 10VR5/3にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり強 径5mm前後の白色粘土粒を多量に含む 径0.5-1cm前後の炭化物を多量に含む 径2-4mmの黄色粘土粒を少量含む 全体的にマンガンを含む 径5cm前後の小礫を含む
- 埋土3層 10VR5/1褐灰色 粘土質シルト 粘性中・しまり強 径5-10cmの黄色粘土ブロックを中量含む 径2mm前後の炭化物、径5mm前後の白色粘土粒、径2-3cmの小礫を少量含む
- 埋土4層 10VR3/2黒褐色 粘土 粘性強・しまり強 径1-3mmの炭化物を少量含む 中央部に黄色粘土ブロックを斑状に含む
- 埋土5層 10VR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり強 径0.5-1cmの炭化物を少量含む 径3-5cmの黄色粘土ブロックをやや多く含む 白色土粒を多く含む

柱3

- 埋土1層 10VR4/3にぶい黄褐色 粘土 小ブロックを斑状に含む 径5mm程度の炭化物を僅かに含む 白色・黄色土粒を多く含む
- 埋土2層 10VR4/3にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 明黄褐色粘土小ブロックを僅かに含む 鉄分、白色・黄色土粒を多く含む

10号柱列



柱1

- 埋土1層 10VR3/3暗褐色 シルト 粘性弱・しまり中 明褐色土を多く含む 白色土粒、バミスを含む
- 埋土2層 7.5YR5/6明褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 径2-3mmの炭化物、バミスを僅かに含む
- 埋土3層 10VR3/2黒褐色 粘土 粘性強・しまり中 径1-2mmの炭化物、白色土粒を極僅かに含む 柱痕跡1
- 埋土4層 10VR4/2灰黄褐色 砂質シルト 粘性ほぼなし・しまり弱 径2-3cmの小礫、白色土粒を極僅かに含む 柱痕跡2

柱2

- 埋土1層 10VR4/1褐灰色 シルト質粘土 粘性中・しまり強 径5mm以下の炭化物を少量含む 径2cmの白色粘土粒を中量含む とくに上部に酸化鉄を含む
- 埋土2層 柱痕跡

図28 I期の遺構(7)

Fig.28 Features belonging to phase I(7)

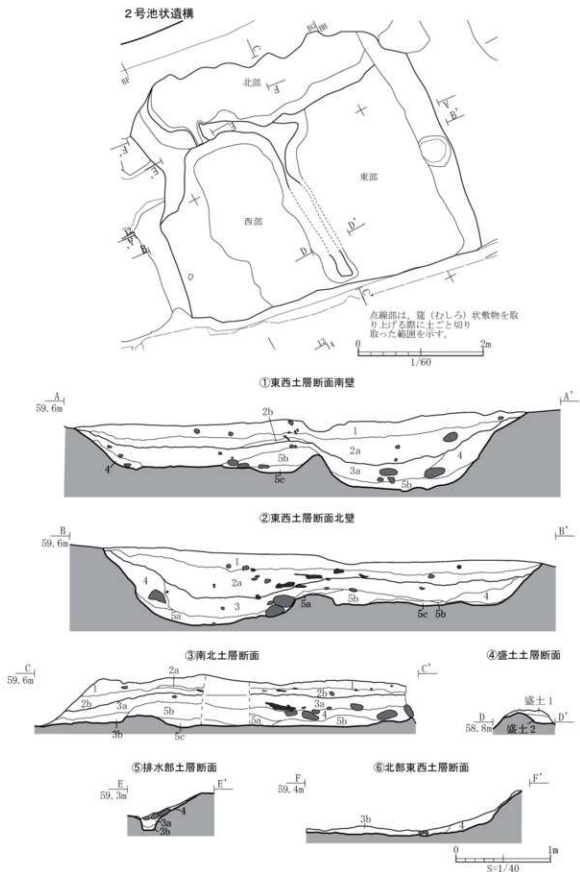


図29 I期の遺構(8)
Fig. 29 Features belonging to phase I(8)

2号池状遺構

- 埋土1層** 10YR4/2灰黄褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり強 径0.5-1cmの炭化物をやや多く含む 白色・黄色土粒、鉄分を含む
- 埋土2a層** 10YR3/2黒褐色 粘土 粘性強・しまり強 径0.5-1cmの炭化物を中量含む とくに西側に有機物をラミナ状に多量に含む 径2-3mm程度の白色・黄色粘土粒を中量含む
- 埋土2b層** 10YR3/2黒褐色 粘土 粘性強・しまり強 径5mm程度の炭化物を多く含む 有機質遺物を多量に含む
- 埋土3a層** 2.5Y2/1黒色 粘土 粘性強・しまり強 とくに西側に径10cm前後の礫を少量含む 有機質遺物等、黄色粘土粒を少量含む
- 埋土3b層** 10YR3/2黒褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 にぶい黄褐色粘土小ブロックを含む 鉄分、白色・黄色土粒を多く含む 径2-3mmの炭化物を僅かに含む
- 埋土4層** 2.5Y2/1黒色 粘土 粘性強・しまり中 埋土3a層より黄灰色粘土粒を多量に含む 全体的にマンガンを多く含む
- 埋土5a層** 2.5Y3/1黒褐色 粘土 粘性強・しまり中 オリーブ灰色粘土を斑状に含む
- 埋土5b層** 2.5Y3/1黒褐色 粘土 粘性強・しまり強 5-10cm前後の灰黄褐色粘土ブロックを全体的に多く含む 径2mm前後の白色粘土粒を多量に含む 全体的にマンガンを含む
- 埋土5c層** 7.5Y7/1灰白色 粘土 僅かに黒色土ブロックを含む 径5mm程度の白色粘土粒を少量含む マンガンを全体的に少し含む 僅かな落ち込みの堆積土
- 盛土1層** 10YR5/4にぶい黄褐色 砂質シルト 粘性強・しまり中 黒色シルト質土を層状に含む 黄色砂質シルト土も層状に含む
- 盛土2層** 10Y5/1灰白色 粘土 粘性強・しまり中 砂質シルトを斑状に少量含む 地山の黄色粘土がグライ化したもの

4号池状遺構

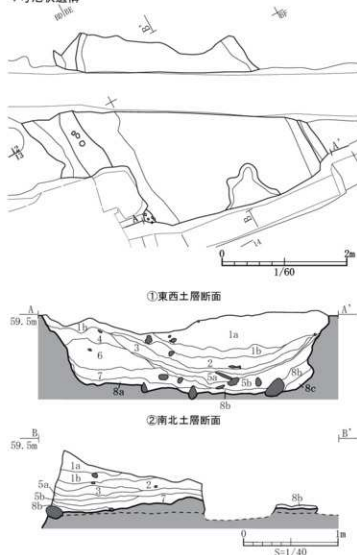


図30 I期の遺構(9)

Fig. 30 Features belonging to phase I (9)

4号池状遺構

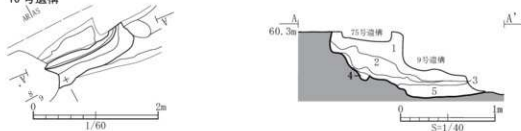
- 埋土1a層** 10YR5/3にぶい黄褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり強 径1-3cm程度の円礫、径5mm程度の炭化物を少量含む 黄色粘土ブロックを斑状にやや多く含む
- 埋土1b層** 10YR4/3にぶい黄褐色 砂質シルト 径3cm程度の礫、径5mmの炭化物を少量含む 白色粘土ブロックを斑状に少量含む 1a層より夾雑物が少ない。
- 埋土2層** 10YR3/3暗褐色 粘土 粘性中・しまり強 木質の遺存体をやや多く含む 白色粘土ブロックを斑状にやや多く含む 黄色砂を少量斑状に含む
- 埋土3層** 10YR3/2黒褐色 粘土 粘性中・しまり中 黄色砂がラミナ状に混ざる 径5mm程度の炭化物を少量含む 東側では木質遺存体を多く含む
- 埋土4層** 10YR3/1黒褐色 シルト 粘性弱・しまり強 白色粘土ブロックを斑状に少量含む 径1-3cm程度の円礫を少量含む 褐色砂を極少量含む 層状は1b層に類似する。
- 埋土5a層** 10YR2/1黒色 粘土 粘性強・しまり弱 上部に木質遺存体を含む
- 埋土5b層** 10YR1.7/1黒色 5aより黒い 粘土 粘性強・しまり弱 径5mm程度の礫を少量含む
- 埋土6層** 10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり強 白色砂質シルト土、木質遺存体をラミナ状に含む 径1-5mm程度の礫、径5mmの炭化物を少量含む
- 埋土7層** 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱・しまり強 木質遺存体を多量にラミナ状に含む 径5mm程度の炭化物を少量含む
- 埋土8a層** 10YR4/1褐灰色 粘土 粘性弱・しまり中 同色の砂をラミナ状に少量含む 下部には地山土（黄色粘土ブロック）を少量含む
- 埋土8b層** 10YR2/1黒色 粘土 粘性中・しまり弱 径5mm程度の炭化物を少量含む
- 埋土8c層** 10YR4/1褐灰色 粘土 粘性中・しまり弱 径5mm程度の炭化物、褐色砂を少量含む

6号遺構



- 埋土1層** 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中 径0.5-1cmの炭化物、径5cm程度の円礫、黄色土粒を僅かに含む 白色土粒を含む 鉄分を全体に僅かに含む
- 埋土2層** 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中 しまり中 径2-3mmの炭化物、黄色土粒を僅かに含む 白色土粒を含む 全体に鉄分を多く含む
- 埋土3層** 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中 しまり中 径2-3mmの炭化物を僅かに含む 白色土粒をやや多く含む 黄色土粒、鉄分を含む
- 埋土4層** 7.5YR3/2 黒褐色 粘土 粘性強 しまり強 白色・黄色土粒をやや多く含む 鉄分を含む

10号遺構



- 埋土1層** 5Y4/1 灰 粘土質シルト 粘性強 しまり強 明黄褐色粘土ブロックを多く含む 白色・黄色土粒、鉄分を含む 径2-5mm程度の炭化物を僅かに含む 径2-3cm程度の円礫を極僅かに含む
- 埋土2層** 2.5Y4/2 灰オリーブ 粘土 粘性強 しまり強 白色・土粒、粘土小ブロック、径3cm程度の礫を僅かに含む 径0.5-1cm程度の炭化物を含む
- 埋土3層** 炭層 一部に灰オリーブ色粘土を含む
- 埋土4層** 5Y5/3 灰オリーブ 粘土 粘性強 しまり中 白色土粒、オリーブ黒色粘土、鉄分を僅かに含む
- 埋土5層** 5.5Y5/2 灰オリーブ 粘土 粘性強 しまり中 白色・黄色土粒、オリーブ黒色粘土を僅かに含む

図31 I期の遺構(10)

Fig.31 Features belonging to phase I(10)

の状況からⅠ期とした。また、床面のレベルは、やや南側の方が高い。次の段階には北側の3号池状遺構と接続し、そちらに向かって排水していることは明らかであるが、Ⅰ期の4号池状遺構は、南側に排水していた可能性も想定しておきたい。

埋土は、大きく8層に区分できた。最上層の1層は、様々な粘土ブロックを斑状に含む層である。2～7層はシルトあるいは粘土を主体とする層であり、すでに土壌化し茶色粘土となっている木質遺存体を多く含む層もある。8層は、黒色の粘土層であり、砂をラミナ状に含んでいる。

【6号遺構】 (図31) AQ・AR-8区に位置する。南北両端を攪乱によって削平されているため、詳細は不明である。遺物は出土していないが、重複関係から6号柱列より古いため、Ⅰ期(17世紀初頭以前)とした。なお、北側が断層のようにずれている。北側にある米軍期の共同溝設置の際に生じたものと考えられる。

【10号遺構】 (図31) AR・AS-8・9区に位置する。6号遺構の東側に位置し、6号遺構と同様に南北両端に攪乱を受けている。やや深めの遺構で、その上位に75号遺構、9号遺構が位置する。埋土2層出土磁器からⅠ期(17世紀)に比定した。

【12号遺構】 (図32) AT-8区に位置する。東側に位置する13号遺構より古い。三方に攪乱を受けるため、詳細は不明である。壁はほぼ垂直に立ち上がる。埋土最下層の6層より17世紀後葉～18世紀中葉と推定される磁器が出土している。13号遺構の時期がⅡb期であることもあり、より古い時期のⅠ期(17世紀後葉?)と時期比定したが、Ⅱa期の可能性もある。

【37号遺構】 (図32) BB-13区に位置する。基本層2a-2層下の基本層2b層で確認した。楕円形を呈するようであるが、削平が著しいため判然としない。埋土は1枚のみであり、そこから17世紀の磁器が出土しており、層位と遺物の時期からⅠ期(17世紀)に比定した。

【39号遺構】 (図32) BB-12区に位置する楕円形の遺構である。基本層2a-2層下の基本層2b層で確認した。やや深い遺構で、埋土は3層に区分できた。それらの埋土は、基本層2b層に類似する層で、大型の礫や粘土ブロックが斑状に混ざる。底面にて板状の敷物を確認した(図版35-6)。非常に脆いため取り上げることはできなかったが、その範囲のみ図32に記載した。層序や埋土3層出土の陶磁器等から、Ⅰ期(17世紀以前)の遺構とした。

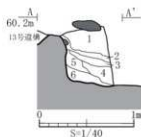
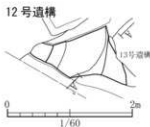
【40号遺構】 (図33) BE・BF-12・13区に位置する、やや大型の長方形の遺構である。重複関係から2号池状遺構より古い。埋土は3枚確認でき、その埋土2層から16世紀末の陶器が出土している。これらのことからⅠ期でも最古段階の16世紀末葉の遺構と判断した。底面は平たく、1・2層に砂を斑状に含んでいることから、池状遺構との関係も想定されるが、不明である。

【42号遺構】 (図33) AT-12区に位置する、楕円形の遺構である。底面付近でピット250に属する大型の礫を確認している。重複関係では6号建物より古い。埋土は1層のみで、そこから17世紀の陶器が出土している。重複関係や遺物の時期から、Ⅰ期(17世紀初頭)に時期比定した。

【57号遺構】 (図33) AS・AT-12・13区に位置する不整形な遺構であり、埋土も薄い。埋土からは17世紀初頭の陶器が出土している。この遺物の存在や、42号遺構や6号建物より古いことから、Ⅰ期(17世紀初頭)に時期比定した。形状や状態からすると何らかの遺構の残存であろう。

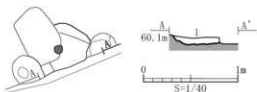
【61号遺構】 (図33) AP・AQ-14区に位置する長方形の遺構である。形状からすると溝の可能性もあるが、攪乱・重複が著しく不明である。埋土は3枚あり、その1・2層は黄色バミスを含み、基本層3a層に類似する。ピット217・258より古く、そのピット217は17世紀前葉の遺構と考えられるピット205より古いことから、本遺構もⅠ期(17世紀前葉以前)に時期比定した。

【64号遺構】 (図34) 調査区南端のBB-15・16区、基本層2a-2層下の基本層2b層上面で確認した。深さはなく、薄い遺構で壁は緩やかに立ち上がる。検出範囲以外は、調査区外の南・東側に広がる。周辺のピット284、63号遺構より古い。埋土1層出土磁器から、Ⅰ期(17世紀後半)に時期比定した。



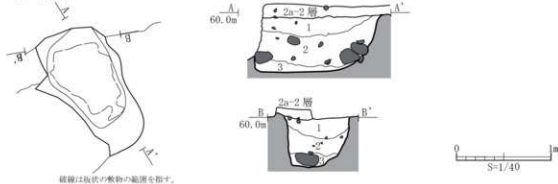
- 埋土1層 10YR3/2 黒褐色シルト 粘性弱・しまり中 径0.5-1cm程度の炭化物をやや多く含む 白色・黄色土粒、径1-3cm程度の礫を含む 明黄褐色土ブロックを僅かに含む
- 埋土2層 10YR2/1 黒シルト 粘性中・しまり中 径1cm程度の炭化物を多く含む 径1-3cm程度の礫を含む 赤色土粒を僅かに含む
- 埋土3層 10YR3/3 暗褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり弱 ぶい黄橙土粘土小ブロック、径0.5-1cm程度の炭化物を僅かに含む 白色土粒を含む
- 埋土4層 10YR3/2 黒褐色 粘土 粘性強・しまり弱 径0.5-1cm程度の炭化物、白色土粒、ぶい黄橙土粘土小ブロック、径1-3cm程度の礫を僅かに含む 有機質の遺物を含む
- 埋土5層 2.5Y3/1 黒褐色 粘土 粘性強・しまり中 白色土粒、灰オリーブ色粘土小ブロックを僅かに含む
- 埋土6層 2.5Y2/1 黒 粘土 粘性強・しまり中 埋土下部に灰オリーブ色粘土をラミナ状に含む 白色土粒を極僅かに含む

37号遺構



- 埋土1層 10YR3/3 暗褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり中 径1cm程度の炭化物を非常に多く含む 明黄褐色土小ブロックを斑状に含む

39号遺構

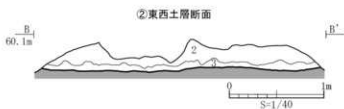
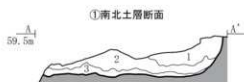
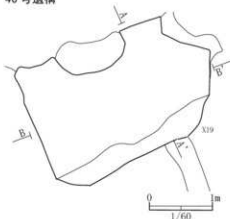


- 埋土1層 10YR4/3にぶい黄褐色シルト 粘性弱・しまり強 黒褐色土を極僅かに含む バミスをやや多く含む 黄褐色土を斑状に含む
- 埋土2層 10YR4/3にぶい黄褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり中 白色・黄色土粒を多く含む 径2-3cmの礫、黄褐色土小ブロックを僅かに含む 径5mm程度の炭化物を極僅かに含む
- 埋土3層 10YR3/2黒褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり中 黄褐色土小ブロック、径5mm程度の炭化物を極僅かに含む

図32 I期の遺構(11)

Fig.32 Features belonging to phase I(11)

40号遺構

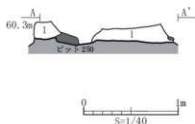
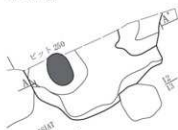


埋土1層 10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性弱・しまり強 褐色砂を斑状に含む 径1-5cmの円礫を少量含む 径5mm程度の白色土粒をやや多く含む

埋土2層 10YR4/3にぶい黄褐色 粘土 粘性強・しまり強 南側壁際には径1-5cmの黄色粘土を斑状に含む 中央部西側上の方に埋土1層に含まれる褐色砂を斑状に含む

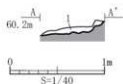
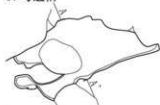
埋土3層 10YR5/3にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 埋土2層の灰色土を斑状に含む

42号遺構



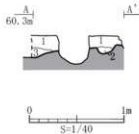
埋土1層 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 粘性弱・しまり強 径1-3mm程度の炭化物を多量に含む 白色土粒を少し含む

57号遺構



埋土1層 褐灰色 砂質シルト 粘性弱・しまり強 径1-3cmの炭化物、土師質土器の小破片をやや多く含む 径0.5-1cmの円礫を少量含む

61号遺構



埋土1層 10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性弱・しまり強 径1-5cmの礫をやや多く含む 基本層の3a層に類似し南部において同色粘土を多く含む

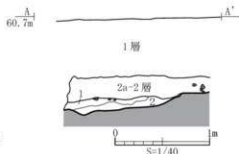
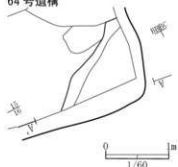
埋土2層 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性中・しまり中 黄色バミスをやや多く含む 3b層に類似する層

埋土3層 10YR5/4 にぶい黄褐色 粘土 粘性強・しまり中 黄褐色砂、径1-2mm程度の炭化物を少量含む

図33 I期の遺構(12)

Fig. 33 Features belonging to phase I(12)

64号遺構



埋土1層 10YR4/3にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 白色・黄色土粒、炭化物を含む 礫を僅かに含む
埋土2層 10YR5/6黄褐色 粘土 粘性強・しまり強 灰黄褐色土を含む 白色・黄色土粒を僅かに含む

1号溝

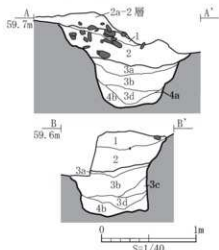


①東西土層断面
埋土1層 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 炭化物、白色土粒を含む やや大きめの黄色土粒を含む
埋土2層 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土 粘性強・しまり中 鉄分、マンガン、白色土粒を含む
埋土3層 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土 粘性強・しまり中 砂をラミナ状に含む 鉄分、マンガン、白色土粒を含む
埋土4層 10YR4/4 褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 鉄分を僅かに含む 黄色・白色土粒を含む

②南北土層断面

埋土1層 10YR4/2灰黄褐色 粘土 粘性強・しまり中 砂をラミナ状に含む 白色土粒を含む 炭化物を極僅かに含む 黄色土粒を僅かに含む
埋土2層 10YR4/2灰黄褐色 粘土 粘性強・しまり中 鉄分を多く含む 白色土粒を極僅かに含む
埋土3層 10YR4/3にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 白色土粒 鉄分を含む
埋土4層 10YR4/3にぶい黄褐色 粘土 粘性強・しまり中
埋土5層 10YR3/3暗褐色 粘土 粘性中・しまり中 白色・黄色土粒、鉄分を含む 黄褐色土ブロックを斑に含む
埋土6層 10YR5/4 にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 白色土粒を極僅かに含む

3号溝



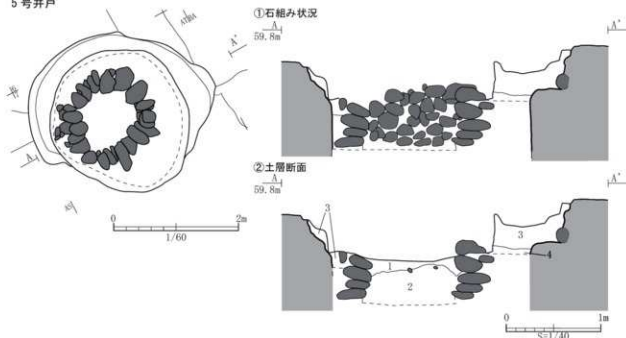
埋土1層 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱・しまり中 鉄分、白色土粒、径5mm程度の炭化物を僅かに含む
埋土2層 10YR3/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 径1cm程度の炭化物を僅かに含む 径3cm・華大の礫を多量に含む 鉄分を多く含む 陶磁器を多く含む

埋土3a層 10YR3/3 暗褐色 粘土 粘性強・しまり強 径1-2mmの炭化物、灰黄褐色粘土小ブロックを僅かに含む
埋土3b層 10YR3/2 黒褐色 粘土 粘性強・しまり強 白色土粒、鉄分を僅かに含む
埋土3c層 10YR3/2 黒褐色 粘土 粘性強・しまり強 灰黄褐色粘土小ブロックを僅かに含む
埋土3d層 10YR3/2 黒褐色 粘土 粘性極めて強・しまり強 鉄分を僅かに含む
埋土4a層 10YR7/4 にぶい黄褐色 粘土 粘性強・しまり中 壁の崩落土
埋土4b層 10YR3/2 黒褐色 粘土 粘性強・しまり中 僅かに砂をラミナ状に含む 鉄分、明黄褐色粘土小ブロックを僅かに含む

図34 I期の遺構(13)

Fig.34 Features belonging to phase I(13)

5号井戸

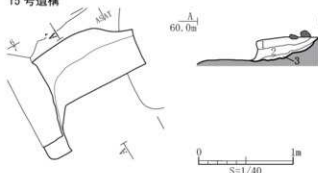


- 埋土1層** 10Y3/2黒褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強 しぶい黄褐色粘土小ブロックをかなり多く含む 白色土粒、鉄分を含む 径0.5-1cm程度の炭化物を含む
- 埋土2層** 2.5Y3/1黒褐色 粘土 粘性強・しまり中 径1cm程度の炭化物、鉄分を僅かに含む 黄色・白色土粒を極僅かに含む
- 埋土3層** 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 粘性弱・しまり強 オリーブ灰色粘土小ブロックを含む 白色・黄色土粒、マンガンを含む
- 埋土4層** 5Y3/2オリーブ黒 粘土 粘性強・しまり中 径1cm程度の炭化物を含む 白色・黄色土粒を含む オリーブ灰色粘土小ブロックを極僅かに含む

図35 I期の遺構(14)

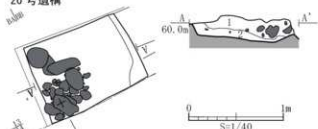
Fig.35 Features belonging to phase I(14)

15号遺構



- 埋土1層** 10YR3/2 黒褐色 粘土 粘性強・しまり中 径3-5mm程度の炭化物を含む 握り拳大の礫を含む 白色・黄色土粒を極僅かに含む
- 埋土2層** 2.5Y3/1黒褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 オリーブ灰色粘土小ブロックを僅かに含む 白色土粒、木質等の有機質遺物を極僅かに含む
- 埋土3層** 10Y5/2オリーブ灰色 粘土 粘性強・しまり中 オリーブ黒色粘土小ブロックを僅かに含む

26号遺構



- 埋土1層** 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性中・しまり強 北側に径5-20cm程度の円礫を多く含む その周囲はやや粘土質となる 褐色砂を斑状に含む
- 埋土2層** 10YR3/4暗褐色 シルト質粘土 粘性中・しまり中 径5mm程度の炭化物を少量含む 径1-2mmの白色土粒を多く含む

図36 I～IIb期の遺構(1)

Fig.36 Features belonging to phase I-IIb(1)

【1号溝】(図34) AN・AO-9・10区に位置する。検出した位置は、ちょうど角の部分に当たる。南北軸は24.4度西偏する。最大幅は南北方向の溝で1.32mである。最大長は東西方向で2.4mである。北と南に更に伸びる可能性もあるが、削平を受けており判然としなない。埋土は東西と南北で異なっていたが、どちらも粘土質の層であり、1・2層は類似する。南北土層断面では埋土1層に黄色の砂がラミナ状に混入する。遺物は出土していないが、4号建物(1期)より古いことから、1期(17世紀前葉～末葉以前)に時期比定した。

【3号溝】(図34) BH-12・13区に位置する深さのある底面の平らな溝である。基本層2a-2層下の2b層上面で確認した。南北軸は27.6度西偏する。最大幅は1.32mで、最大長は4.7mとなる。埋土は、大きく1～4層に分かれる。1・2層はシルト質の土壌で、礫や遺物を多量に含み、黄色粘土ブロックなども斑状に含む。3層以下は粘土層である。特に3層以下は緻密で混入物の少ない粘土層である。最下層の4b層は、砂をラミナ状に含む。このような埋土の状況のほか、3層上面で東壁に段がつくことから、埋土3層上面堆積時点で溝を拡張した可能性も考えられる。埋土3層からは、17世紀中葉～後葉の磁器が出土している。検出層位や出土遺物から、1期の遺構とした。

【5号井戸】(図35) AT-6・7区に位置する石組みの井戸である。掘り方は長軸3m、短軸2.5mの楕円形を呈し、東側掘り方に段がある。井戸本体部は、川原石の長軸を井戸中心に向かって求心状に向けて組んで構築する。安全上の都合から、全て掘り上げていないが、内部、掘り方の埋土をそれぞれ2枚ずつ確認した。その掘り方埋土から出土した陶磁器から、1期(17世紀初葉～後葉)と時期比定をした。なお、内部の埋土からは、18世紀代の遺物も出土していることから、その時期まで使用されていた可能性もある。

(2) I～IIb期の遺構

【15号遺構】(図36) AS・AT-7区に位置する長方形の遺構である。その殆どは攪乱を受けており、部分的にしか残存しておらず、遺構の詳細は不明である。確認できた埋土は3枚である。この埋土からは17世紀後葉～18世紀の陶磁器が出土している。また、5号井戸より新しいことから、I～IIb期の遺構として想定した。

【26号遺構】(図36) BB-13・14区に位置し、三方を攪乱によって破壊されている。埋土は2層に分かれ、うち上層には、大きめの円礫を含む。埋土下層から出土した陶器の年代と、10号柱列より新しいことから、I～IIb期(17世紀末葉～18世紀)と時期比定した。

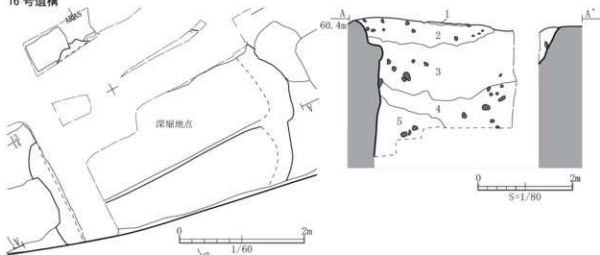
【16号遺構】(図37) AQ・AR-13・14区に位置し、径4.3m程の円形を呈する大型の遺構である。その上部は、米軍期に攪乱を受けている。最深部で3mほど掘り下げたが、底面は確認できなかった。それ以下の掘削に関しては、安全性を考慮して止めた。壁は垂直に立ち上がる。埋土は5枚確認されている。それらの全ての埋土は、円礫を少量含み、大きめの粘土ブロックを斑状に多量に含む。このような層の堆積状況からは、人為的に埋め戻された様相が見受けられる。このような形状と状況から、本遺構は井戸であり、内部の桶等の構造材を何らかの理由で撤去した可能性もある。底面までは確認していないが、埋土4層出土陶器が18世紀後葉の時期のものであったことから、本遺構の時期をI～IIb期(18世紀後葉以前)と推定した。

【35号遺構】(図37) BB-13区に位置する円形の遺構で、壁は垂直に近く急に立ち上がる。埋土は3層に分かれ、1・2層はシルト、3層は粘土質の土質となる。このうち埋土1層出土陶器の年代から、I～IIb期(18世紀後半以前)に時期比定した。

【46号遺構】(図37) AR-14区に位置する大きめの遺構である。そのほとんどが別の遺構や攪乱によって破壊されている。壁は緩やかに立ち上がり、溝のような断面形となる。このうち最下層の3層は、灰の可能性もある灰色土で、黒色土がラミナ状に混ざる。このような状況からすると、溝の一部であった可能性もある。遺物は出土していないが、16号遺構より古い遺構であることから、I～IIb期(18世紀後葉以前)に時期比定した。

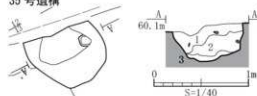
【47号遺構】(図37) AR-14区に位置し、浅くはんだ楕円形の遺構である。埋土は1層のみであり、炭化物や

16号遺構



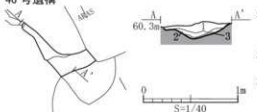
- 埋土1層 10YR5/1 褐灰色 シルト 粘性弱・しまり強 2mm以下の白色粘土粒を多量に含む パミスを含む
 埋土2層 10YR7/1 灰白色 シルト 粘性弱・しまり強 鉄分を全体的に多く含む 2-5mm前後の白色粘土粒、パミスを多量に含む 径10cm以下の礫を所々に含む
 埋土3層 10Y6/1 灰色 シルト 粘性弱・しまり強 埋土2層との境に鉄分が多い 2mm前後の白色粘土粒、パミスを少量含む 径10-15cm前後の礫、黒色土を所々に含む
 埋土4層 層状は、埋土3層と同様であるが黒色土の割合が多い
 埋土5層 10GY7/1 明緑灰色 シルト 粘性中・しまり強 埋土3・4層より若干明るい 径1-2cmの白色土粒、パミスを少量含む 黒色土をあまり含まない

35号遺構



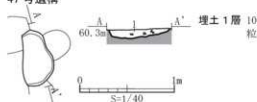
- 埋土1層 10YR4/4 褐色 シルト 粘性弱・しまり中 径5mm程度の炭化物、パミス、径2-5cmの礫を僅かに含む
 埋土2層 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 粘性中・しまり中 明黄褐色土を多く含む 白色土粒、パミスを僅かに含む
 埋土3層 10YR6/4 にぶい黄褐色 粘土 粘性強・しまり中 灰黄褐色粘土、パミスを含む

46号遺構



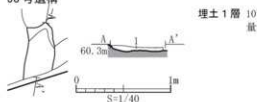
- 埋土1層 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性弱・しまり強 径1-5cmの黄色粘土ブロックを斑状に含む 黄色パミスを少量含む 白色・黄色土粒を多く含む
 埋土2層 10YR3/2 黒褐色 粘土 粘性弱・しまり強 径0.5-1cmの炭化物を少量含む、黄色粘土ブロックを斑状に少量含む
 埋土3層 10YR5/2 灰黄褐色 粘土 粘性弱・しまり強 黒色粘土を層状、ラミナ状に含む 灰の可能性ある

47号遺構



- 埋土1層 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性弱・しまり強 径1-3cmの礫、白色・黄色土粒をやや多く含む 径1-5mmの炭化物を多く含む

58号遺構



- 埋土1層 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性中・しまり強 径0.5-1cmの炭化物を少量含む 径5mm程度の黒色粘土を斑状に多く含む

図37 I～IIb期の遺構(2)

Fig. 37 Features belonging to phase I-IIb(2)



図38 I～IIb期の遺構(3)
Fig. 38 Features belonging to phase I-IIb(3)

小礫等を多く含む。遺物は出土していないが、この遺構も16号遺構より古いことから、I～IIb期（18世紀後葉以前）に時期比定した。

【58号遺構】（図37） AR-14区に位置する浅い小型の遺構である。南端部は調査区外へと伸びる。その殆どが攪乱を受けているため、詳細は不明である。埋土は1層のみであり、基本層2a-2層に類似する土質である。遺物は出土していないが、16・47号遺構より古いことから、I～IIb期（18世紀後葉以前）に時期比定した。

【59号遺構】（図38） AR-14区に位置する遺構であるが、攪乱等が著しく詳細は不明である。埋土は1層のみある。遺物は出土していないが、46号遺構より古いことから、I～IIb期（18世紀後葉以前）に時期比定した。

【68号遺構】（図38） AT-8・9区に位置し、浅い皿状の遺構である。検出時より多数の礫が密集して検出された。この礫は、大きなものから各サイズの礫が揃い、焼けた痕跡などは認められない。礫は多数確認できたが、人工遺物は全く出土しなかった。隣接するIIb期（18世紀後半）の13号遺構より古いことから、I～IIb期（18世紀後半以前）に時期比定をした。

【72号遺構】（図38） BC-12区に位置する浅い小型の遺構である。当初は礫が固まって検出されたため、集石遺構と命名した。掘り方は、これらの礫のサイズに合わせて掘られているようである。遺物は出土していないことから、機能や時期は全く不明である。ただし、基本層2a-2層下、基本層2b層上部で検出したことから、I～IIb期（19世紀初頭以前）に時期比定した。

【74号遺構】（図38） AQ・AR-13区に位置する遺構である。16号遺構より古い。その大部分は、米軍期のコンクリート下に広がっているため確認できなかった。埋土は、4層に分かれる。このうち3層は炭が主体となる層で、4層はシルト質の粘土層であった。この4層には砂がラミナ状に含まれており、池や溝等の遺構の一部である可能性もある。遺物は全く出土しておらず、重複関係からI～IIb期（18世紀後葉以前）に時期比定した。

【7号溝】（図38） AR-12～14区に位置する南北方向の溝である。その最大幅は1.18mである。壁はやや直立気味に立ち上がる。また、溝ではあるが、埋土に砂をラミナ状に含む等の特徴は認められず、どの埋土にも黄色粘土ブロックを多く含んでいることから、人為的に埋められた可能性が考えられる。遺物は全く出土していない。この溝も16号遺構より古いことから、I～IIb期（17世紀前葉～18世紀後葉）に時期比定した。

（3）I～III期の遺構

遺構の埋土の状況や重複関係から、近世あるいは近代初頭に属するが、遺物の出土等の積極的な根拠がない遺構を、この時期に含めた。

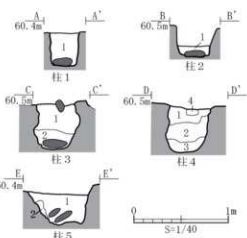
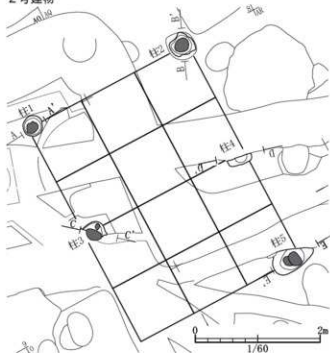
【2号建物】（図39） AO-8・9、AP-8～10区に位置し、2×1.5間（半間を0.5と表記する。以下同様）の小型の建物である。一間の寸法は6尺3寸で、軸角度は26.6度西偏する。柱4以外の柱穴には礎板石を伴う。柱の掘り方は大きくはなく、礎板石とおおむね同等のサイズである。遺物は出土していない。柱間寸法から、近世の遺構と考え、I～III期（17世紀以後）に時期を比定した。

【5号建物】（図39） AP-12、AQ-12・13区に位置する、1間四方の小型の建物である。一間の寸法は6尺3寸であり、軸角度は23.9度西偏する。柱2・3の埋土1層からは、古銭（古寛永）や18世紀代の陶器が出土している。また、7号溝よりは新しい。これらの特徴から、18世紀代の遺構の可能性もあるが、根拠に乏しいことから、I～III期（17世紀前葉以降）に時期を比定した。

【7号建物】（図40） AO～AQ-7・8区に位置する、2×3間の建物である。一間の寸法は6尺で、軸角度は27.7度西偏する。柱2より古いピット38の埋土最上層から、17～18世紀の陶器が出土していることから、I～III期（17世紀～18世紀以後）の遺構とした。柱間寸法などからすると、より新しい時期の遺構である可能性もある。

【4号柱列】（図41） 調査区北端のAN～AP-6区に位置する、6間の柱列である。柱間寸法は4尺で、軸角度は115.9（25.9）度西偏する。出土遺物は、柱5・6から陶器等の少破片が出土しているのみである。より新し

2号建物



柱1
 埋土1層 10YR4/2灰黄褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 明黄褐色粘土小ブロックを全体に含む 鉄分を多く含む 白色・黄色土粒を含む

柱2
 埋土1層 2.5Y3/2黒褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 白色・黄色土粒を含む 灰褐色土小ブロックを僅かに含む

柱3

埋土1層 10YR4/4褐色 シルト 粘性中・しまり中 黄褐色・白色土粒を多く含む

埋土2層 10YR4/4褐色 粘土 粘性中・しまり強 黄褐色土粒を僅かに含む

柱4

埋土1層 10YR5/4にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 黒褐色土ブロックを斑に含む 白色・黄褐色土粒を全体に含む 炭化物を極僅かに含む

埋土2層 10YR3/2黒褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 灰褐色土ブロックを全体に斑に含む 白色・黄褐色土粒を含む

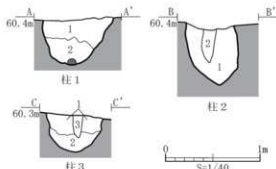
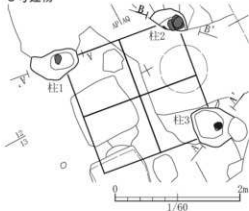
埋土3層 10YR5/6黄褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 黄色・白色土粒を極僅かに含む

柱5

埋土1層 10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 黄褐色粘土ブロックを斑に多く含む 褐色粘土ブロックを含む 白色・黄色土粒をやや多く含む 鉄分を多く含む

埋土2層 10YR4/4褐色 粘土 粘性強・しまり強 白色・黄色土粒を含む 褐色土小ブロックを僅かに含む 鉄分を含む

5号建物



柱1

埋土1層 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性中・しまり強 明黄褐色土小ブロック、白色土粒、鉄分を多く含む 径5mm程度の炭化物を含む

埋土2層 10YR4/2灰黄褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 鉄分を含む 白色土粒を僅かに含む

柱2

埋土1層 10YR4/1褐色 粘土 粘性中・しまり強 黄褐色・褐色・黄褐色粘土ブロックを斑状に含む バミス、径1cmの炭化物を含む 鉄分、マンガンを含む

埋土2層 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱・しまり強 バミス、黄褐色粘土小ブロック、径1cmの炭化物を僅かに含む

柱3

埋土1層 10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり強 明黄褐色粘土ブロック、鉄分、マンガンを含む 径1cm程度の炭化物を含む バミス、白色土粒を僅かに含む

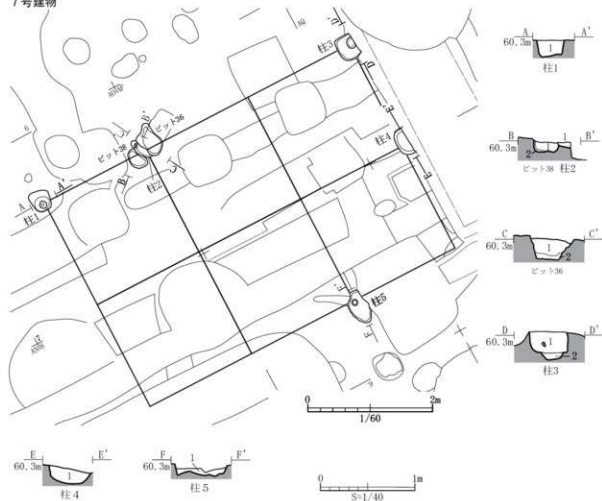
埋土2層 10YR4/3にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり強 白色土粒、バミスを含む 径0.5-1cmの炭化物を僅かに含む

埋土3層 10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性中・しまり中 黄褐色粘土小ブロック、径3-5mmの炭化物、白色土粒を僅かに含む

図39 I～III期の遺構(1)

Fig. 39 Features belonging to phase I-III (1)

7号建物

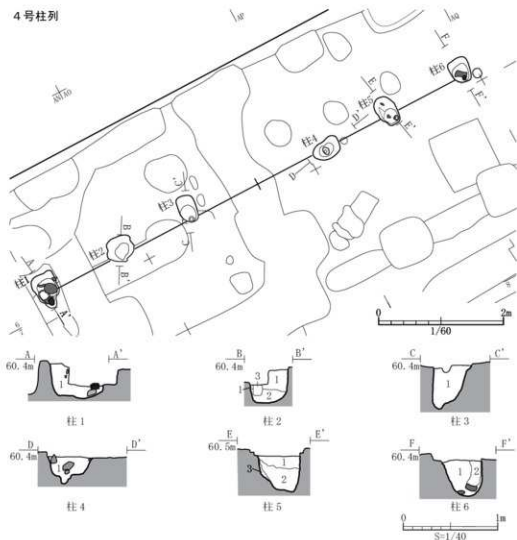


- 柱1**
 埋土1層 10YR4/4褐色 シルト 粘性弱・しまり中 明黄褐色粘土ブロックをやや多く含む 白色・黄色土粒を含む 径2-3mmの炭化物を僅かに含む
- 柱2**
 埋土1層 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 白色土粒、鉄分を含む 径1-3mm程度の炭化物を極僅かに含む 黄褐色のバミスをやや多く含む
- 柱3**
 埋土1層 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性中・しまり中 黄褐色粘土ブロックを全体に斑に含む 径5mm程度の炭化物を僅かに含む 白色・黄色土粒を全体に含む 径1-3cm程度の礫を極僅かに含む
 埋土2層 10YR6/4 にぶい黄褐色 粘土 粘性強・しまり中 白色・黄色土粒を僅かに含む マンガンを多く含む
- 柱4**
 埋土1層 10YR3/3暗褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 径2-3mmの炭化物を含む 黄褐色・白色土粒を斑に含む 径1-5cm程度の礫を僅かに含む 灰白色土小ブロックを僅かに含む
- 柱5**
 埋土1層 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性中・しまり中 黄色・白色土粒を含む 径2-5mm程度の炭化物を含む 鉄分を僅かに含む
- ピット36**
 埋土1層 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱・しまりやや強 白色・黄色土粒・径2cm程度の円礫・径2-3mmの炭化物を極僅かに含む
 埋土2層 10YR4/4 褐色 粘土 粘性強・しまり中 白色土粒を極僅かに含む 鉄分を僅かに含む
- ピット38**
 埋土1層 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性弱・しまり中 白色土粒、径1-5mm程度の炭化物を含む 黄褐色土小ブロックを僅かに含む
 埋土2層 10YR5/6 黄褐色 粘土 粘性強・しまり強 白色土粒、鉄分を僅かに含む

図40 I～Ⅲ期の遺構(2)

Fig.40 Features belonging to phase I-III (2)

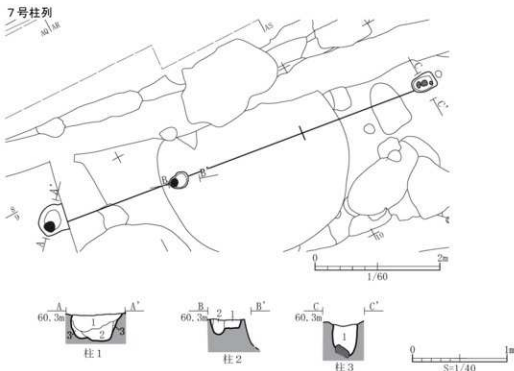
4号柱列



- 柱1**
埋土1層 2.5Y3/2黒褐色 シルト 粘性中・しまり中 黄褐色粘土ブロックを僅かに含む 白色・黄色土粒を含む 黄褐色のバミスを僅かに含む径3-5cm程度の礫を僅かに含む 径0.5-1cm程度の炭化物を含む 鉄分を僅かに含む
- 柱2**
埋土1層 2.5Y3/3暗オリーブ褐色 シルト 粘性弱・しまり中 黄褐色土ブロックを全体に斑に含む 鉄分を多く含む 白色・黄色土粒を含む 径5mm程度の炭化物を極僅かに含む
埋土2層 10YR4/6粘土 粘性強・しまり中 灰黄褐色土ブロックと白色土粒を僅かに含む
埋土3層 2.5Y3/3暗オリーブ褐色 粘土 粘性強・しまり中 柱痕跡 白色・黄色土粒を僅かに含む 黄褐色粘土ブロックを極僅かに含む
- 柱3**
埋土1層 2.5Y3/2黒褐色 粘土質シルト 粘性やや強・しまり中 オリーブ褐色粘土ブロックを僅かに含む 黄色・白色土粒を含む 径3-5cm程度の礫を極僅かに含む 径3-5mm程度の炭化物を僅かに含む 鉄分を多く含む
- 柱4**
埋土1層 2.5Y3/1黒褐色 シルト 粘性弱・しまり中 白色・黄色土粒を含む 径1-3mm程度の炭化物・黄褐色粘土ブロック・径5~10cm程度の礫、鉄分を僅かに含む
- 柱5**
埋土1層 2.5Y4/2暗灰黄 シルト 粘性弱・しまり中 径2-5mm程度の炭化物を極僅かに含む 白色土粒・鉄分を含む 径2-3cm程度の礫を僅かに含む
埋土2層 2.5Y3/1黒褐色 シルト 粘性中・しまり中 オリーブ褐色土ブロックの一部を含む 白色土粒・径0.2-1cm程度の炭化物・鉄分を僅かに含む
埋土3層 2.5Y4/4オリーブ褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 白色土粒・鉄分を僅かに含む
- 柱6**
埋土1層 10YR3/1黒褐色 シルト 粘性弱・しまり強 にぶい黄橙色・にぶい黄褐色粘土ブロックを斑に含む 径2-5mm程度の炭化物と鉄分を僅かに含む 白色土粒を含む
埋土2層 2.5Y3/2黒褐色 シルト 粘性弱・しまり中 柱痕跡 白色土粒を含む 2-5mm程度の炭化物を僅かに含む 黄褐色粘土ブロックを極僅かに含む

図41 I～III期の遺構(3)

Fig.41 Features belonging to phase I-III (3)



- 柱1**
 埋土1層 2.5Y3/1 黒褐色 粘土 粘性強・しまり中 オリーブ灰色の粘土ブロックを斑に多く含む 径2-3cmの円礫を含む 白色・黄色土粒を含む
 埋土2層 2.5Y3/1 黒褐色 シルト 粘性中・しまり中 鉄分、白色・黄色土粒を含む 径2mm程度の炭化物を極僅かに含む
 埋土3層 2.5Y3/2 黒褐色 粘土 粘性強・しまり強 オリーブ褐色粘土ブロックを含む 白色・黄色土粒を僅かに含む 鉄分を含む
- 柱2**
 埋土1層 10YR4/1 褐灰色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 灰オリーブ色粘土小ブロックを僅かに含む 鉄分、白色・黄色土粒を含む
 埋土2層 7.5YR3/1 黒褐色 粘土 粘性強・しまり中 径3-5mm程度の炭化物を僅かに含む 白色土粒を含む 柱底跡
- 柱3**
 埋土1層 5Y4/1 灰 粘土質シルト 粘性中・しまり中 径2-5mm程度の炭化物、明黄褐色粘土ブロック、鉄分、白色・黄色土粒を含む

図42 I～Ⅲ期の遺構(4)

Fig.42 Features belonging to phase I-III (4)

い時期の遺構である可能性もあるが、I～Ⅲ期(近世)に含めた。

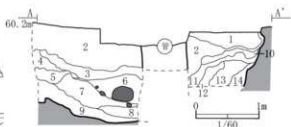
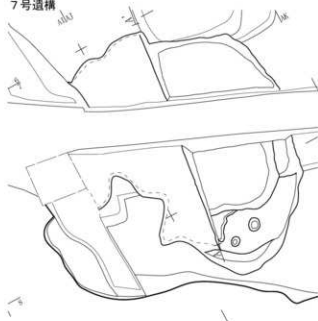
【7号柱列】(図42) AQ～AS-9区に位置する。4間で、柱間寸法は7尺となり、東西方向の軸角度は110.9(20.9)度西偏する。4号柱列と同様に南北方向を想定すると、20.9度西偏することになる。遺物は出土していない。II b～Ⅲ期(19世紀～近代)の遺構である5号遺構よりは古い。これらの状況から、本柱列をI～Ⅲ期(19世紀～近代以前)の遺構とした。

【7号遺構】(図43) 調査区西端のAI・AJ-7・8区に位置するやや大型の遺構である。当初は井戸の可能性も想定して半截して掘り進めたが、検出面から1.5m程下で底面を確認した。本遺構上部に使用中の污水管等もあることから、それ以上の掘削は止めた。

埋土は14層に細分したが、その殆どは、粘土質の埋土である。1～7層は大ききめな礫や、黄色粘土を斑状に含み、人為的に埋め戻されたものと推定できる。一方で、8層から下位の埋土は、均質的な土壌が順に堆積しており、自然に埋没していった様相が窺える。ただし遺物はほとんど出土していない。近世とわかる少破片の磁器、漆碗等が出土している。このような状況を踏まえ、I～Ⅲ期(近世)の時期に比定したが、より新しい時期の遺構である可能性もある。

【28号遺構】(図43) AO-12区に位置する楕円形の小型の遺構である。壁はやや垂直気味に立ち上がる。埋土は

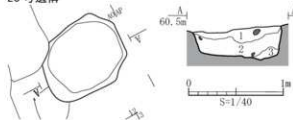
7号遺構



- 埋土1層** 10YR4/6褐色 粘土 粘性強・しまり強 灰黄褐色 粘土ブロックを僅かに含む
- 埋土2層** 2.5Y3/1黒褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり強 黄褐色・緑灰色のバミス全体を含む 緑灰色の粘土小ブロックを極僅かに含む
- 埋土3層** 2.5Y3/1黒褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり強 黄褐色・緑灰色のバミス全体を含む 緑灰色の粘土小ブロックを極僅かに含む
- 埋土4層** 2.5Y3/2黒褐色 粘土 粘性強・しまり中 黄色・緑灰色のバミス全体に僅かに含む 白色土粒を含む 鉄分をやや多く含む

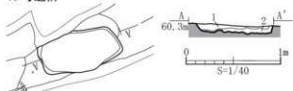
- 埋土5層** 2.5Y4/4オリーブ褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 オリーブ灰色のバミスを極僅かに含む
- 埋土6層** 2.5Y3/1黒褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強 緑灰色の大きめの粘土ブロックを全体に既を含む 白色土粒を極僅かに含む 径2-30cmの礫を僅かに含む
- 埋土7層** 5Y3/1オリーブ黒色 粘土質シルト 粘性強・しまり強 緑灰色粘土ブロック、緑灰色のバミス、径5cm掘り華大の礫を極僅かに含む 白色・黄褐色土粒を含む
- 埋土8層** 5Y3/1オリーブ黒色 粘土 粘性強・しまり中 白色土粒を僅かに含む 緑灰色のバミスを極僅かに含む
- 埋土9層** 10Y5/1灰色 粘土 粘性強・しまり中 緑灰色のバミス、白色土粒を極僅かに含む
- 埋土10層** 10YR4/1褐灰色 粘土 粘性強・しまり中 浅黄色の粘土ブロックを全体に既を含む 径3-5mmの炭化物を極僅かに含む 白色土粒、鉄分を含む 黄褐色のバミスを僅かに含む 一部でグライ化している
- 埋土11層** 10YR4/6褐色 砂 粘性なし・しまり中 黄褐色のバミスを多く含む
- 埋土12層** 10YR4/3にぶい黄褐色 粘土 粘性強・しまり中 極小さいバミスを僅かに含む
- 埋土13層** 10YR5/6黄褐色 粘土 粘性強・しまり中 灰白色粘土、マンガンを極僅かに含む
- 埋土14層** 10YR5/4にぶい黄褐色 砂 粘性なし・しまり中 マンガンを僅かに含む

28号遺構



- 埋土1層** 7.5YR4/6 褐色 粘土 粘性強・しまり強 バミス、褐灰色粘土を多く含む 径5mm程度の炭化物を僅かに含む
- 埋土2層** 10YR4/2 灰黄褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり強 バミスを含む 径0.5-1cmの炭化物を僅かに含む
- 埋土3層** 10YR5/8 黄褐色 シルト 粘性中・しまり弱 バミスを多く含む

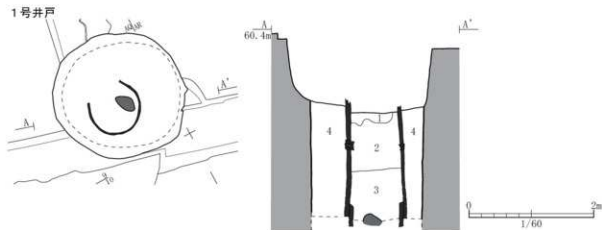
75号遺構



- 埋土1層** 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 粘性弱・しまり中 径2-3mmの炭化物を含む 明黄褐色土小ブロックを僅かに含む 焼土粒を含む
- 埋土2層** 径0.5-2cm程度の炭のみで構成される

図43 I～III期の遺構(5)

Fig. 43 Features belonging to phase I-III (5)



埋土1層 10YR6/6 明黄褐色 粘土 粘性強・しまり中 鉄分、マンガンを含む 白色土粒、灰黄褐色土小ブロックを僅かに含む
 埋土2層 2.5Y3/1 黒褐色 粘土 粘性強・しまり弱 鉄分、マンガン、有機質の木材等を含む 径1-2cm程度の小礫を僅かに含む
 埋土3層 5Y3/1 オリーブ黒色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 径5mm程度の炭化物を含む 陶磁器、瓦、種子等の遺物を含む
 埋土4層 7.5YR/2 灰オリーブ色 粘土 粘性強・しまり中 オリーブ黒色粘土をブロック状に含む 掘方埋土

図44 I～Ⅲ期の遺構(6)

Fig. 44 Features belonging to phase I-III (6)

3層に分かれる。遺物は出土していない。重複するピット184からも遺物は出土していない。埋土の状況等から近世の遺構と考え、I～Ⅲ期（近世）に時期を比定したが、積極的な根拠はない。

【75号遺構】 (図43) AS-8・9区に位置する、長方形の浅い皿状の遺構である。検出時より炭層が顕著に認められたことから、当初は1号焼土遺構と命名した。埋土は2層に分かれ、2層は炭層で、1層には焼土粒等を含む。遺物は全く出土していない。I期（17世紀）の10号遺構より新しい。積極的な根拠はないが、埋土の状況等を踏まえI-Ⅲ期（17世紀以後）の遺構とした。

【1号井戸】 (図44) AQ・AR-9区に位置する桶を利用した井戸である。最上部は攪乱を受けて破壊されていた。安全上の理由から完掘していないが、一段目の桶部分までは掘り下げることができた。掘り方はほぼ円形で、径2mほどである。内部の埋土には、木材や礫が多数混じる。それらの木材等でできた空隙の間から、完形に近い陶器や漆器類を多数確認することができた。この内部埋土出土の陶磁器は、19世紀中葉のものであることから、この時期には埋没完了に近い時期であったことがわかる。一方で、掘り方の埋土からは遺物が出土しておらず、構築時期は不明である。重複関係からI期（17世紀初頭）の6号柱列よりは新しい。この様な状況から、ひとまず本遺構の構築時期をI～Ⅲ期（17世紀初頭～19世紀中葉）としたが、正確な時期は不明である。

(4) IIa期の遺構 (図45・46)

【3号池状遺構】 (図47) BD～BF-12・13区に位置する。I期の4号池状遺構に接続している。その上部は1号池状遺構により削平されている。西側壁面の底面付近は抉られている。南東側に4号池状遺構との接続部と想定できる凹み部がある。4号池状遺構との底面のレベル差が約50cmあり、南側から北側へ水が流れていたことがわかる。この東南部の接続部から、水が勢よく流れ西側の壁面に水流がぶつかることにより抉られた状況も想定できる。遺構埋土は、4層確認できた。最下層には砂層が堆積し、その上部にはラミナ状の砂を含む埋土1層が存在する。

また、西側壁面上部には1号池状遺構のものとも考えられる集石が認められた。その部分には段があり、何らかの石積みがなされていたものと考えられる。検出した集石は、その石積みの裏込め石か、あるいは崩落した石と考えられる。この集石部分に関しては、埋土が薄いため、重複する1号池状遺構との関係が捉えることができなかった。そのため、本遺構の図にも表現した。しかし、後に述べるように1号池状遺構には石積み部が認めら

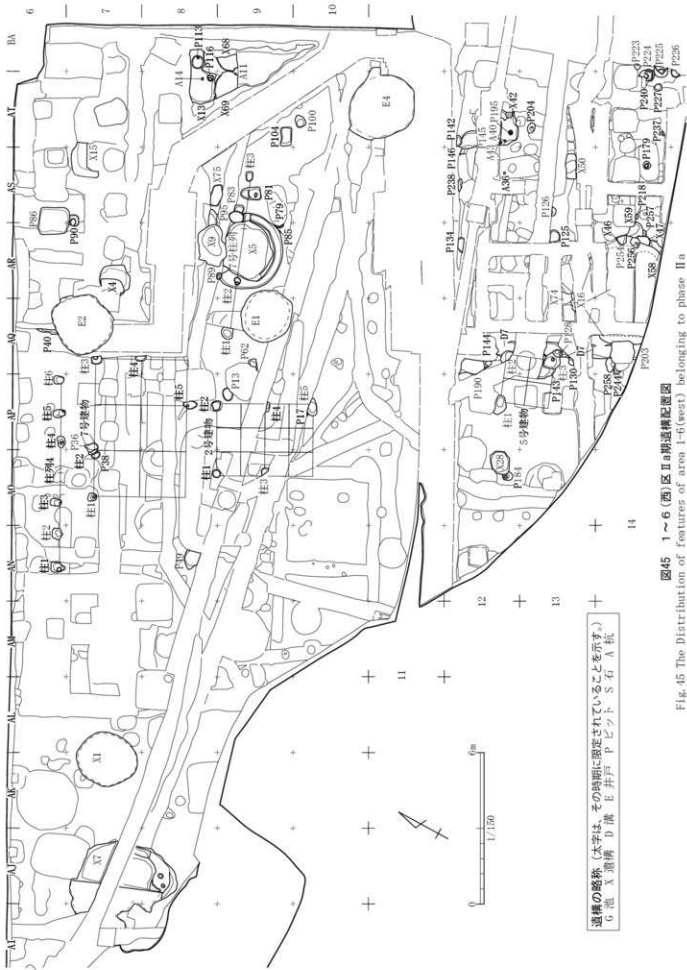
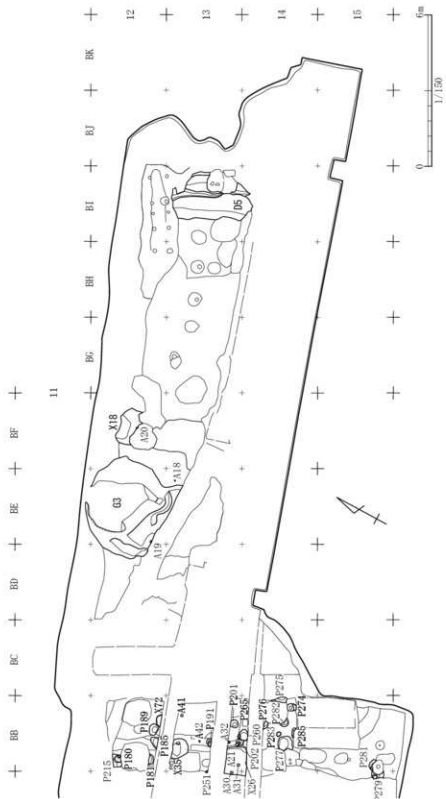


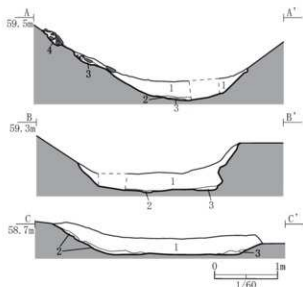
図45 1～6(西)区Ⅱa期遺構配置図
 Fig.45 The Distribution of features of area 1-6(west) belonging to phase II a



遺構の略称（本字は、その時期に掘進されていることを示す。）
 G 池 X 通溝 D 溝 E 井戸 P ビット S 石 A 杭

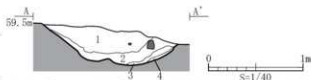
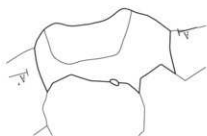
図46 6(東)・7区IIa期遺構配置図
 Fig. 46 The Distribution of features of area 6(east)・7 belonging to phase II a

3号池状遺構



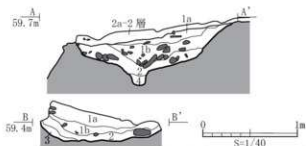
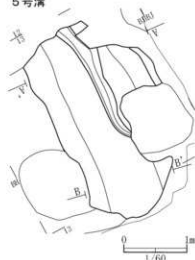
- 埋土1層** 10YR4/1褐灰色 シルト質粘質土 粘性強・しまり中 径5mm以下の炭化物を少量含む パミスを中心にマンガンを含む 南端と北端にラミナ状の砂層を含む 西側には礫が認められる
- 埋土2層** 10YR5/8黄褐色 砂 粘性なし・しまりなし
- 埋土3層** 10YR6/6明黄褐色 シルト質粘質土 粘性強・しまり強 壁(地山)の崩落土
- 埋土4層** 10YR5/1褐灰色 砂質シルト 粘性なし・しまり弱 径1-10cm前後の礫を多く含む 石積裏込の土層か

18号遺構



- 埋土1層** 2.5Y3/2黒褐色 シルト 粘性弱・しまり強 径1cm程度の炭化物を僅かに含む 白色土粒、黄色土粒、明黄褐色粘土小ブロックを含む
- 埋土2層** 10YR3/2黒褐色 シルト 粘性弱・しまり弱 木羽、葎(むしろ)等の有機物、木の根を多く含む
- 埋土3層** 10YR3/2黒褐色 シルト 粘性弱・しまり弱 明黄褐色粘土ブロックを含む 径2-3mmの炭化物を僅かに含む
- 埋土4層** 10YR7/4にぶい黄褐色 粘土 粘性強・しまり中 鉄分、黒褐色土ブロックを含む

5号溝

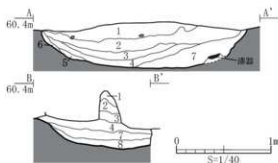


- 埋土1a層** 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中・しまり中 径1cm程度の炭化物、白色・黄色土粒、鉄分を僅かに含む
- 埋土1b層** 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 径1cm程度の炭化物を僅かに含む 鉄分を多く含む
- 埋土2層** 10YR4/2 灰黄褐色 粘土 粘性強・しまり中 径1cm程度の炭化物を僅かに含む
- 埋土3層** 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 黄褐色粘土小ブロックを含む 白色・黄色土粒を僅かに含む
- 埋土4層** 10YR6/4 にぶい黄褐色 粘土 粘性強・しまり弱 褐灰色粘土を含む

図47 II a期の遺構

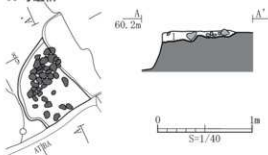
Fig. 47 Features belonging to phase II a

9号遺構



- 埋土1層** 2.5Y3/1 黒褐色 シルト 粘性弱・しまり中 径2-5mm程度の炭化物を含む 白色・黄色土粒を含む 黄褐色土小ブロックを底に含む 径3-5cm程度の円礫を僅かに含む
- 埋土2層** 2.5Y3/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 径1cm程度の炭化物を含む 白色・黄色土粒、径1cm程度のパミス、黄褐色土小ブロックを僅かに含む
- 埋土3層** 2.5Y3/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 径1-2mmの炭化物、白色土粒、黄褐色・灰黄褐色土小ブロックを極僅かに含む
- 埋土4層** 2.5Y3/1 黒褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 径0.5-1cm程度の炭化物を僅かに含む 白色・黄色土粒を極僅かに含む
- 埋土5層** 2.5Y2/1 黒色 粘土 粘性強・しまり中 径2-3mmの炭化物、黄灰色土小ブロックを極僅かに含む
- 埋土6層** 2.5Y4/1 黄灰色 粘土 粘性強・しまり中 黄色・白色土粒を含む 黒褐色土を極僅かに含む
- 埋土7層** 2.5Y3/1 黒褐色 粘土 粘性強・しまり中 径1cm程度の炭化物を部分的に含む 灰オリーブ色・黒色粘土、極薄い木質をラミナ状に含む 白色・黄色土粒を僅かに含む
- 埋土8層** 地山土(4層)に炭化物などがまじり、しまりが弱い

69号遺構



- 埋土1層** 10YR4/2 灰黄褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 径5cm-握り拳大の礫を多く含む 径0.3-1cm程度の炭化物をやや多く含む 白色土粒、鉄分を含む 黄色土粒を僅かに含む

2号井戸

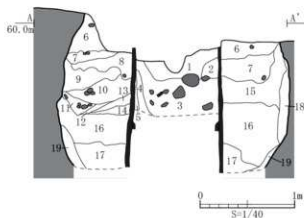
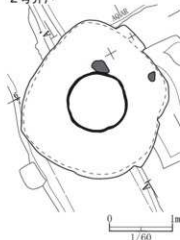
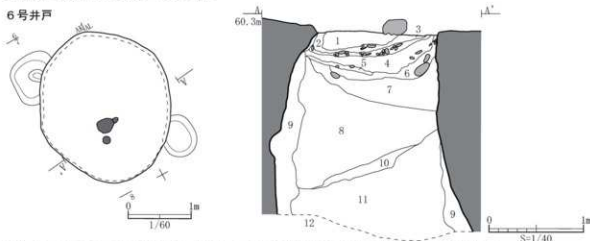


図48 IIa~IIb期の遺構(1)
Fig.48 Features belonging to phase IIa-IIb(1)

2号井戸

- 埋土1層 2.5Y3/1 黒褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 黄褐色土ブロック、オリープ灰色土ブロック、径0.5-2cm程度の炭化物、白色・黄色土粒を含む 径2-3cm程度の礫を僅かに含む
- 埋土2層 2.5Y2/1 黒褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 灰オリープ粘土ブロック、黄褐色土小ブロック、白色土粒を含む 径1-2cm程度の礫、径0.5-1cm程度の炭化物を僅かに含む
- 埋土3層 2.5Y3/1 黒褐色 粘土 粘性強・しまり中 径5mm程度の炭化物、径5cm-人頭大の礫を含む 灰オリープ色粘土小ブロックを僅かに含む
- 埋土4層 2.5Y3/1 黒褐色 粘土 粘性極めて強・しまり弱 径5mm程度の炭化物を僅かに含む
- 埋土5層 2.5Y3/1 黒褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり弱 径3cm程度の礫を含む 白色・黄色土粒を僅かに含む
- 埋土6層 2.5Y3/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり強 にふい黄色粘土・黄褐色粘土ブロック、鉄分をやや多く含む 径0.2-1cm程度の炭化物を含む 白色・黄色土粒を多く含む 径1-5cm程度の礫を僅かに含む
- 埋土7層 2.5Y3/1 黒褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 灰黄色粘土小ブロック、径1-5cm程度の小礫、白色・黄色土粒を僅かに含む 鉄分をやや多く含む
- 埋土8層 2.5GY4/1 暗オリープ灰 粘土 粘性強・しまり中 黒褐色土小ブロック、灰オリープ粘土小ブロックを斑状に含む 白色・黄色土粒、径1-5cm程度の礫を極僅かに含む
- 埋土9層 5GY4/1 暗オリープ灰 粘土 粘性強・しまり強 黒褐色土ブロック、オリープ黒色土ブロックを僅かに含む 白色土粒を含む
- 埋土10層 7.5GY4/1 暗緑灰 粘土質シルト 粘性強・しまり強 オリープ黒色粘土ブロックを斑に多く含む 径1cm程度の小礫と径3-5cm程度の円礫をやや多く含む 白色土粒を含む
- 埋土11層 2.5GY2/1 黒 粘土 粘性強・しまり弱 径3-10cm程度の礫をやや多く含む 白色土粒を僅かに含む
- 埋土12層 10GY5/1 緑灰色 粘土 粘性強・しまり中 均質な粘土層 極僅かにオリープ黒色粘土ブロックを含む
- 埋土13層 5Y2/2 オリープ黒 粘土質シルト 粘性強・しまり弱 白色・黄色土粒を含む
- 埋土14層 10Y4/2 オリープ灰 粘土 粘性強・しまり中 白色土粒を含む オリープ黒色粘土を僅かに含む
- 埋土15層 5Y2/1 黒 粘土 粘性強・しまり中 緑灰色粘土ブロックを斑に多く含む 白色・黄色土粒を極僅かに含む
- 埋土16層 10Y5/1 緑灰色 粘土 粘性強・しまり中 黒褐色土小ブロックを斑に含む
- 埋土17層 10Y5/1 緑灰色 粘土 粘性強・しまり中 白色土粒を含む オリープ黒色土小ブロック、径1cmの小礫を僅かに含む
- 埋土18層 2.5Y5/4 黄褐色 粘土 粘性強・しまり中 黒褐色土を僅かに含む 聖の崩落土
- 埋土19層 N2/0 黒 砂 粘性なし・しまりなし

6号井戸



- 埋土1層 10YR4/7 にふい黄褐色 粘土 粘性強・しまり強 黄褐色粘土を全体に斑に含む 白色土粒を含む
- 埋土2層 10YR3/3 暗褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり強 鉄分を含む 灰黄褐色土小ブロックを極僅かに含む
- 埋土3層 10YR4/4 褐色 砂 粘性なし・しまり中 鉄分を含む 炭化物を一部に含む 径5-10cm程度の円礫を非常に多く含む
- 埋土4層 2.5Y3/2 黒褐色 粘土 粘性強・しまり強 鉄分を含む 径2-3mm程度の炭化物、マンガンを僅かに含む 径3-5cm程度の円礫を極僅かに含む
- 埋土5層 10YR3/3 暗褐色 粘土 粘性強・しまり中 鉄分を含む 径1-2cmの炭化物を極僅かに含む にふい黄褐色粘土ブロックを多く含む
- 埋土6層 2.5Y3/1 黒褐色 粘土 粘性強・しまり中 黄色土粒を含む 径1-2cm程度の炭化物、にふい黄褐色粘土小ブロック、径5cm-人頭大の礫を僅かに含む
- 埋土7層 2.5Y3/1 黒褐色 粘土 粘性強・しまり中 オリープ灰色粘土ブロック、遺物を僅かに含む 径1-2cm程度の炭化物、鉄分、白色土粒、握り拳大の礫を極僅かに含む
- 埋土8層 2.5Y2/1 黒色 粘土 粘性強・しまり弱 径3-5cm程度の礫、遺物を僅かに含む 鉄分、白色土粒、木材等の有機質を含む
- 埋土9層 10YR5/6 黄褐色 粘土 粘性強・しまり弱 褐灰色土を僅かに含む 壁際の崩落土
- 埋土10層 10YR1.7/1 黒色 粘土 粘性強・しまり中 オリープ黒色粘土、灰オリープ黒色粘土を層状に含む 木材等を僅かに含む
- 埋土11層 5Y3/1 オリープ黒色 粘土 粘性強・しまり中 灰オリープ色粘土ブロックを部分的に層状に含む 径1cm程度の炭化物を部分的に含む 木材等の有機質遺物漆器等をやや多く含む
- 埋土12層 10YR5/2 オリープ灰色 粘土 粘性強・しまり強 黒褐色土をブロック状に多く含む

図49 IIa~IIb期の遺構(2)

Fig. 49 Features belonging to phase IIa-IIb(2)

れることから、そちらに属する可能性が高い。

本遺構の時期は、当初4号池状遺構と同時期のⅠ期と考えたが、4号池状遺構には見られない18世紀代の陶磁器が埋土から出土していることと、ちょうど間にあるピット164との重複関係から、Ⅱa期（18世紀前半）と判断した。もちろん、本遺構の構築時期は17世紀で、4号池状遺構と同時期に機能していた可能性もある。その場合、Ⅱa期に本遺構をさらい直し等の改修をした状況も想定できる。

【18号遺構】（図47） BF-12区に位置し、壁が緩やかに立ち上がる小規模な遺構である。そのほとんどを周辺遺構や掘乱によって破壊されており、その詳細は不明である。埋土は4枚確認できた。そのうち底面に近い埋土2層では、有機質の遺物等が確認されている。

重複関係は、2号池状遺構（Ⅰ期）が古く、1号池状遺構（Ⅱb期）との関係は近代の掘乱のため不明である。当初は、本遺構の位置から1号池状遺構の一部である可能性も想定したが、その底面や壁の形状、埋土の様子から、独立した個別の遺構として捉えた。また出土遺物は18世紀代の陶磁器に限られている。このような状況から、Ⅱb期の1号池状遺構と同時期に機能していた可能性も否定できないが、本遺構の時期をⅡa期（18世紀前葉～中葉）とした。

【5号溝】（図47） 調査区東端のBI-13・14区に位置し、壁が緩やかに立ち上がる幅の広い南北方向の溝である。ちょうど底面中央に、幅20cmほどの機能不明の細い溝がある。その形状から、2条の溝の重複である可能性も想定したが、平面プランや土層断面の状況から1条の溝として判断した。軸角度は22.6度西偏する。埋土は5枚確認できた。底面中央部の細い溝に堆積する層が4層であり、黄褐色の粘土層である。埋土2・3層は灰褐色を呈する粘土質の層、1層はシルト質の層となる。このうち1b層と2層上面には礫が少量に含まれており、遺物も比較的多い。埋土1層出土土器には、18世紀後半～19世紀初頭の遺物が多いことから、構築時期はそれより古い時期が想定できる。また、Ⅱb期の1・2号柱列より古いことから、本遺構の時期をⅡa期（18世紀中葉）に比定した。

（5）Ⅱa～Ⅱb期の遺構

【9号遺構】（図48） AR-8・9区に位置する、壁が緩やかに立ち上がる大きめの遺構である。上部は、掘乱や他の遺構によって破壊されている。重複関係は、10号遺構（Ⅰ期）より新しく、5号遺構（Ⅲ期）より古い。埋土は8層に区分できる。全体的に炭化物が多いが、特に下層の7層に炭化物、木片、遺物等を含む。この7層と最下層の8層出土陶磁器からⅡa～Ⅱb期（18世紀）に時期比定した。

【69号遺構】（図48） BA-8・9区に位置し、多数の礫が検出された。二方を掘乱によって破壊されているが、円形を呈するものと推定できる。深さは浅いが、機能は不明である。埋土出土磁器から、Ⅱa～Ⅱb期（18世紀）に時期比定した。

【2号井戸】（図48・49） AQ・AR-6・7区に位置する、桶を用いた井戸である。上部は米軍期の共同溝により破壊されている。安全確保のため、桶の一段目近辺まで掘り下げて調査を終了した。掘り方の埋土である8層出土磁器からⅡa～Ⅱb期（18世紀）に時期比定した。

【6号井戸】（図49） AK・AL-7区に位置する円形素掘りの井戸である。当初は1号遺構と命名し調査を進めたが、その深さから井戸と判断した。安全確保のため、段階的に2m近く掘り下げて調査を終了した。埋土からは、多数の漆器等の有機質の遺物が確認されている。本遺構の構築時期は不明であるが、埋土10層出土の陶磁器から、Ⅱa～Ⅱb期（18世紀）には埋没していたことが判断できる。実際はそれ以前に構築された遺構であろう。

（6）Ⅱb期の遺構（図50・51）

【1号柱列】（図52） BG～BI-13区に位置する、径30cm程の柱穴5基によって構成される4間の柱列である。

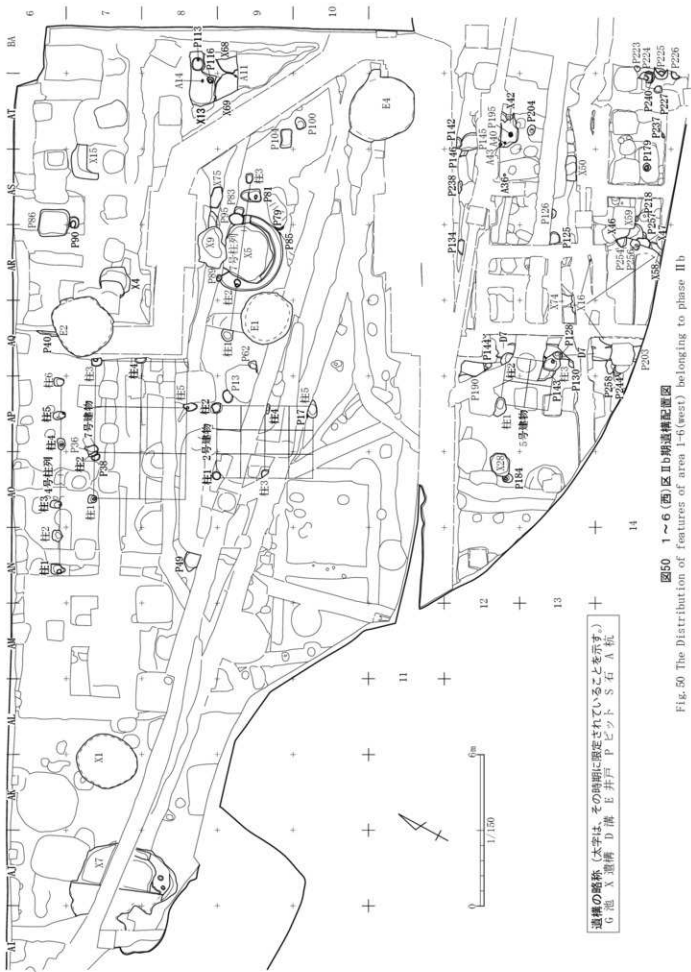
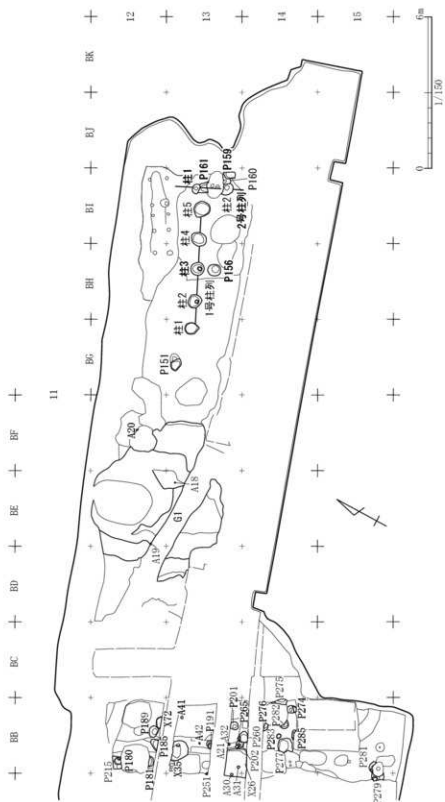


図50 1～6(西)区Ⅱb期遺構配置図
 Fig. 50 The Distribution of features of area 1-6(west) belonging to phase II b



遺構の略称（本字は、その時期に掘進されていることを示す。）
 G 池 X 通溝 D 溝 E 井戸 P ビット S 石 A 杭

図51 6(東)・7区Ⅱb期遺構配置図
 Fig. 51 The Distribution of features of area 6(east)・7 belonging to phase II b

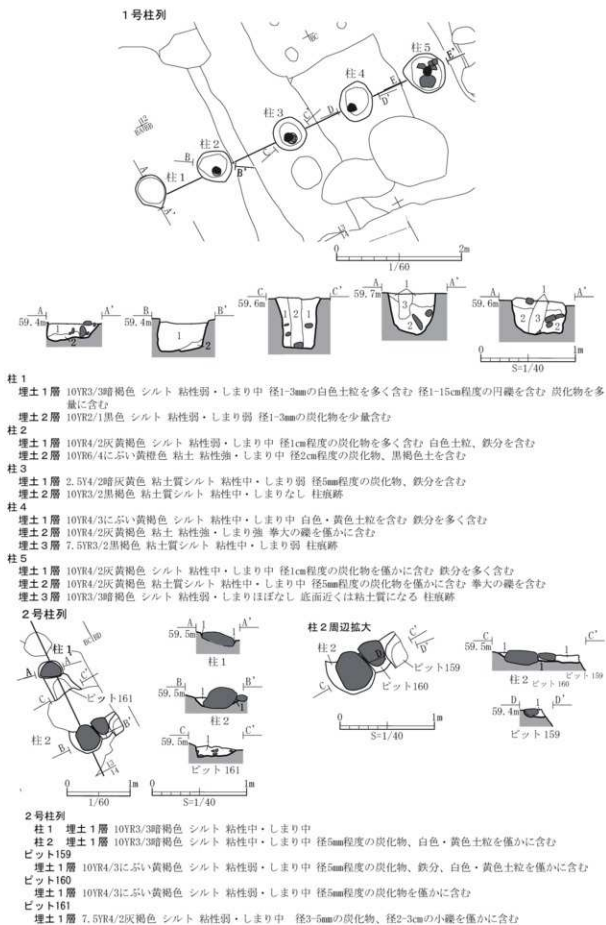
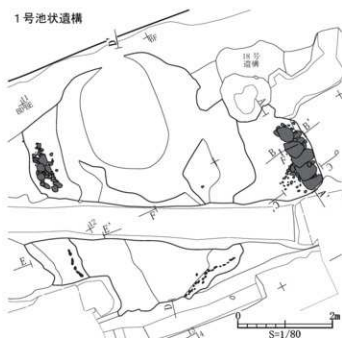
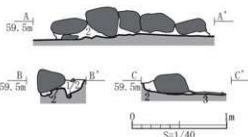


図52 IIb期の遺構(1)
Fig.52 Features belonging to phase IIb(1)

1号池状遺構



①東側石列土層断面

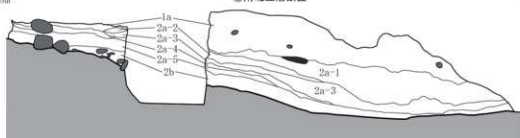


東側石列

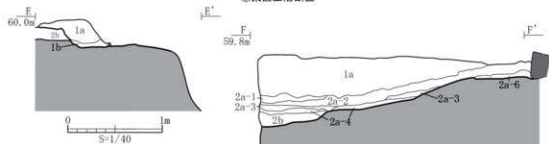
- 埋土1層 10YR4/4 褐色砂 粘性弱・しまり弱
径1-5cm程度の円礫を含む
- 埋土2層 10YR4/2 灰黄褐色 粘土 粘性強・しまり強
黄色粘土ブロックを斑状に少量含む
褐色砂を少量含む
- 埋土3層 10YR3/2 黒褐色 粘土 粘性弱・しまり強
径1-5cm程度の円礫を多量に含む
17号遺構の床面か。

D
59.8m

②南北土層断面



③東西土層断面



- 埋土1a層 10YR7/1 灰白色 粘土質シルト 粘性弱・しまり強 径1-3mm前後の粘土粒を多量に含む 炭化物を少量含む 径2-8cm前後の礫を少量含む 全体的にマンガンを含む
- 埋土1b層 10YR6/1 褐灰色 粘土質シルト 粘性弱・しまり強 埋土1層と似るが礫、白色粘土粒を含まない 炭化物を微量に含む 全体的にマンガンを含む
- 埋土2a-1層 10YR7/1 灰白色 粘土質シルト 粘性やや強 全体的にマンガンを含む
- 埋土2a-2層 10YR6/1 褐灰色 砂質シルト 粘性なし・しまり中 黄褐色の砂を少量含む マンガンを全体的に含む
- 埋土2a-3層 10YR5/1 褐灰色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 マンガンを全体的に少量含む
- 埋土2a-4層 10YR4/1 褐灰色 粘土質シルト 粘性弱・しまり強 2a-3層によく似るが若干砂質
- 埋土2a-5層 10YR5/1 褐灰色 砂質シルト 粘性弱・しまり強 上部は黄褐色の砂を多く含む マンガンを全体的に多く含む 下部は粘質土で砂を少量含む
- 埋土2a-6層 10YR4/1 褐灰色 粘土質シルト(やや砂質) 粘性中・しまり弱 炭化物を少量含む 酸化した黄褐色の砂層を少量含む 2a-4層に対応する可能性あり
- 埋土2b層 10YR6/1 褐灰色 砂質土 粘性弱・しまり弱 炭化物を少量含む 特に2a-5層との境に径2-3cmの礫を多く含む その下には径1-2cmの小礫を含む 全体的にマンガンを含む 砂を主体とするラミナ層を複数含む

図53 IIb期の遺構(2)

Fig.53 Features belonging to phase IIb(2)

一間の寸法は4尺で、軸角度は116.4 (26.4) 度西偏する。本遺構の上部には基本層2a-2層があり、基本層2b層上面で検出した。3号溝 (Ⅰ期)・5号溝 (Ⅱa期) より新しい。重複・層序関係、出土遺物からⅡb期 (18世紀後半～19世紀初頭) に位置づけた。なお、柱3の南側に位置するピット156も、その形状などから一連のものである可能性が高い。

【2号柱列】 (図52) BI-13区に位置し、礎石が確認できた柱穴2基で認定した柱列である。一間の寸法は4尺である。柱2の東側に続く礎 (ピット160) も一連のもので推定できるが、遺存状況が悪くその詳細は不明である。その場合、さらに東側に位置するピット159は、礎石の抜き取り痕跡と考えられる。また、柱1の南側にあるピット161は、布掘りの一部あるいは礎石抜き取り痕跡である可能性もあるが、判断できない。

本柱列は、5号溝 (Ⅱa期) より新しい。層序・重複関係も1号柱列とはほぼ同様なので、当初1号柱列と接続する可能性も想定したが、きれいに接続できない。柱穴からの出土遺物や層序関係等から、Ⅱb期 (18世紀後半～19世紀初頭) に時期比定した。

【1号池状遺構】 (図53・54) BD-12・13、BE-11～13、BF-12・13区に位置する大型の池状遺構である。3号池状遺構 (Ⅰ期)・4号池状遺構 (Ⅱa期) の上位に位置する。これらの池が埋没した後、改めて構築された池である。東側に石積みが確認できた (図53-①)。西側にも同様の石列があったものと考えられるが、その大体は崩落している (図54-①)。この西側の石に関しては、3号池状遺構の項にて触れたように、より古い3号池状遺構の段階に属するとも考えられる。しかし、石を用いた区画あるいは護岸ということからすると、それが明確に確認されている本遺構に属する可能性が高い。また、南側にも崩落した石を多数確認している (図54-①)。この近辺にも、南側を区切る石列があった可能性が高いが、その正確な位置は不明である。

石積みの下部あるいは存在していたと推定される場所に、列状に並ぶ小穴が多数確認できた。当初は杭列のような遺構を想定したが、その痕跡は不整形であり、内部で繋がるものもあることから、木痕であると判断した。しかし、列状に連なっており、土留め遺構の一部である可能性も想定して記録を作成した (図54-②)。

埋土は大きく2層に分かれる。1層は粘土ブロックなどが多量に混ざることから、本遺構を埋め戻した土壌と考えた。2層は粘土質シルトを主体とする2a層と、砂礫が主体の2b層に分かれる。2b層が最下層となる。2a層には砂がラミナ状にかなり多く混じる層もあり、このあり方から更に1～6層に細分した。このような2層の堆積

①1号池状遺構礎石検出状況

②1号池状遺構木根等確認状況

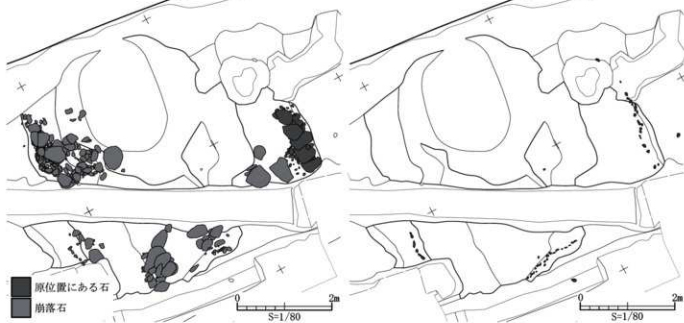
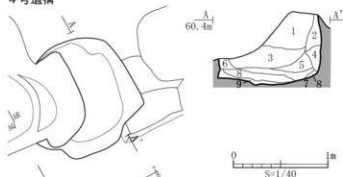


図54 Ⅱb期の遺構 (3)

Fig.54 Features belonging to phase Ⅱb(3)

4号遺構

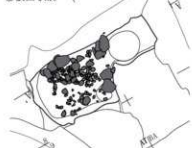


- 埋土1層** 10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性弱・しまり中 径0.5-1cm程度の炭化物を含む 径2-3cm程度の礫を僅かに含む 鉄分、白色・黄色土粒を含む
- 埋土2層** 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 白色・黄色土粒、パミス、褐色土粘土ブロックを含む 径2mm程度の炭化物を僅かに含む
- 埋土3層** 10YR3/1 黒褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり弱 径5mm程度の炭化物を多く含む 鉄分を含む 径2-3cm程度の礫、灰オリーブ色粘土小ブロックを僅かに含む

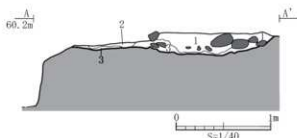
- 埋土4層** 10YR5/6 黄褐色 粘土 粘性強・しまり中 黒褐色土小ブロックを僅かに含む 白色・黄色土粒を極僅かに含む
- 埋土5層** 2.5Y3/1 黒褐色 粘土 粘性強・しまり弱 埋土下部に砂の層を含む 径5mm程度の炭化物を僅かに含む
- 埋土6層** 10YR3/3 暗褐色 粘土 粘性強・しまり中 にぶい黄褐色粘土ブロックを含む 白色・黄色土粒、鉄分を僅かに含む
- 埋土7層** 径2-5mm程度の炭の層 鉄分を僅かに含む
- 埋土8層** 2.5Y3/1 黒褐色 粘土 粘性強・しまり弱 木質などの有機質を多量に含む
- 埋土9層** 7.5Y5/1 灰色 粘土 粘性強・しまり中 オリーブ黒色粘土小ブロックを僅かに含む 白色土粒、鉄分を含む

13号遺構

①横出状況



②礫除去状況



- 埋土1層** 2.5Y3/1 黒褐色 粘土 粘性強・しまり中 径0.5-1cm程度の炭化物、白色・黄色土粒を僅かに含む 明黄褐色粘土ブロックを極僅かに含む 握り拳大から人頭大の礫を含む
- 埋土2層** 2.5Y6/3 にぶい黄色 砂 粘性なし・しまり中 白色・黄色土粒を含む 径5mm程度の炭化物を僅かに含む
- 埋土3層** 2.5Y3/1 黒褐色 粘土 粘性強・しまり強 白色・黄色土粒、鉄分、径3-5mm程度の炭化物を含む 明黄褐色粘土小ブロックを底に含む 握り拳大の礫を僅かに含む

図55 IIb期の遺構(4)

Fig.55 Features belonging to phase IIb(4)

状況は、BK16地点(『調査報告』5)の堀(新段階)で認められた堆積状況と類似する。

埋土からは多数の遺物が確認されているが、近代以降の撹乱も多いため、そちらからの混入も多いようである。1層からは19世紀中葉～後葉の磁器が見つかった。そして、2b層では18世紀～19世紀前半の陶磁器が確認されている。重複関係やそれらの出土遺物の状況から、IIb期(18世紀中葉)に時期を比定した。本遺構は、III期以降、近代頃には埋められたと考えられる。

【4号遺構】(図55) AR-7区に位置し、そのほとんどが撹乱によって破壊されている。壁は垂直に立ち上がり、残存部位からすると円形に近い遺構であったと推測できる。埋土は9層に細分できる。その中には炭化物を多量に含む層なども見受けられる。埋土下方の出土遺物から、IIb期(18世紀末葉～19世紀初頭)に位置づいた。

【13号遺構】(図55) AT-BA-8区に位置する、長方形を呈すると考えられる底の浅い遺構である。礫が多数含まれている。周辺には、類似する68号遺構(I～IIb期)・69号遺構(IIa～IIb期)が存在する。埋土1層出

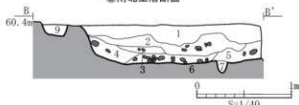
5号遺構



①東西土層断面

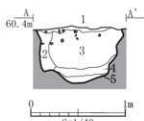


②南北土層断面



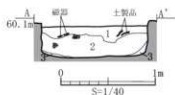
- 埋土1層** 5Y3/2 オリーブ黒色 シルト 粘性弱・しまり中 オリーブ黄色、黄褐色土小ブロックを斑に多く含む 白色・黄色土粒を多く含む 径5mm程度の炭化物、1-3cm程度の礫を含む
- 埋土2層** 2.5Y3/2 黒褐色 シルト 粘性中・しまり中 白色・黄色土粒 径0.5-1cm程度の炭化物を含む 径3-5cm程度の礫を部分的に含む 灰黄褐色粘土小ブロックを僅かに含む
- 埋土3層** 2.5Y4/1 黄灰色 砂質シルト 粘性弱・しまり弱 白色土粒、径3-5cm程度の礫を含む
- 埋土4層** 2.5Y3/1 黒褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり中 灰オリーブ色粘土ブロック、黄褐色粘土ブロックを斑に含む 白色・黄色土粒を含む 径3cm 掘り拳大の礫を僅かに含む
- 埋土5層** 5Y2/1 黒色 粘土 粘性強・しまり中 径3cm 掘り拳大の礫を多く含む 白色・黄色土粒を含む
- 埋土6層** 5Y3/1 オリーブ黒色 粘土質シルト 粘性中・しまり強 黄褐色土、灰オリーブ色粘土ブロックを斑に含む 径2cm 掘り拳大の礫を僅かに含む 白色・黄色土粒を含む
- 埋土7層** 5Y3/1 オリーブ黒色 砂質シルト 粘性弱・しまり中 径3-5cm程度の礫、黄色・白色土粒を僅かに含む
- 埋土8層** 5Y4/1 灰色 粘土 粘性やや強・しまり中 灰オリーブ色粘土小ブロック、鉄分を含む 白色土粒を僅かに含む
- 埋土9層** 10YR3/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 径5mm程度の炭化物、白色・黄色土粒、鉄分を含む ぶい黄褐色土の一部を含む

50号遺構



- 埋土1層** 10YR4/1 褐灰色 砂質シルト 粘性弱・しまり強 径1-5cmの炭化物、径1-3cmの円礫を多く含む 褐色砂をまばらに含む
- 埋土2層** 10YR4/2 灰黄褐色 粘土 粘性弱・しまり強 空隙が認められる 下部には黄色粘土ブロックを少量含む
- 埋土3層** 10YR4/3 ぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり強 径1-3cm程度の黄色粘土ブロックを炭状に含む 炭化物を少量含む 下部には粘土分が強くなる
- 埋土4層** 10YR3/4 暗褐色 粘土 粘性中・しまり強 白色土粒を少量含む 下部には黄色粘土ブロックを少量含む
- 埋土5層** 10YR5/4 ぶい黄褐色 粘土 粘性強・しまり中 大きめの炭化物が混じる 基本層3層の崩落土か

65号遺構



- 埋土1層** 10YR3/1 黒褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 径1cm程度の炭化物をやや多く含む 鉄分を多く含む 白色・黄色、遺物、径3-5cm程度の礫を含む
- 埋土2層** 2.5Y3/1 黒褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 径1-2cm程度の炭化物を非常に多く含む 径3-5cm程度の礫、灰オリーブ色粘土ブロックを僅かに含む 白色・黄色土粒を含む
- 埋土3層** 2.5Y4/3 オリーブ褐色 粘土 粘性強・しまり中 黄灰色土小ブロックを僅かに含む 白色土粒、鉄分を僅かに含む

図56 IIb~III期の遺構

Fig. 56 Features belonging to phase IIb-III

土磁器から、Ⅱb期（18世紀後半）に位置づけた。

（7）Ⅱb～Ⅲ期の遺構

【5号遺構】（図56） AR・AS-9区に位置する円形の遺構である。中央部は深く掘り込まれるが、その周縁部には浅い溝が巡る。中央部の埋土は8層に分かれる。いずれの層も小礫などが混ざる。周辺の重複関係を有する遺構の中で最も新しい。出土遺物には18～19世紀の陶磁器のほか、埋土1層からは近代の磁器等も確認されている。これらの遺物から、Ⅱb～Ⅲ期（19世紀～近代）に時期比定した。

【50号遺構】（図56） AS-13区に位置する基本層2a-2層上面で確認した遺構であるが、その南北両端を掘乱によって破壊されている。埋土はシルト・粘土層が主体となり5層に分かれる。最上層の埋土1層から18～19世紀の磁器が出土している。検出層位と出土遺物から、本遺構をⅡb～Ⅲ期（19世紀）に時期比定した。

【65号遺構】（図56） AR・AS-6・7区に位置し、壁はほぼ垂直に立ち上がる箱形の遺構である。埋土は上下に分かれる。その内下部の埋土2層出土陶器から、Ⅱb～Ⅲ期（18世紀末葉～19世紀中葉）の時期に比定した。

（8）Ⅲ期の遺構（図57・58）

【6号建物】（図59） AR～AT-12・13区に位置する、柱穴8基で構成される0.5×3間の建物である。柱6・7・8の南側3基のピットはかなり深さがある。その柱穴の大きさから、より大きな建物であったことが推定できるが、周辺は掘乱等著しく、他のピットと組むことができなかった。軸角度は24.6度西偏し、一間の寸法は6尺3寸である。時期を決めることができるような出土遺物はない。基本層2a-2層を掘込面としている。重複関係では同じⅢ期の6号溝（19世紀前葉～中葉）より古いことから、本遺構の時期をⅢ期（19世紀前葉～中葉）とした。

【9号柱列】（図60） AP～AR-14区に位置する、柱穴3基で組んだ3間の柱列である。軸角度は116.7（26.7）度西偏していることになる。16号遺構の埋土最上面を検出面として柱2・3が構築されている。時期を比定できる遺物は出土していないが、重複関係からⅢ期（19世紀前葉～近代）の時期に位置づけた。

【2号遺構】（図61） AP・AQ-9区に位置する、径1.4m程の円形の遺構である。壁は緩やかに立ち上がる。中央部に礫や木材を廃棄している。埋土は4層に分かれ、そのうち下方の埋土3層出土陶器から、Ⅲ期（19世紀前葉～中葉）に時期を比定できる。

【14号遺構】（図61） AS・AT-8区に位置する楕円形と推定される遺構である。その多くは、米軍期の共同溝等の掘乱により破壊されている。埋土は7層に分かれる。中央部の1・2層は黒色土を多く含み、礫等を含む。出土磁器より、Ⅲ期（19世紀中葉～後葉）に位置づけた。

【20号遺構】（図61） BH・BI-13区に位置する楕円形の遺構である。基本層2a-2層上面で検出した。21号遺構・5号溝より新しい。埋土は上中下の3層に区分できる。そのうち埋土3層から近代の磁器が出土している。このことから、Ⅲ期（近代）に位置づけた。

【21号遺構】（図61） BH・BI-13区に位置し、20号遺構より古い楕円形の遺構である。基本層2a-2層上面で検出した。隣接20号遺構に比べ浅い。埋土は2層に分かれる。埋土1層出土陶器から、Ⅲ期（19世紀前葉～中葉）に位置づけた。

【23号遺構】（図62） BA・BB-13区に位置し、基本層2a-2層上面で検出した。皿状に浅く窪む遺構である。埋土は2層に分かれる。重複関係は、10号柱列（Ⅰ期）、35号遺構（Ⅰ～Ⅱb期）より新しい。検出層位や埋土1層出土磁器・陶器から、Ⅲ期（19世紀前葉以後）に位置づけた。

【25号遺構】（図62） BB-13・14区に位置し、基本層2a-2層上面で検出した。壁面が内弯する遺構である。北・東側は掘乱により破壊されている。埋土は3層確認できた。検出層位や埋土出土磁器・陶器から、Ⅲ期（19世紀前葉?）に位置づけた。

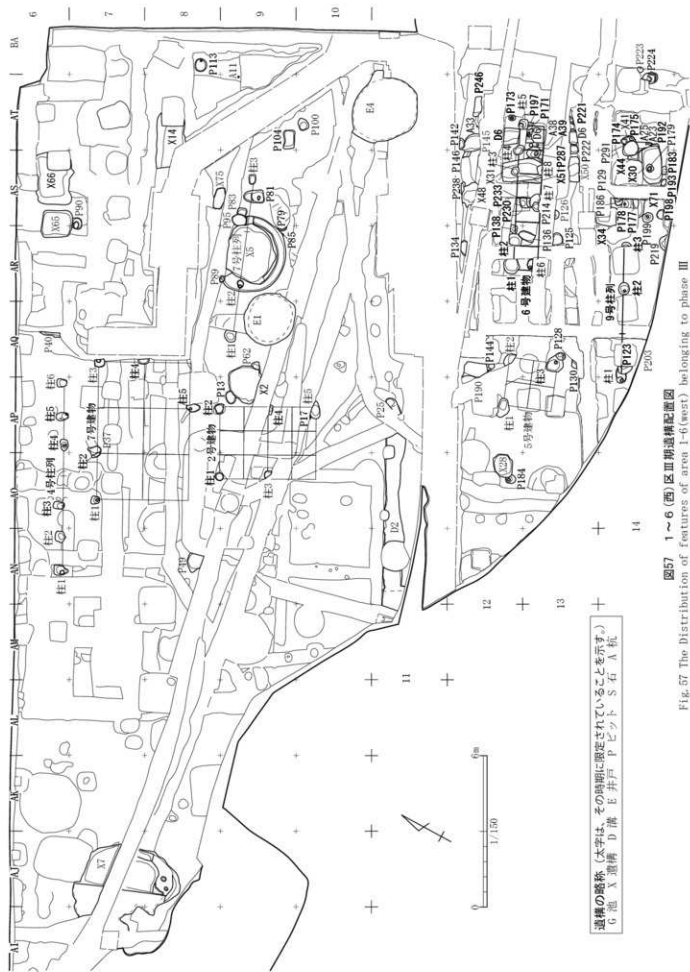
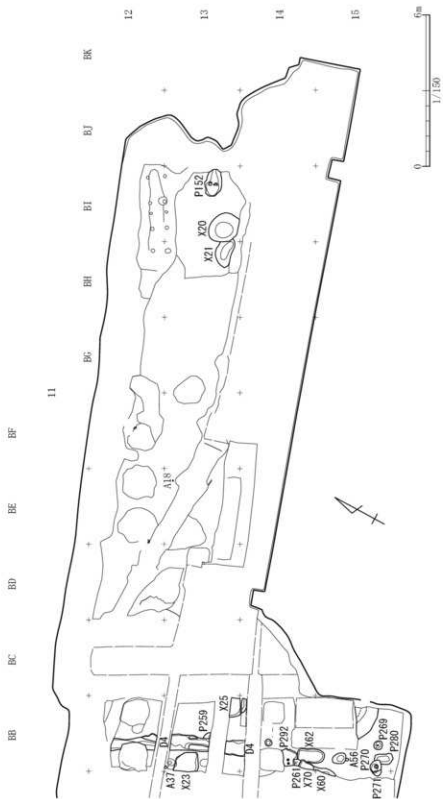


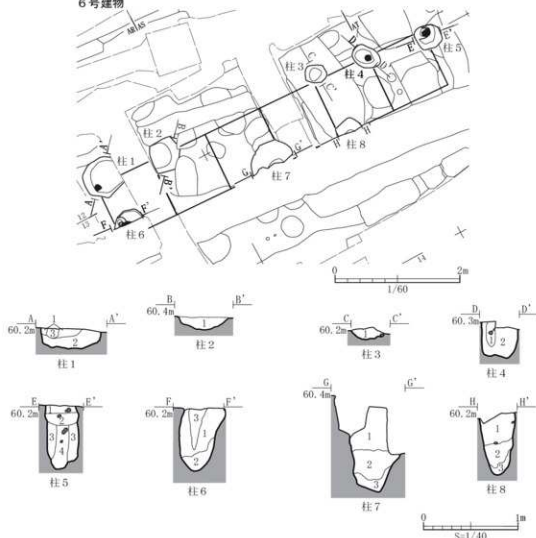
図57 1～6(西)区Ⅲ期遺構配置図
 Fig.57 The Distribution of features of area 1-6(west) belonging to phase III



遺構の略称（本字は、その時期に掘進されていることを示す）
 G 池 X 通溝 D 溝 E 井戸 P ビット S 石 A 杭

図58 6(東)・7区Ⅲ期遺構配置図
 Fig. 58 The Distribution of features of area 6(east)・7 belonging to phase III

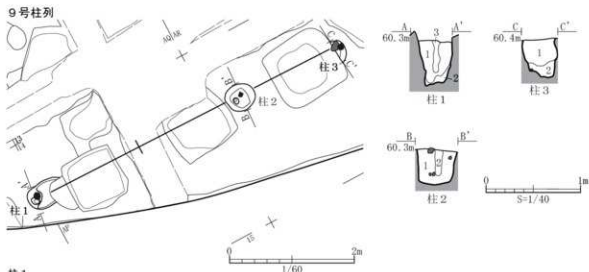
6号建物



- 柱 1
 埋土 1 層 10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 白色土粒、鉄分、マンガン、径1-3mmの炭化物を含む
 埋土 2 層 10YR4/3にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 黄褐色粘土小ブロック、鉄分を含む
 埋土 3 層 10YR4/2灰黄褐色 粘土 粘性中・しまり中 明黄褐色粘土小ブロック、径1mm程度の炭化物、白色土粒を僅かに含む
- 柱 2
 埋土 1 層 10YR4/3にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 褐色土を斑状に含む 白色・黄色土粒、炭化物、鉄分を僅かに含む
 埋土 2 層 2.5Y3/2黒褐色 シルト 粘性弱・しまり中 径1cm程度の炭化物を僅かに含む 白色・赤色土粒を僅かに含む
- 柱 3
 埋土 1 層 10YR4/2灰黄褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり強 径0.5-3cm程度の黄色粘土ブロックを斑状に含む 径1-2mmの黄色土粒を多く含む
- 柱 4
 埋土 1 層 10YR3/2黒褐色 シルト 粘性中・しまり強 黄色粘土ブロックを斑状にやや多く含む 下部の方に灰褐色土が多く混入
 埋土 2 層 10YR4/4褐色 シルト 粘性中・しまり強 径1-3cm程度の炭化物をやや多く含む 径1-3cm程度の円礫を少量含む 柱痕跡
- 柱 5
 埋土 1 層 5Y5/1灰色 シルト 粘性弱・しまり弱 全体的にマンガンを含む 径2-3mmの炭化物を少量含む パミスを少量含む
 埋土 2 層 5Y4/灰色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 径10mm前後の白色粘土ブロック、黄色粘土ブロックを中量含む 径5mm前後の炭化物を中量含む パミスを中量含む
 埋土 3 層 5Y4/1灰色 粘土質シルト 粘性強・しまり弱 径15mmの小礫を少量含む 径0.5-1cmの黄色粘土粒を中量含む 炭化物を多量に含む
 埋土 4 層 5Y3/1オリーブ黒色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 径1-2mmの炭化物を少量含む パミスを中量含む 柱痕跡
- 柱 6
 埋土 1 層 10YR5/4にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 明黄褐色粘土ブロック、白色土粒、パミス、鉄分、マンガンを多く含む
 埋土 2 層 10YR4/2灰黄褐色 シルト 粘性中・しまり強 径1cm程度の炭化物、白色土粒、パミスを僅かに含む
 埋土 3 層 10YR3/2暗褐色 シルト 粘性中・しまり中 灰黄褐色土、明黄褐色土、褐色土を斑状に含む 炭化物、パミスを僅かに含む 柱痕跡
- 柱 7
 埋土 1 層 10YR5/2灰黄褐色 シルト 粘性中・しまり強 径1-5cm程度の黄色粘土ブロックを斑状にやや含む 酸化鉄を斑状に含む
 埋土 2 層 10YR3/4暗褐色 粘土 粘性中・しまり強 径1-2mm程度の白色土粒をやや多く含む 黄色粘土ブロックを斑状に少量含む
 埋土 3 層 10YR4/3にぶい黄褐色 粘土 粘性強・しまり弱 黄色粘土ブロックを多く含む
- 柱 8
 埋土 1 層 10YR5/3にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり強 黄色粘土ブロックを斑状に少量含む 径1cm程度の礫、炭化物を少量含む
 埋土 2 層 10YR3/4暗褐色 粘土 粘性弱・しまり強 径1-3cmの黒色粘土を斑状に多く含む 径5mm程度の礫を少量含む
 埋土 3 層 10YR5/4にぶい黄褐色 粘土 粘性中・しまり強 灰色の粘土ブロックを僅かに斑状に含む

図59 Ⅲ期の遺構(1)

Fig. 59 Features belonging to phase III (1)



柱1

埋土1層 10YR4/3にぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり強 白色・黄色土粒、鉄分を多く含む
埋土2層 10YR5/4にぶい黄褐色 粘土 粘性中・しまり弱 黒色シルト質土を斑状に含む 径1mm程度の白色土粒を多く含む
埋土3層 10YR4/3にぶい黄褐色 粘土 粘性強・しまり極めて弱 鉄分を含む 柱底跡

柱2

埋土1層 10YR4/4褐色 シルト 粘性弱・しまり弱 径1cm程度の炭化物を少量含む 褐色砂を少量含む
埋土2層 10YR4/6褐色 粘土 粘性中・しまり強 径1-5cm程度の礫を少量含む 径3mm程度の白色土粒を含む 柱底跡

柱3

埋土1層 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性弱・しまり強 褐色シルト土を斑状に含む 径2-5mmの小礫を含む
埋土2層 10YR4/3にぶい黄褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり強 黄色粘土ブロックを多く含む 酸化鉄粒を多く含む

図60 Ⅲ期の遺構(2)

Fig. 60 Features belonging to phase III (2)

【30号遺構】 (図62) AS・AT-14区に位置し、基本層2a-2層上面で検出した長方形の遺構である。埋土は4層あり、最下層の埋土4層出土磁器・陶器と検出層位から、Ⅲ期(19世紀前業)に位置づけた。

【44号遺構】 (図62) AS-14区に位置し、掘乱や30号遺構等に破壊される。基本層2a-2層上面で検出した。深さはあまりなく、埋土は2層のみである。検出層位、重複関係から、Ⅲ期(19世紀前業)に位置づけた。

【31号遺構】 (図62) AS-12・13区に位置し、基本層2a-2層上面で検出した楕円形の遺構である。埋土は5層確認した。そのいずれの土層にも炭化物、焼土等を含む。溝の可能性もあるが、南端個が収斂する形状から遺構と判断した。最下層の埋土5層出土陶器から、Ⅲ期(19世紀前業～中業)に位置づけた。

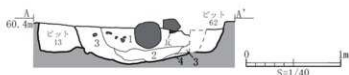
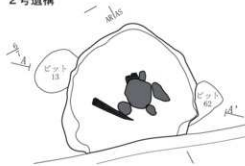
【34号遺構】 (図63) AR・AS-14区に位置し、基本層2a-2層で検出した。そのほとんどを掘乱等により破壊されている。壁は緩やかに立ち上がり、長方形を呈していたようである。埋土は7層確認できている。ほとんどの層で、炭化物や灰を含んでいる。特に下方の6層では、灰が層状に含まれる。時期を比定できる遺物はないが、検出層位からⅢ期(19世紀前業以後)に位置づけた。

【41号遺構】 (図63) AT-14区に位置し、基本層2a-2層で検出した楕円形の遺構である。壁はやや垂直気味に立ち上がり箱状を呈する。埋土は3枚確認できた。遺物は出土していない。検出層位から、Ⅲ期(19世紀前業以後)に位置づけた。

【48号遺構】 (図63) AS-12区に位置する不整形な遺構である。埋土は4層確認した。埋土最上層の1層では、炭化物や小礫を多量に含んでいる。それ以下の層は、粘土が主体となる。埋土3層出土陶器から、Ⅲ期(19世紀中業)に位置づけた。

【51号遺構】 (図63) AS-12-13区に位置し、基本層2a-2層上面で検出した。31号遺構の下に位置する遺構である。中央部はその31号遺構に、南北端は掘乱によって破壊されており、部分的にしか残っていない。検出層位と埋土1層出土陶器から、Ⅲ期(19世紀前業～中業)に位置づけた。

2号遺構



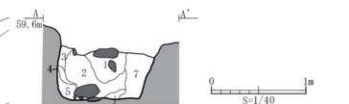
埋土1層 2.5Y4/4 オリーブ褐色 シルト 粘性中・しまり中 白色土粒を含む 浅黄色粘土ブロックを全体に斑に含む 黄色土粒を極僅かに含む 径3-5cm程度の礫を僅かに含む

埋土2層 10YR6/6 明黄褐色 粘土 粘性強・しまり中 褐灰色土ブロックを僅かに含む 白色土粒を極僅かに含む 鉄分をやや多く含む

埋土3層 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 明黄褐色粘土ブロックを斑に含む 白色・黄色土粒を含む

埋土4層 10YR5/6 黄褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 白色土粒を極僅かに含む

14号遺構



埋土1層 2.5Y3/2 黒褐色 粘土 粘性強・しまり中 オリーブ灰色粘土ブロックを斑に含む 白色土粒、径3cm-人頭大の礫を含む

埋土2層 2.5Y3/1 黒褐色 粘土 粘性強・しまり弱 径5mm程度の炭化物を含む 黄褐色粘土小ブロック、灰オリーブ色粘土小ブロックを僅かに含む 礫、白色・黄色土粒を極僅かに含む

埋土3層 10Y5/2 オリーブ 灰色 粘土 粘性強・しまり中 黒褐色粘土ブロックを含む

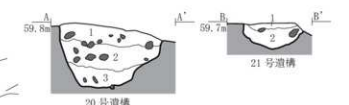
埋土4層 2.5Y2/1 黒色 粘土 粘性強・しまり弱 木質等の有機質を含む

埋土5層 10Y4/2 オリーブ灰色 粘土 粘性強・しまり中 灰色粘土ブロックを含む

埋土6層 5Y3/1 オリーブ黒色 砂質シルト 粘性中・しまり中 礫を僅かに含む オリーブ灰色粘土ブロックを含む

埋土7層 10Y5/2 オリーブ灰色 粘土 粘性強・しまり強 白色・黄色土粒を僅かに含む 灰色粘土ブロックを一部に含む

20・21号遺構



20号遺構

埋土1層 10YR4/2 灰黄褐色 シルト 粘性中・しまり中 明黄褐色土、褐灰色土を斑状に含む 径1-2cm程度の炭化物を僅かに含む 白色・黄色土粒、約3cm-拳大の礫を含む

埋土2層 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト 粘性中・しまり中 明黄褐色粘土ブロックを斑状に含む バミスをやや多く含む 拳大の礫を含む

埋土3層 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 黄褐色土小ブロック、径1cm程度の炭化物、径3-5cmの礫を極僅かに含む

21号遺構

埋土1層 10YR4/4 褐色 砂質シルト 粘性中・しまり中 明黄褐色粘土小ブロックを斑状に含む 径5mm程度の炭化物、褐灰色土を僅かに含む

埋土2層 10YR4/1 褐灰色 粘土 粘性強・しまり中 鉄分、径5mm程度の炭化物を僅かに含む

図61 III期の遺構(3)

Fig. 61 Features belonging to phase III (3)

23号遺構



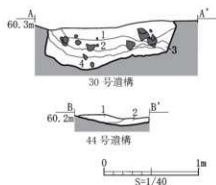
- 埋土1層 10YR3/1 黒褐色 シルト 粘性弱・しまり強 径0.5-1cm程度の炭化物をやや多く含む 径1-5cmの円礫を少量含む
埋土2層 10YR4/3 にがひ黄褐色 シルト 粘性弱・しまり強 基本層2b層に類似する 径5mm程度の炭化物を少量含む

25号遺構



- 埋土1層 10YR3/3 暗褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり強 径1-3cm程度の円礫、径5mm程度の炭化物を少量含む 下部には遺物をやや多く含む
埋土2層 10YR2/3 黒褐色 粘土 粘性中・しまり中 径1-3cm程度の円礫、径1-2mm程度の炭化物を少量含む
埋土3層 10YR3/3 暗褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり強 径1mm程度の炭化物を少量含む

30・44号遺構



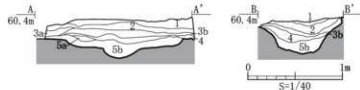
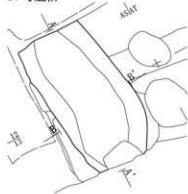
30号遺構

- 埋土1層 7.5Y5/1 灰色 シルト質土 粘性なし・しまりなし 径5mm前後の炭化物を少量含む バミスを中量含む 径5-10cmの礫を少量含む
埋土2層 7.5Y4/1 灰色 シルト質土 粘性弱・しまり強 径2-3mmの炭化物を多量に含む 径5-10cmの礫を多量に含む 焼土粒を少量含む
埋土3層 7.5Y6/1 灰色 シルト質粘質土 粘性中・しまり強 部分的にラミナ層の砂質土が入る 炭化物を少量含む
埋土4層 7.5Y5/1 灰色 シルト質土 粘性弱・しまり強 炭化物を中量含む 径2-3cmの小礫を少量含む

44号遺構

- 埋土1層 10YR6/1 褐灰色 シルト 粘性弱・しまり中 全体的にマンガンを含む 径2-3mmの白色粘土粒を多量に含む
埋土2層 10YR6/1 褐灰色 シルト 粘性弱・しまり強 径2-3mmの黄色粘土粒 炭化物を少量含む 灰緑の土がラミナ状に入る

31号遺構



- 埋土1層 10YR5/1 褐灰色 シルト質土 粘性なし・しまり強 径3-5cmの小礫、白色粘土粒を少量、炭化物を多量に含む
埋土2層 10YR4/2 灰黄褐色 シルト質土 粘性なし・しまり強 埋土1層より粘土ブロックが多く、炭化物が多い
埋土3a・3b層 10YR5/2 灰黄褐色 シルト質粘質土 粘性なし・しまり強 径0.5-1cmの粘土ブロックを中量含む 焼土を含む 3b層は3a層より焼土粒が少ない
埋土4層 10YR1.7/1 黒色 炭層 粘性なし・しまりなし 中央が厚い
埋土5a・5b層 10YR4/1 褐灰色 シルト質粘質土 粘性弱・しまり強 黄褐色粘土ブロックを多く含む 径5mm前後の焼土粒を少量含む 5b層は5a層より黄褐色粘土の割合が少ない

図62 Ⅲ期の遺構(4)

Fig. 62 Features belonging to phase III (4)

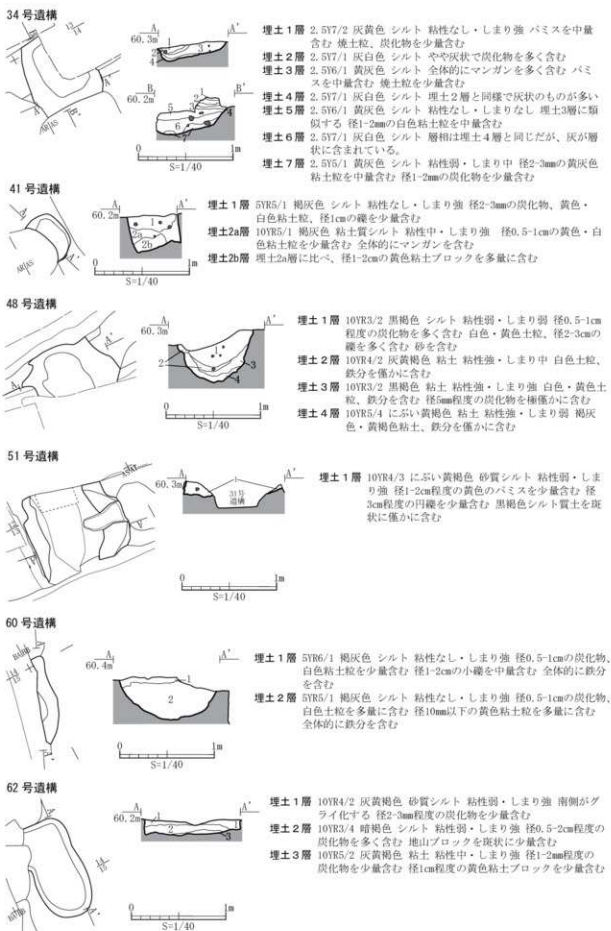
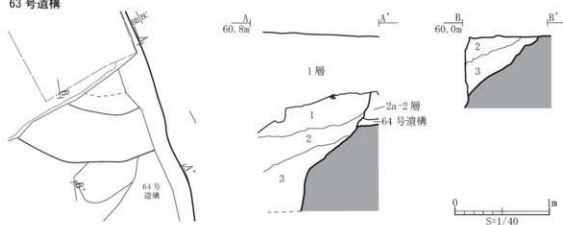


図63 Ⅲ期の遺構(5)
 Fig. 63 Features belonging to phase III(5)

63号遺構

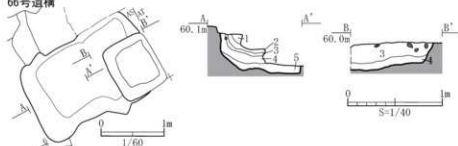


埋土1層 10YR4/3 ぶい黄褐色 シルト 粘性弱・しまり中 径0.5-1cmの炭化物を含む 白色・黄色土粒を多く含む 黄褐色粘土小ブロックを僅かに含む

埋土2層 10YR4/3 ぶい黄褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり弱 径1-3cmの炭化物, 鉄分を含む 黄褐色粘土小ブロックを僅かに含む

埋土3層 2.5Y3/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり中 鉄分, 径5mm程度の炭化物, 黄褐色土粒を僅かに含む

66号遺構



埋土1層 10YR3/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性強・しまり中 径0.5-1cm程度の炭化物を含む 白色・黄色土粒, 鉄分を含む

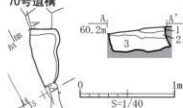
埋土2層 5Y3/1 オリーブ黒色 粘土質シルト 粘性強・しまり弱 径0.5-1cm程度の炭化物, 白色土粒, 鉄分を極僅かに含む

埋土3層 5Y3/1 オリーブ黒色 粘土質シルト 粘性強・しまり弱 径0.5-1cm程度の炭化物を多く含む 白色土粒を含む 鉄分, 径3cm程度の礫を僅かに含む

埋土4層 10YR3/1 黒褐色 粘土 粘性きわめて強・しまり弱 鉄分をやや多く含む 白色土粒, 有機質の遺物を含む

埋土5層 5Y4/2 灰オリーブ色 粘土 粘性強・しまり中 灰色粘土ブロックを斑に含む 黄褐色粘土小ブロック, 鉄分を僅かに含む 白色土粒を含む

70号遺構

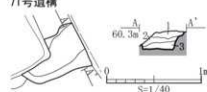


埋土1層 10YR5/1 褐灰色 シルト 粘性なし・しまり強 バミスを多量に含む 径1cm前後の小礫を多量に含む 径5mm前後の黄色粘土粒を少量含む

埋土2層 10YR7/4 ぶい黄褐色 シルト 粘性中・しまり強 淡褐色粘土ブロックが混じる

埋土3層 10YR5/1 褐灰色 シルト 粘性なし・しまり強 径1-2mmの白色・黄色粘土粒, 径2-5mmの炭化物を多量に含む 径1-3cmの小礫を少量含む

71号遺構



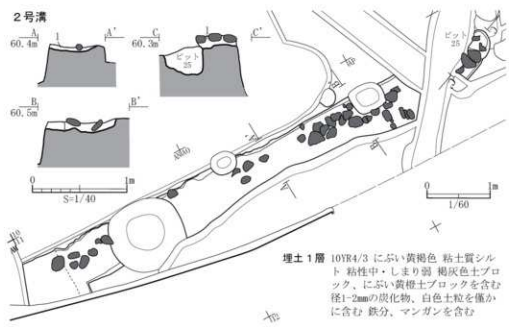
埋土1層 7.5YR6/1 褐灰色 シルト 粘性なし・しまり強 バミスを中量含む 径3-5mmの白色・黄色粘土粒を少量含む

埋土2層 7.5YR5/1 褐灰色 シルト 粘性なし・しまり強 全体的にマンガンを含む バミスを中量含む 径2-3mmの白色粘土粒を中量含む

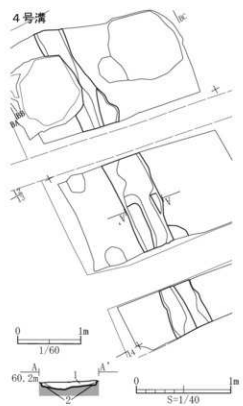
埋土3層 7.5YR4/1 褐灰色 シルト 粘性なし・しまり強 径2-3cmの炭化物, 白色・黄色粘土粒を中量含む

図64 Ⅲ期の遺構(6)

Fig.64 Features belonging to phase III(6)

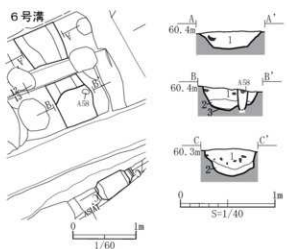


埋土1層 10YR4/3 に近い黄褐色 粘土質シルト 粘性中・しまり弱 褐灰色土ブロック、にぶい黄褐色土ブロックを含む 径1-2mmの炭化物、白色土粒を僅かに含む 鉄分、マンガンを含む



埋土1層 10YR3/2 黒褐色 シルト 粘性弱・しまり強 径0.5-1cm程度の炭化物をやや多く含む 径1cm程度の円礫を少量含む

埋土2層 10YR3/4 暗褐色 シルト 粘性弱・しまり弱 径1-3mm程度の炭化物を少量含む 径1mm程度の白色土粒をやや多く含む 埋土1層に類似するシルト質土を斑状にやや多く含む



埋土1層 2.5Y4/1 黄灰色 シルト質土 粘性なし・しまり強 径3-4cmの小礫を少量含む 径1cm前後の炭化物を多量に含む 径5mm前後の焼土粒を少量含む パミスを少量含む

埋土2層 2.5Y5/1 黄灰色 シルト質土 粘性弱・しまり強 径5mm前後の炭化物を少量含む パミスを少量含む

埋土3層 2.5Y5/1 黄灰色 シルト質土 粘性弱・しまり強 基本土層2層由来のやや粘質な土

図65 Ⅲ期の遺構(7)
Fig.65 Features belonging to phase Ⅲ(7)

【60号遺構】 (図63) BA・BB-14・15区に位置し、基本層2a-2層上面で検出した楕円形と推定される遺構である。そのほとんどを擾乱によって破壊される。底面は丸底となり、壁面は緩やかに立ち上がる。埋土は2層に区分できる。遺物は出土していないが、検出層位から、Ⅲ期（19世紀前葉以後）に位置づけた。

【62号遺構】 (図63) BB-14・15区に位置し、基本層2a-2層上面で検出した楕円形の遺構である。壁は垂直に立ち上がり、浅い。遺物は確認されていないが、検出層位からⅢ期（19世紀前葉以後）に位置づけた。

【63号遺構】 (図64) 調査区南端のBB-15区に位置し、基本層2a-2層上面で検出した。北側は擾乱によって破壊され、東側は調査区外に伸びる。重複関係から、64号遺構（Ⅰ期）より新しい。埋土は3層確認でき、遺構中央部に向かって傾斜して堆積している。埋土1層から17世紀後半の磁器が出土しているが、検出層位から、この磁器は64号遺構からの混入と捉え、Ⅲ期（19世紀前葉）に位置づけた。

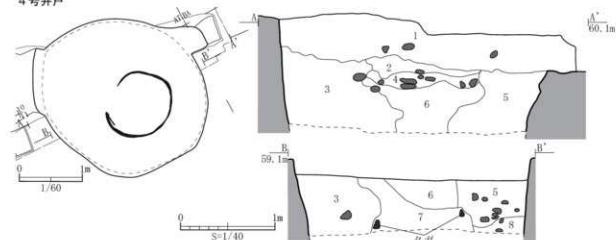
【66号遺構】 (図64) AS-6・7区に位置する長方形の遺構である。上部は擾乱によってかなり破壊されている。壁はやや垂直気味に立ち上がり箱状を呈する。埋土は5層に分かれる。そのうち地山由来の最下層の5層以外は炭化物が混じり、礫等も含む。その埋土4層出土陶器から、Ⅲ期（19世紀前葉～中葉）に位置づけた。

【70号遺構】 (図64) BB-14区に位置し、基本層2a-2層上面で検出した。壁は垂直気味に立ち上がり、長方形を呈すると考えられるが、その大部分は擾乱によって破壊されている。埋土は3層に分かれ、水平に堆積する。遺物は出土していないが、検出層位からⅢ期（19世紀前葉以後）に位置づけた。

【71号遺構】 (図64) AS-14区に位置し、基本層2a-2層上面で検出した。擾乱が著しいが、壁は垂直気味に立ち上がり、楕円形を呈するものと推定される。遺物は出土していないが、検出層位からⅢ期（19世紀前葉以後）に位置づけた。

【2号溝】 (図65) AM～AP-11区に位置し、西南-北東方向に伸びる溝である。東西方向の軸角度は、116.4(26.4)度西偏する。南側は擾乱によって大部分が破壊されているが、そのうち残存している場所で計測した最大幅は

4号井戸



- 埋土1層** 10YR2/2 黒褐色 砂質シルト 粘性弱・しまり強 にぶい黄褐色・灰黄褐色粘土ブロックを全体に斑にやや多く含む 白色・黄色土粒、鉄分を多く含む 径5mm程度の炭化物をやや多く含む 径3cm-握り華大の円礫を含む
- 埋土2層** 10YR5/3 にぶい黄褐色 砂 粘性なし・しまり弱 にぶい黄褐色・褐灰色粘土小ブロックを僅かに含む 鉄分を僅幅に含む
- 埋土3層** 10YR7/4 にぶい黄褐色 粘土 粘性強・しまり強 鉄分、マンガンを多く含む 黒褐色土、白色・黄色土粒を僅かに含む 径2-3cm程度の礫を僅かに含む
- 埋土4層** 10YR2/1 黒色 粘土質シルト 粘性強・しまり弱 径1-2cm程度の炭化物をやや多く含む 径3cm-人頭大の礫を含む 赤色土粒を僅かに含む
- 埋土5層** 7.5Y5/2 灰オリーブ色 粘土 粘性強・しまり強 黒褐色土を斑に含む 白色土粒、鉄分を含む
- 埋土6層** 10YR6/4 にぶい黄褐色 砂 粘性なし・しまり弱 鉄分を多く含む マンガンを含む
- 埋土7層** 10Y4/1 灰色 粘土 粘性強・しまり中 オリーブ黒色、黄褐色粘土ブロックを斑に含む
- 埋土8層** 10Y6/2 オリーブ灰色 粘土 粘性強・しまり中 オリーブ黒色粘土ブロックを含む

図66 Ⅲ期の遺構(8)

Fig.66 Features belonging to phase III (8)

78cmである。西側では南側に直角に曲がる。東側はピット25と重複しており、溝の東端が不明瞭である。溝の深さは非常に浅く、埋土は1層のみで、その埋土には多数の礫が確認された。時期が比定できるような遺物は出土していない。ただし、重複関係が2号溝より古いピット25の埋土には、第二師団期以降に活発に利用される粘板岩が確認されている。そのことから、この本遺構もⅢ期（近代）と推定した。

【4号溝】（図65） BB-12～14区に位置し、基本層2a-2層上面で確認した北西-南東方向に伸びる溝である。その軸角度は25.9度西偏する。最大幅は、66cm程である。周辺の遺構よりおおむね新しい。深さはあまりなく、埋土は2層のみ確認できた。埋土からは18世紀後半～19世紀前葉の磁器・陶器が出土している。それらの出土遺物と検出層位から、Ⅲ期（19世紀前葉）と位置づけた。

【6号溝】（図65） AT-12～14区に位置し、基本層2a-2層上面で確認した北西-南東方向に伸びる溝である。その軸角度は27.5度西偏する。地点によっては段が形成される程、掘り込まれており、新規に溝を掘り直した可能性も考えられる。埋土は掘り込まれた最も深い場所で3枚確認できた。埋土上部には焼土粒、炭化物、小礫などを含んでいる。埋土1層出土磁器・陶器と検出層位から、Ⅲ期（19世紀前葉～中葉）に位置づけた。

【4号井戸】（図66） AT-10・11区に位置する円形の井戸である。上部は米軍期の攪乱により破壊されている。安全上の理由から、全てを掘り上げてはいない。井戸本体の構造材は見受けられず、土壌化したカガの痕跡のみが残っていた。埋土は、中央部が凹み、そこを埋めるような状況が確認された。この状況からすると、本遺構は桶を利用した井戸であり、何らかの理由でその材を撤去したものと推定される。埋土は8層に区分した。そのうち6層出土の陶器は19世紀前葉の年代が比定できる。この遺物の存在から、19世紀前葉には埋没していたことがわかる。構築・機能していた時期は、それ以前の時期と推定されるが、Ⅲ期に時期比定した。

（9）時期不明の遺構（図67・68）

【3号柱列】（図69） BA-12・13区に位置する、柱穴3基で構成される2間の柱列である。周辺の土層の大部分は削平されているため4層で検出した。柱間寸法は、4尺である。軸角度は16.5度西偏する。出土遺物等時期比定をするだけの根拠がないため、時期不明とした。

【55号遺構】（図69） BA-14区に位置し、北・東側を攪乱によって削平された遺構である。深さは浅く、埋土1層のみ確認できた。出土遺物等時期比定をするだけの根拠がないため、時期不明とした。

【56号遺構】（図69） BA-13区に位置し、55号遺構と同様に北・東側を攪乱によって削平された遺構である。深さは浅く、埋土も同様に1層のみ確認できた。出土遺物等時期比定をするだけの根拠がないため、時期不明とした。

【67号遺構】（図69） AT-9区に位置し、ほぼ円形に礫が集合した遺構である。当初はピットと考え調査を行ったが、掘り上げ後にプランなども確認できないため、遺構とした。この礫が乗る層は基本層2b層であり、何らかの理由で基本層2b層上面に礫を集めたものと考えられる。出土遺物等時期比定をするだけの根拠がないため、時期不明とした。

【73号遺構】（図69） 調査区北端のAR・AS-6区に位置し、東西両端は攪乱によって破壊され、北側は調査区外へと伸びる。埋土は4層確認でき、おおむね水平に堆積する。出土遺物等時期比定をするだけの根拠がないため、時期不明とした。

（10）関連区の遺構（図12～14）

【関連1区遺構】 AL・AM-18・19区にて確認したが、調査面積が狭く詳細は不明である。埋土は5層に分かれ、うち2層は炭化物を多量に含む。出土遺物等時期比定をする根拠がないため、時期不明とした。

【関連2区遺構】 AT・AU-19・20区にて確認した、基本層2a層に相当する層の上面で検出している。この検出

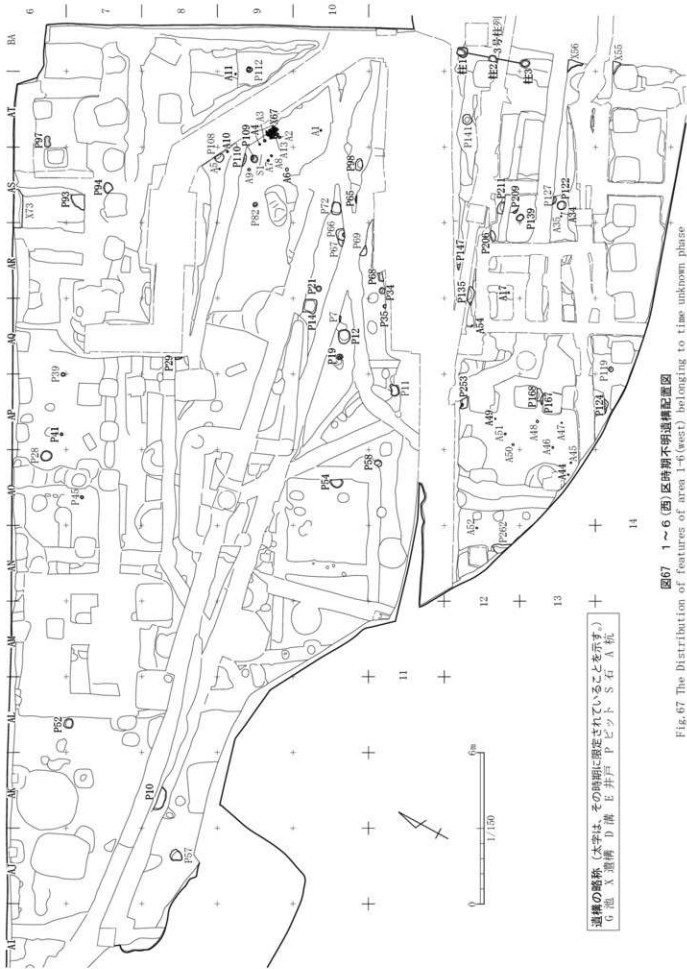
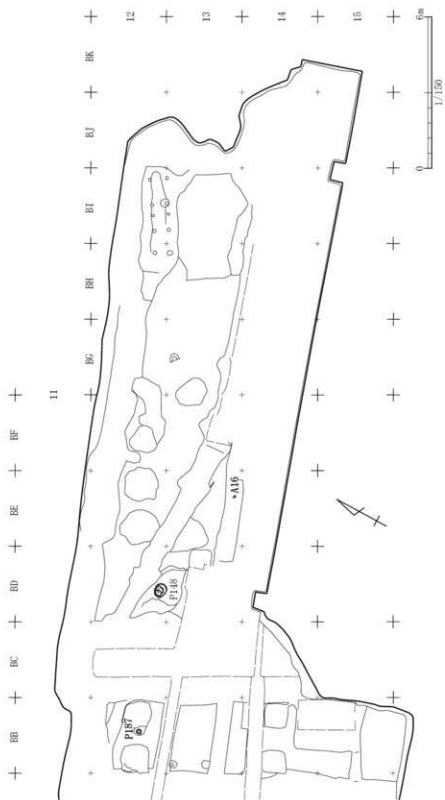


図67 1～6(西)区時期不明遺構配置図
 Fig.67 The Distribution of features of area 1-6(west) belonging to time unknown phase

遺構の略称 (太字は、その時期に認定されていることを示す)
 G 池 A 遺構 D 溝 E 井戸 P ピット S 石 A 坑



遺構の略称 (本字は、その時期に掘進されていることを示す)
 G 池 X 通溝 D 溝 E 井戸 P ビット S 石 A 杭

図68 6 (東)・7 区時期不明遺構配置図
 Fig.68 The Distribution of features of area 6(east)・7 belonging to time unknown phase

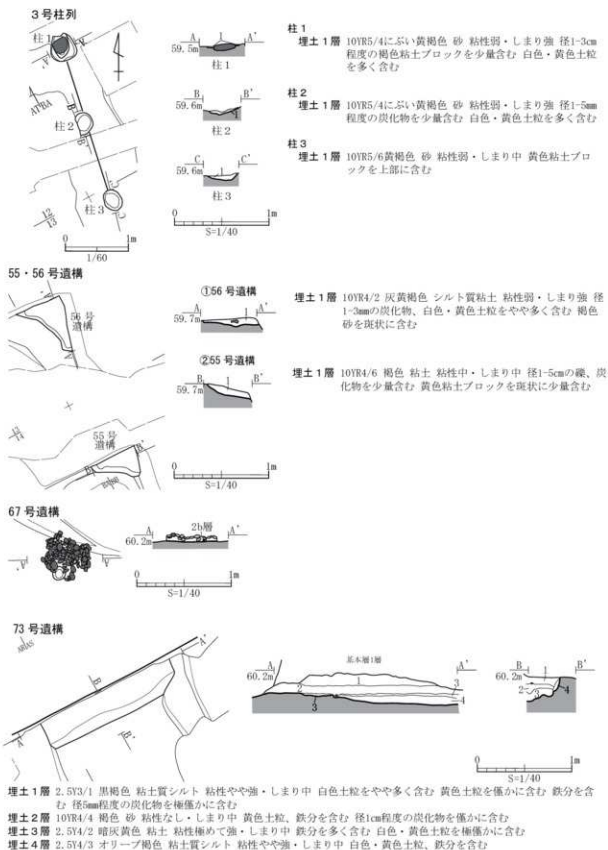


図69 時期不明の遺構

Fig.69 Features belonging to time unknown phase

層位と埋土の出土陶磁器から、Ⅲ期（18世紀後葉～19世紀前葉）に位置づけた。

【関連4区遺構】 AI・AJ-40・41区で確認した。その本土は調査区外へと広がることから、形状などは不明である。壁は緩やかに立ち上がり、底面は平らである。機能は不明である。埋土は、ほぼ水平に堆積した4層が確認できた。この埋土から17世紀前半の陶器が出土している。この出土遺物の時期から、1期（17世紀前半）に位置づけた。

【関連5区遺構】 調査区全体の堆積層が、基本層としてこれまで認識していた土層とは異なるため、遺構の埋土と考えた。埋土は5層に区分できる。遺物は出土しておらず、これが遺構かどうかということも含めて不明である。

3. 小結

本調査では、様々な遺構が多数確認できた。その中でも、4基の池状遺構は、今回の調査において特筆される遺構である。2号池状遺構は、土手等を用いて場所を区切り、それぞれを水が流れるような構造としており、園庭における池のイメージと合致する。一方で、1・3・4号池状遺構は壁も高く、段差をもって南から北へと水を流す施設であることが推定される。壁が挟まれるような水流も生じていたようであり、その流れは2号池状遺構と比べ急であった様子も窺える。本報告では、これらの遺構をまとめて池状遺構と命名はしたが、本調査区における機能は異なっていたものと考えられる。そして、1・3・4号池状遺構は、本調査区の北側に位置する武家屋敷地区第7地点の池状遺構に繋がっており、そちらの成果と合わせて検討する必要がある。

また、建物7棟や柱列10条を認定した。本調査区では多数のピットを検出したが、攪乱や重複が著しくなかなか組むことが難しかった。おそらくは、その組ませ方によって、より多くの建物を復元することができるものと考えている。この点については、これまで当室で調査してきた各調査区についても同様で、継続して検討を試みる必要があるものと考えている。

本報告では、本調査に関する基礎的な事項と、遺構に関する事実報告のみに止めた。次年度刊行予定の『調査報告』8における遺物の成果と共に、遺構の詳細な時期的変遷やその機能に関する考察を試みたい。

註) 軸角度は、基本的に南北の軸角度を計測し提示した。東西に伸びる柱列に関しては、それに直行する南北軸を想定し、その角度も提示している。その際の表記は、「南北軸角度（東西軸角度）」と表記する。

引用・参考文献

東北大学埋蔵文化財調査室・仙台市教育委員会の報告書に関しては、直接引用したもの以外は省略した。

【東北大学埋蔵文化財調査室刊行報告書関連】

- 東北大学埋蔵文化財調査委員会 1992 『東北大学埋蔵文化財調査年報』4・5
東北大学埋蔵文化財調査委員会 1993 『東北大学埋蔵文化財調査年報』6
東北大学埋蔵文化財調査委員会 1994 『東北大学埋蔵文化財調査年報』7
東北大学埋蔵文化財調査研究センター 1997 『東北大学埋蔵文化財調査年報』8
東北大学埋蔵文化財調査研究センター 1998 『東北大学埋蔵文化財調査年報』9
東北大学埋蔵文化財調査研究センター 2006～2010 『東北大学埋蔵文化財調査年報』19 第1～5分冊
東北大学埋蔵文化財調査室 2011 『仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第11地点・第12地点』
東北大学埋蔵文化財調査室調査報告1
東北大学埋蔵文化財調査室 2016 『仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第16地点』
東北大学埋蔵文化財調査室調査報告5
東北大学埋蔵文化財調査室 2017 『東北大学埋蔵文化財調査室年次報告』2015

【仙台市教育委員会刊行報告書関連】

- 佐藤 淳ほか 2008 『若林城跡－第5次発掘調査報告書－』仙台市文化財調査報告書323
佐藤 淳ほか 1985 『仙台城三の丸跡』仙台市文化財調査報告書76
金森安孝・渡部 紀 2009 『仙台城跡第1次調査 第1分冊 本文編』仙台市文化財調査報告書349
佐藤 淳ほか 2010 『若林城跡－第8次・第9次発掘調査報告書－』仙台市文化財調査報告書377
主演光朗ほか 2011a 『桜ヶ岡公園遺跡－仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書IV－』仙台市文化財調査報告書384
主演光朗ほか 2011b 『仙台城跡－仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書VI－』仙台市文化財調査報告書386

【その他の報告書・論文等（50音順）】

- 阿刀田令造編 1930 『仙台萩』無一文館
阿刀田令造 1976（初出1936）『仙台下絵図の研究』斎藤報恩会博物館図書部研究報告4 東洋書院
小林清春監修 1994 『絵図・地図で見る仙台』今野印刷
小林博範ほか 2000 『汐留遺跡Ⅱ』東京都埋蔵文化財センター調査報告書78 東京都埋蔵文化財センター
坂田 啓編 1995 『私本 仙台藩士事典』創栄社
渋谷優子 2011 『仙台下絵図にみる屋敷拝領者変遷と階層性－川内地区の事例に基づいて－』『仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第11地点・第12地点』東北大学埋蔵文化財調査室調査報告1 東北大学埋蔵文化財調査室 pp.266-298
仙台市科学館編 1985 『仙台市地形区分図』仙台市科学館
平 重道責任編集 1973 『伊達治家記録』二 宝文堂
平 重道責任編集 1974 『伊達治家記録』四 宝文堂
本田 勇 2003 『史料仙台伊達氏家臣団事典』丸善仙台出版サービスセンター制作
吉岡一男編 2005 『絵図・地図で見る仙台 第二輯』今野印刷

東北大学埋蔵文化財調査室刊行報告書一覧

(東北大学埋蔵文化財調査年報)

書名	刊行年	掲載内容	刊行主体
東北大学埋蔵文化財調査年報1	1985	昭和58年度(1983年度)事業概要	東北大学 埋蔵文化財調査委員会
		仙台城跡二の丸第1地点(NM1)	
		仙台城跡二の丸第2地点(NM2)	
東北大学埋蔵文化財調査年報2	1986	仙台城跡二の丸第3地点(NM3)	東北大学 埋蔵文化財調査委員会
		昭和59年度(1984年度)事業概要	
		青葉山B遺跡第1次調査(AOB1)	
東北大学埋蔵文化財調査年報3	1990	青葉山B遺跡第2次調査(AOB2・旧称AOF)	東北大学 埋蔵文化財調査委員会
		青葉山E遺跡第1次調査(AOE1)	
		昭和60年度(1985年度)事業概要	
東北大学埋蔵文化財調査年報4・5	1992	仙台城跡二の丸第6地点(NM6)	東北大学 埋蔵文化財調査委員会
		戸ノ口遺跡第1次調査(TM1)	
		戸ノ口遺跡1976年考古学研究室による調査(TK)	
東北大学埋蔵文化財調査年報6	1993	研究編-東北地方における近世窯業と陶磁器をめぐる問題ほか	東北大学 埋蔵文化財調査委員会
		昭和61年度(1986年度)事業概要	
		昭和62年度(1987年度)事業概要	
東北大学埋蔵文化財調査年報7	1994	仙台城跡二の丸第4地点(NM4)	東北大学 埋蔵文化財調査委員会
		仙台城跡二の丸第7地点(NM7)	
		仙台城跡二の丸第8地点(NM8)	
東北大学埋蔵文化財調査年報8	1997	仙台城跡二の丸第5地点(NM5)	東北大学 埋蔵文化財調査委員会
		平成1年度(1989年度)事業概要	
		仙台城跡二の丸第5地点(NM5)付帯施設部分	
東北大学埋蔵文化財調査年報9	1998	仙台城跡二の丸第5地点(NM5)調査成果の検討	東北大学 埋蔵文化財調査委員会
		仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第5地点(BK5)	
		川渡農場町西遺跡第1地点(KW1)	
東北大学埋蔵文化財調査年報10	1998	平成2年度(1990年度)事業概要	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
		仙台城跡二の丸第9地点(NM9)	
		平成3年度(1991年度)事業概要	
東北大学埋蔵文化財調査年報11	1999	仙台城跡二の丸第10地点(NM10)	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
		戸ノ口遺跡第2次・3次調査(TM2・TM3)	
		考掘編-仙台城二の丸跡の考古学的調査-	
東北大学埋蔵文化財調査年報12	1999	平成4年度(1992年度)事業概要	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
		仙台城跡二の丸第13地点(NM13)	
		青葉山地区分布調査	
東北大学埋蔵文化財調査年報13	2000	研究編-相馬藩における近世窯業生産の展開	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
		平成5年度(1993年度)事業概要	
		仙台城跡二の丸第12地点(NM12)	
東北大学埋蔵文化財調査年報14	2001	仙台城跡二の丸第14地点(NM14)	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
		青葉山E遺跡第2次調査(AOE2)	
		平成6年度(1994年度)事業概要	
東北大学埋蔵文化財調査年報15	2001	仙台城跡二の丸第15地点(NM15)	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
		青葉山E遺跡第3次調査(AOE3)	
		平成7年度(1995年度)事業概要	
東北大学埋蔵文化財調査年報16	2001	仙台城跡二の丸第11地点(NM11)	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
		仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第4地点(BK4)	
		青葉山E遺跡第4次調査(AOE4)	
東北大学埋蔵文化財調査年報17	2002	研究編-東北大学構内(仙台城二の丸跡)遺跡出土漆器資料の材質と製作技法	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
		平成8年度(1996年度)事業概要	
		仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第6地点(BK6)	
東北大学埋蔵文化財調査年報18	2005	青葉山E遺跡第5次調査(AOE5)	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
		戸ノ口遺跡第4次調査(TM4)	
		平成9年度(1997年度)事業概要	
東北大学埋蔵文化財調査年報19	2002	仙台城跡二の丸第16地点(NM16)	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
		青葉山E遺跡第6次調査(AOE6)	
		平成10年度(1998年度)事業概要	
東北大学埋蔵文化財調査年報20	2002	研究編-船アルコール含浸法における予備実験	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
		平成11年度(1999年度)事業概要	
		仙台城跡二の丸第17地点(NM17)	

書名	刊行年	掲載内容	刊行主体
東北大学埋蔵文化財調査年報19 第1分冊	2006	平成13年度(2001年度)事業概要	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
		芦ノ口遺跡第5次調査(TM5) 仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点(BK7) 遺構	
東北大学埋蔵文化財調査年報19 第2分冊	2009	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点(BK7) 陶磁器・土器・土製品・瓦	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査年報19 第3分冊	2007	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点(BK7) 木簡・墨書ある木製品	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査年報19 第4分冊	2008	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点(BK7) その他の遺物	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査年報19 第5分冊	2010	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第7地点(BK7) 分析・考察	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査年報20	2006	平成14年度(2002年度)事業概要	東北大学 埋蔵文化財調査研究センター
		仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第8地点(BK8)	
		青葉山E遺跡第7次調査(AOE7)	
		青葉山E遺跡第8次調査(AOE8)	
東北大学埋蔵文化財調査年報21	2007	平成15年度(2003年度)事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
		仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第9地点(BK9) 芦ノ口遺跡第6次調査(TM6)	
東北大学埋蔵文化財調査年報22	2008	平成16年度(2004年度)事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査年報23	2009	平成17年度(2005年度)事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査年報24	2010	平成18年度(2006年度)事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
		仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第10地点(BK10) 青葉山新キャンパス地区試掘調査	

《東北大学埋蔵文化財調査室調査報告》

シリーズ名	書名	刊行年	掲載内容	刊行主体
東北大学埋蔵文化財調査室 調査報告1	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第11地点・第12地点 - 仙台市高速鉄道東西線機能補償関係調査報告書-	2011	東西線補償関係埋蔵文化財調査の概要	東北大学 埋蔵文化財調査室
			仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第11地点(BK11)	
			仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第12地点(BK12)	
			川内地区の絵図記載人名の検討 川内地区における江戸時代の道路の復元	
東北大学埋蔵文化財調査室 調査報告2	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第13地点	2013	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第13地点(BK13)	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室 調査報告3	芦ノ口遺跡第7次調査・第8次調査	2014	芦ノ口遺跡第7次調査(TM7)・第8次調査(TM8)	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室 調査報告4	芦ノ口遺跡第9次調査・青葉山E遺跡第9次調査-東日本大震災復旧事業関係調査報告書-	2015	芦ノ口遺跡第9次調査(TM9)・青葉山E遺跡第9次調査(AOE9)	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室 調査報告5	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第16地点	2016	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第16地点(BK16)	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室 調査報告6	仙台城跡二の丸地区第18地点	2017	仙台城跡二の丸地区第18地点(NM18)	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室 調査報告7	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点 第1分冊	2019	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点(BK14) 本報告	東北大学埋蔵文化財調査室

《東北大学埋蔵文化財調査室年次報告》

書名	刊行年	掲載内容	刊行主体
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2007	2010	平成19年度（2007年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2008	2010	平成20年度（2008年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2009	2012	平成21年度（2009年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2010	2012	平成22年度（2010年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2011	2013	平成23年度（2011年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2012	2014	平成24年度（2012年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2013	2015	平成25年度（2013年度）事業概要 芦ノ口遺跡第10次調査（TM10）	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2014	2016	平成26年度（2014年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2015	2017	平成27年度（2015年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2016	2018	平成28年度（2016年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室
東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2017	2019	平成29年度（2017年度）事業概要	東北大学埋蔵文化財調査室

*これらの刊行物は、東北大学機関リポトリTOURおよび全国遺跡報告総覧で全て公開している。
東北大学機関リポトリTOUR <https://tohoku.reponilac.jp>
全国遺跡報告総覧 <http://site-reports.nabunken.go.jp/ja>

RESEARCH REPORTS
IN ARCHAEOLOGY ON THE CAMPUS OF TOHOKU UNIVERSITY
No. 7 MARCH 2019

The Archaeological Research office
On the Campus, Tohoku University
2-1-1, Katahira, Aoba-ku Sendai-shi, Miyagi,
980-8577, JAPAN

Summary

On the campus of Tohoku University a lot of archaeological sites are known. Among them, Sendai Castle is the most famous and largest one. Almost all of the south part of Kawauchi campus is located on its secondary citadel area. The north part of Kawauchi campus is located on the sites of samurai residences.

In Japan, if existing circumstances need to be changed in the known site area, excavation research on the buried cultural properties must be carried out. The Office mainly carries out salvage excavations of archaeological sites on campus.

This report discusses the research results of salvage excavations of BK14 (Loc.14 of samurai residences located at the side of north outer moat of Ninomaru, i.e. Secondary Citadel of Sendai Castle), located on the Kawauchi campus, conducted by the Archaeological Research Office in 2011 and 2015.

As the result of the excavation, a lot of structures of pond, some ditches, colonnades, and buildings were found. These features of structure are classified into temporal phases I-III.

Phase I is the stage at the 17th century including the beginning of 16th century.

Phase IIa is the stage from the beginning to the middle portion of 18th century.

Phase IIb is the stage from the latter portion of 18th century to the beginning of 19th century.

Phase III is the stage from the early to the latter portion of 19th century.

写 真 图 版



視乱跡去状況全景 2011年11月9日撮影(右側が北)

図版 1 1・2区全景(1)
Pl.1 Views of area 1・2(1)



調査最終状況全景 2011年12月7日撮影(右側が北)

図版2 1・2区全景(2)

Pl.2 Views of area 1・2(2)

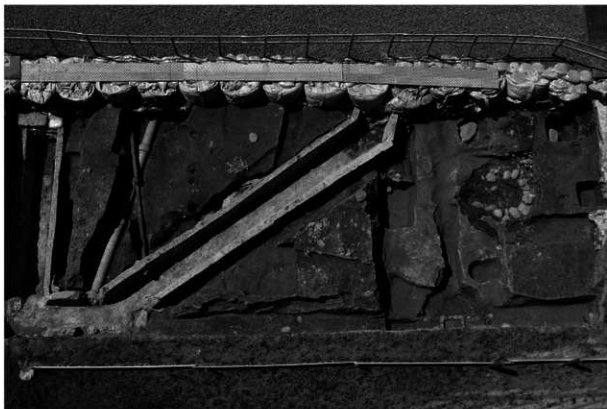


1. 掘乱除去状況全景 2011年12月21日撮影(右側が北)

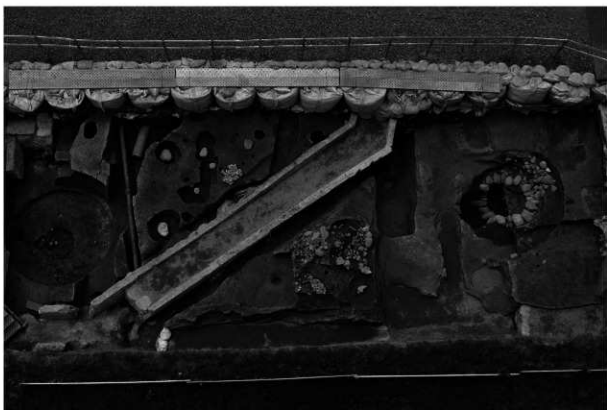


2. 調査最終状況全景 2012年3月22日撮影(右側が北)

図版3 3区全景
Pl.3 Views of area 3



1. 攪乱除去状況全景 2012年4月13日撮影(右側が北)

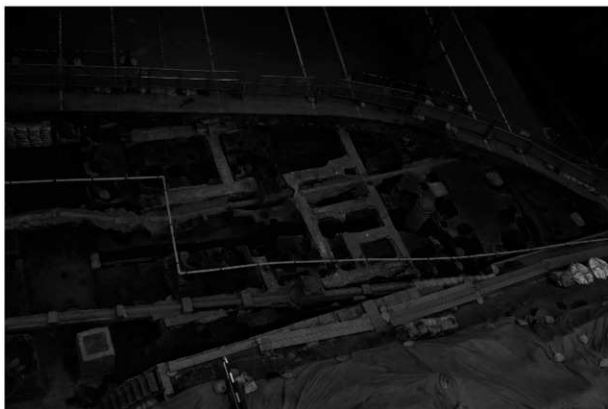


2. 調査最終状況全景 2012年4月25日撮影(右側が北)

図版4 4区全景
Pl.4 Views of area 4



1. 複乱除去状況全景 2015年3月23日撮影(下が北)



2. 調査最終状況全景 2015年6月8日撮影(下が北)

図版 5・5・6 区全景
Pl. 5 Views of area 5・6



1. BB-12・13区2b層上面検出全景(下側が北)



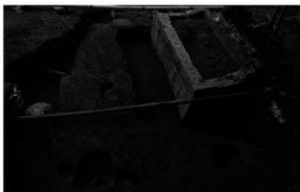
2. BB-12・13区2b層完掘全景(下側が北)



3. BB-14～16区2b層完掘全景(下側が北)



4. BB-14～16区調査最終状況全景(下側が北)



5. BB-14～16区調査最終状況全景(上側が北)

図版 6 6区全景
Pl. 6 Views of area 6



視乱除去状況全景 2015年3月26日撮影(右側が北)

図版7 7区全景(1)

Pl. 7 Views of area 7(1)



1. Ⅷ・Ⅱ-12~14区視察除去状況全景(右側が北)



2. Ⅷ・Ⅱ-12~14区調査最終状況全景(右側が北)

図版 8 7区全景(2)

Pl. 8 Views of area 7(2)

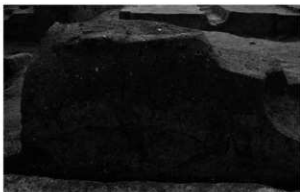


調査最終状況全景 2015年6月24日撮影(右側が北)

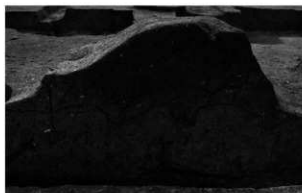
図版9 5～7区全景
Pl.9 Views of area 5-7



1. AQ-6~8区南北土層断面(南から①)(東から)



2. AQ-6~8区南北土層断面(南から②)(東から)



3. AQ-6~8区南北土層断面(南から③)(東から)



4. AQ-6~8区南北土層断面(南から④)(東から)



5. AQ-6~8区南北土層断面(南から⑤)(東から)



6. AQ-6~8区南北土層断面(南から⑥)(東から)



7. AQ-8・9区南北土層断面(南半分)(東から)



8. AQ-8・9区南北土層断面(北半分)(東から)

図版10 1~4区土層断面(1)

Pl. 10 Cross section of area 1-4(1)



1. AQ-10・11区南北土層断面(南から①)(東から)



2. AQ-10・11区南北土層断面(南から②)(東から)



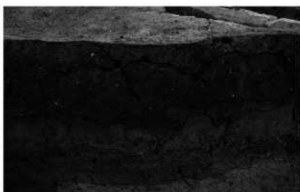
3. AQ-10・11区南北土層断面(南から③)(東から)



4. AS・AT-10・11区東西土層断面(西から①)(南から)



5. AS・AT-10・11区東西土層断面(西から②)(南から)



6. AS・AT-10・11区東西土層断面(西から③)(南から)



7. AS・AT-10・11区東西土層断面(西から④)(南から)



8. AP～AR-10区東西土層断面(東から①)(北から)

図版11 1～4区土層断面(2)

Pl.11 Cross section of area 1-4(2)



1. AP~AR-10区東西土層断面(東から②)(北から)



2. AP~AR-10区東西土層断面(東から③)(北から)



3. AN~AP-10区東西土層断面(東から①)(北から)



4. AN~AP-10区東西土層断面(東から②)(北から)



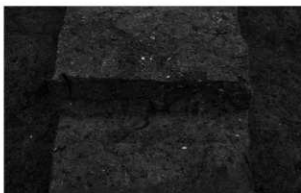
5. AN~AP-10区東西土層断面(東から③)(北から)



6. AN~AP-10区東西土層断面(東から④)(北から)



7. AN~AP-10区東西土層断面(東から⑤)(北から)



8. AN~AP-10区東西土層断面(東から⑥)(北から)

図版12 1~4区土層断面(3)

Pl.12 Cross section of area 1~4(3)



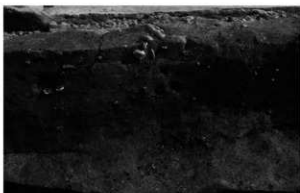
1. BA・BB-13区東西土層断面(西から①)(北から)



2. BA・BB-13区東西土層断面(西から②)(北から)



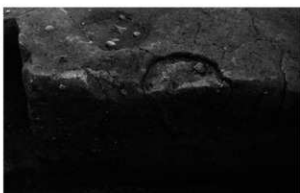
3. AS・AT-13区東西土層断面(西から①)(北から)



4. AS・AT-13区東西土層断面(西から②)(北から)



5. AS・AT-13区東西土層断面(西から③)(北から)



6. AR・AS-13区東西土層断面(西から①)(北から)



7. AR・AS-13区東西土層断面(西から②)(北から)



8. AQ・AR-13区東西土層断面(西から①)(北から)

図版13 5～7区土層断面(1)

Pl.13 Cross section of area 5-7(1)



1. AQ・AR-13区東西土層断面(西から②)(北から)



2. AP・AQ-13区東西土層断面(西から①)(北から)



3. AP・AQ-13区東西土層断面(西から②)(北から)



4. AP-12~14区南北土層断面(北から①)(西から)



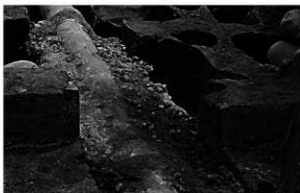
5. AP-12~14区南北土層断面(北から②)(西から)



6. AP-12~14区南北土層断面(北から③)(西から)



7. AP-12~14区南北土層断面(北から④)(西から)



8. AP-12~14区南北土層断面(北から⑤)(西から)

図版14 5～7区土層断面(2)

Pl.14 Cross section of area 5-7(2)



1. A0・AP-13区東西土層断面(南から①)(東から)



2. A0・AP-13区東西土層断面(南から②)(東から)



3. BB12~14区南北土層断面(北半分)(東から)



4. BB12~14区南北土層断面(南半分)(東から)



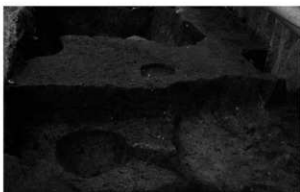
5. BB-14区南北土層断面(2a・2層部分)(西から)



6. BB-14区南北土層断面(2b層部分)(西から)



7. BB-15・16区南北土層断面(2a・2層部分)(西から)



8. BB-15・16区南北土層断面(2b層部分)(西から)

図版15 5～7区土層断面(3)

Pl.15 Cross section of area 5-7(3)



1. BB・BC-13区東西土層断面(北から)



2. BB-13区南北土層断面(東から)



3. 関連1区調査最終状況全景(右側が北)



4. 関連2区調査最終状況全景(Fが北)



5. 関連1区東壁土層断面(西から)

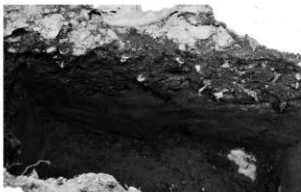


6. 関連2区西壁土層断面(東から)

図版16 5～7区土層断面(4)・関連調査区全景・土層断面
Pl.16 Views and cross section of area 5-7 and around excavated area



1. 関連3区調査最終状況全景(上が北)



2. 関連3区東壁土層断面(西から)



3. 関連4区遺構検出全景(下が北)



4. 関連4区遺構断面(南から)



5. 関連4区調査最終状況全景(右側が北東)



6. 関連5区調査最終状況全景(右側が北)



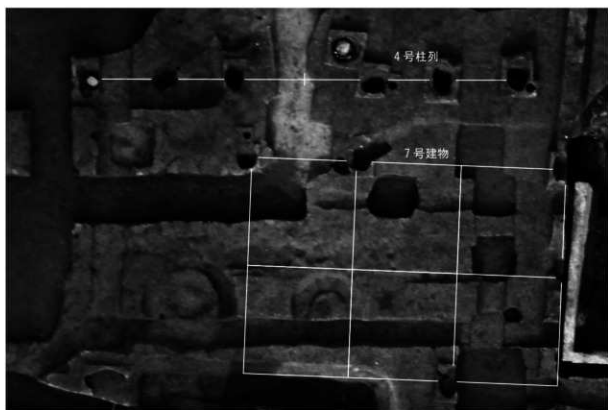
7. 関連5区北壁土層断面(南から)

図版17 関連調査区全景・土層断面

Pl.17 Views and cross section of around excavated area



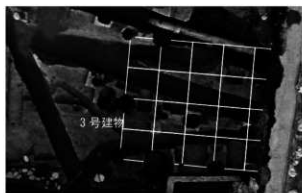
1. 1号建物北側(1区)、4号建物(上が北)



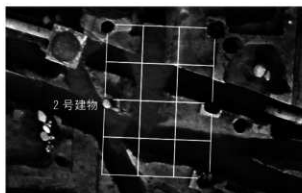
2. 7号建物、4号柱列(上が北)

図版 18 1・2区の建物・柱列

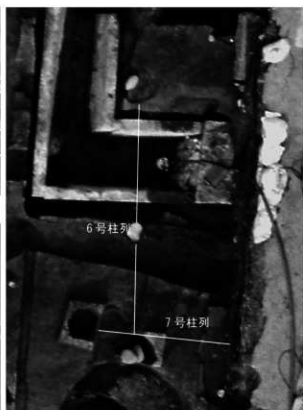
Pl.18 Building and line of pillars of area 1 and 2



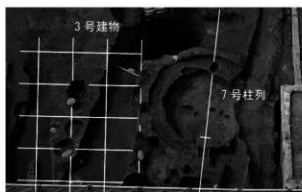
1. 3号建物西側(1区)



2. 2号建物



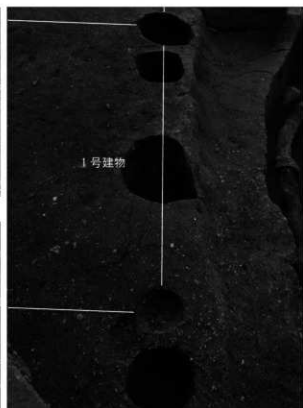
3. 6号柱列、7号柱列西側(1区)



4. 3号建物・7号柱列中央(3区)



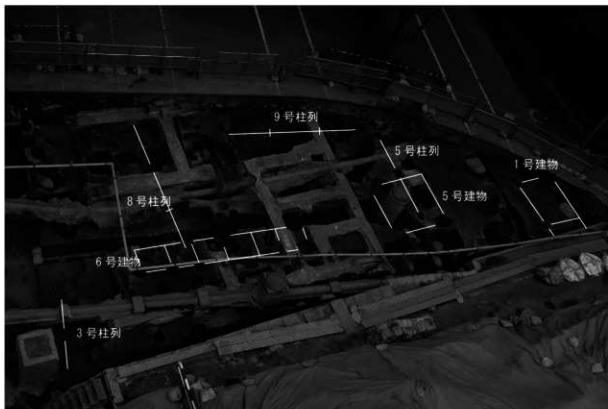
5. 3号建物・7号柱列東側(4区)



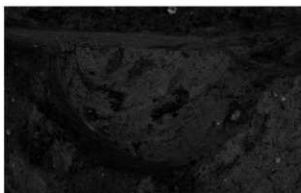
6. 1号建物南側(5区)

1~3・6上が北、4・5は右が北

図版 19 1~5区の建物・柱列
Pl.19 Building and line of pillars of area 1-5



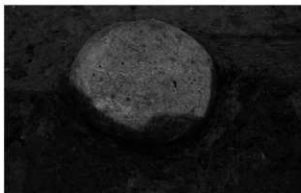
1. 5区の建物・柱列(下が北)



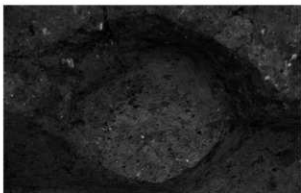
2. 1号建物柱1(北から)



3. 1号建物柱1断面(南から)



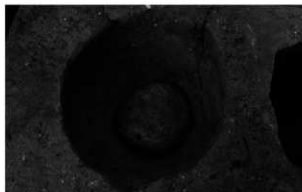
4. 1号建物柱2(北から)



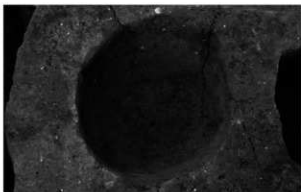
5. 1号建物柱2礎板石除去状況(南から)

図版20 5区の建物・柱列・I期の遺構(1)

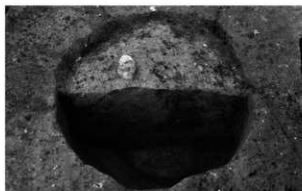
Pl.20 Building and line of pillars of area 5. Features of phase I(1)



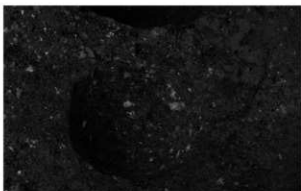
1. 1号建物柱3 (西から)



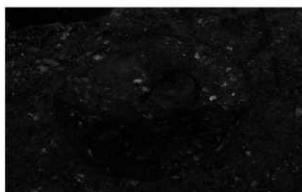
2. 1号建物柱3 礎板石除去状況(西から)



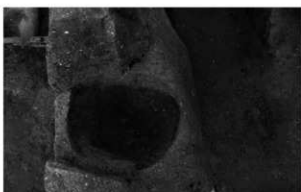
3. 1号建物柱3 断面(西から)



4. 1号建物柱4 (北西から)



5. 1号建物柱4 断面(北から)



6. 3号建物柱1 (西から)



7. 3号建物柱1 断面(北から)

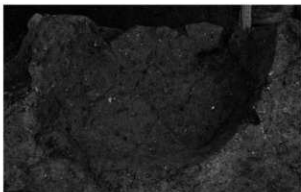


8. 3号建物柱2 (北から)

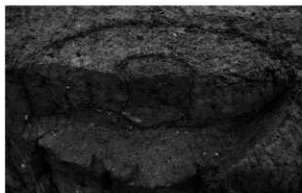
図版21 1期の遺構(2)
Pl. 21 Features of phase 1 (2)



1. 3号建物柱2断面(北から)



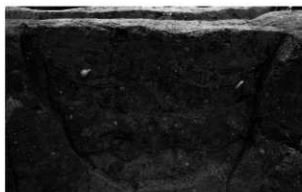
2. 3号建物柱3(北から)



3. 3号建物柱3断面(南から)



4. 3号建物柱4(南から)



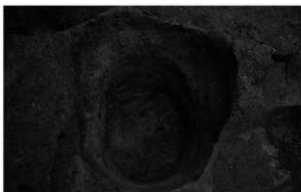
5. 3号建物柱4断面(南から)



6. 3号建物柱5(北から)



7. 3号建物柱5断面(北から)



8. 3号建物柱6(北から)

図版22 Ⅰ期の遺構(3)
Pl. 22 Features of phase 1 (3)



1. 3号建物柱6断面(南から)



2. 3号建物柱6木材検出状況(北から)



3. 3号建物柱7(西から)



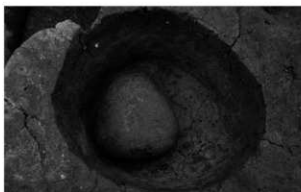
4. 3号建物柱7断面(東から)



5. 3号建物柱8(南から)



6. 3号建物柱8断面(南から)

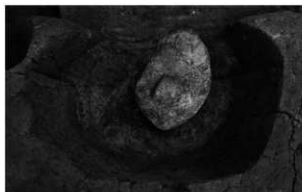


7. 3号建物柱9(北から)

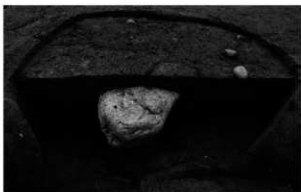


8. 3号建物柱9断面(西から)

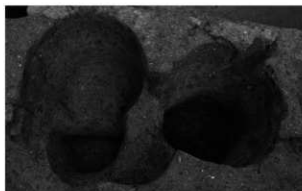
図版23 Ⅰ期の遺構(4)
Pl. 23 Features of phase 1(4)



1. 3号建物柱10(西から)



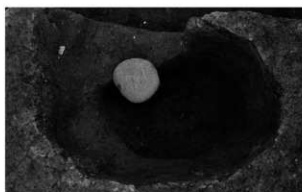
2. 3号建物柱10断面(東から)



3. 3号建物柱11(左側)(南から)



4. 3号建物柱11断面(南から)



5. 3号建物柱12(北から)



6. 3号建物柱12断面(南から)



7. 3号建物柱13(東から)



8. 3号建物柱13断面(北から)

図版24 I期の遺構(5)
Pl. 24 Features of phase 1 (5)



1. 3号建物柱14(東から)



2. 3号建物柱14断面(北西から)



3. 3号建物柱15(東から)



4. 3号建物柱15断面(東から)



5. 3号建物柱16(北から)



6. 3号建物柱16断面(南から)

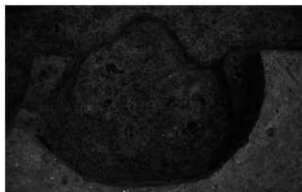


7. 3号建物柱17(南から)



8. 3号建物柱17断面(南から)

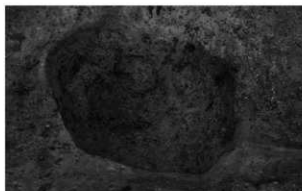
図版25 Ⅰ期の遺構(6)
Pl. 25 Features of phase 1(6)



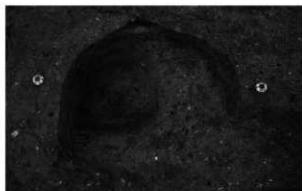
1. 4号建物柱1(東から)



2. 4号建物柱1断面(西から)



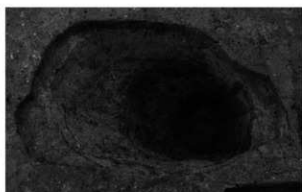
3. 4号建物柱2(西から)



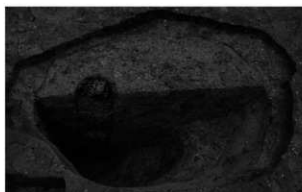
4. 4号建物柱3(東から)



5. 4号建物柱3断面(東から)



6. 4号建物柱4(西から)



7. 4号建物柱4断面(東から)

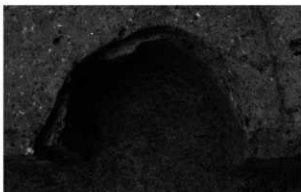


8. 4号建物柱5(南から)

図版26 Ⅰ期の遺構(7)
Pl. 26 Features of phase 1(7)



1. 4号建物柱5断面(南から)



2. 4号建物柱6(西から)



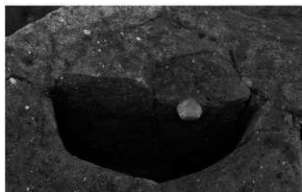
3. 4号建物柱6断面(西から)



4. 5号柱列柱1(西から)



5. 5号柱列(南から)



6. 5号柱列柱1断面(西から)



7. 5号柱列柱2(北から)

図版27 1期の遺構(8)
Pl. 27 Features of phase 1(8)



1. 5号柱列柱2礎板石除去状況(北から)



2. 5号柱列柱2断面(北から)



3. 5号柱列柱3(南から)



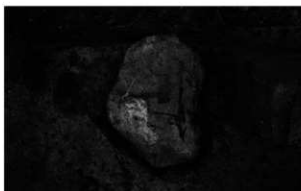
4. 5号柱列柱3断面(西から)



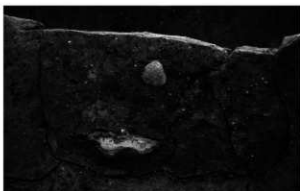
5. 6号柱列柱1(西から)



6. 6号柱列柱1断面(西から)



7. 6号柱列柱2(南から)



8. 6号柱列柱2断面(北から)

図版28 Ⅰ期の遺構(9)
Pl. 28 Features of phase 1(9)



1. 6号柱列柱3(北から)



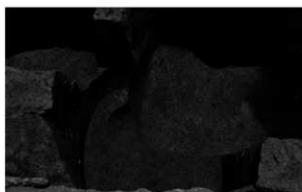
2. 6号柱列柱3断面(南西から)



3. 8号柱列柱1(西から)



4. 8号柱列柱1断面(南から)



5. 8号柱列柱2(北から)



6. 8号柱列柱2断面(南から)

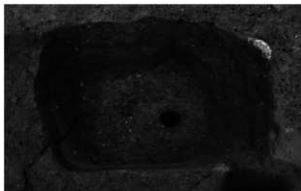


7. 8号柱列柱3(南から)



8. 8号柱列柱3断面(北から)

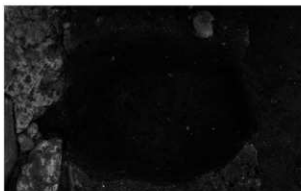
図版29 Ⅰ期の遺構(10)
Pl.29 Features of phase I(10)



1. 10号柱列柱1 (西から)



2. 10号柱列柱1 断面(西から)



3. 10号柱列柱2 (東から)



4. 10号柱列柱2 断面(北から)



5. 2号池状遺構(南から)

図版30 Ⅰ期の遺構(11)
Pl. 30 Features of phase I(11)